

めざす子ども像

地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切にする子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子

取組目標

地域と学校園、保護者との連携を深め、地域と学校園が連携し協働した取組を充実させるとともに、ボランティアスタッフとして地域人材を積極的に活用する。

【今年度の取組紹介】

春日中学校区地域教育協議会では、今年も様々な事業に取り組むことを計画しましたが、コロナ感染症対策のため、その多くが中止あるいは縮小となりました。多くのボランティアスタッフに支えられ、徹底した感染防止対策のもと、美化作業や放課後の学習支援にも取り組みました。また、「みんなの学習クラブ」を活用することでタブレット端末を活かした学習活動支援事業の充実につながりました。



【わかるわかる学習教室会】

また、今年度は2度の開催となりましたが日本漢字能力検定も行われました。他にも多くの方たちのボランティア協力によって登下校の安全見守り活動などが行われました。そして、今年度のふれあい文化祭では、ギターマンドリン部と吹奏楽部の演奏がありました。また、リモートによる逢香ふれあいオンライン書道教室の体験も行われました。



【ふれあい文化祭】

【今年度のまとめ】

地域の方々の協力を得て、子どもたちが地域の方々と触れあったり地域の方々に見守られたりすることは、自分の住む地域やそこに暮らす人々を愛する心を育てる良い機会となりました。コロナ禍の影響は決して小さくありませんでしたが力を合わせ様々な事業を成し遂げられたと思われまます。登下校時の安全見守り活動で子どもたちと地域の方々が交わす笑顔に、「地域の子は地域で育てる」という意識があらわされていました。

【来年度に向けて】

地域と学校、園、家庭の連携をさらに強いものにしていくことが大切です。そのための地域人材の活用が求められています。特に地域で育った子が、大人になって地域に帰ってくる、地域の活動に参加する、そんなサイクルを作っていくことが求められています。

めざす子ども像 **地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切にする子・なかまを大切にする子・学習を大切にする子**

取組目標 **地域の方との関りを通して、生徒自身が必要とされている存在であることを認識させ、自尊感情の高めることで、学習への意欲の向上と規範意識の育成につなげたい。**

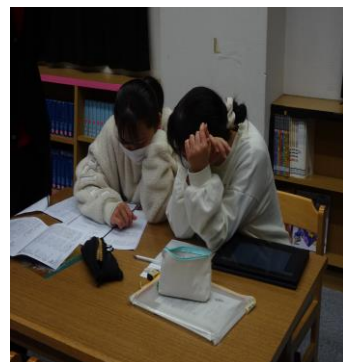
【今年度の取組紹介】

本年度も昨年度に引続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、キャリア教育としての「職場体験」などの各種体験学習については中止せざるを得ない状況となり、全ての取組を実施することはできませんでした。

しかし、本校が長年にわたって取り組んできている学習活動支援事業として学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るための放課後学習会「わかるわかる学習会」には重点的に取り組みました。

「わかるわかる学習会」では、生徒の学習進度に応じて、基礎学力の定着や発展的な学習に取り組んでいました。生徒たちは、持参した問題集などを使って学習し、生徒一人一人に配付されたタブレットを使って学習に取り組んだりしていました。タブレットにデジタル教材「みんなの学習クラブ」を導入したことにより、小学校から中学校までの学習内容が容易に復習できるようになりました。

自分の自学自習を基本としますが、大学生を中心としたボランティアスタッフにアドバイスをもらいながら熱心に学習に取り組んでいました。

**【今年度のまとめ】**

学ぶ意欲のある生徒からの「勉強がわかるようになりたい」という思いを受けて始まった「わかるわかる学習会」も13年続いています。生徒たちは、ボランティアスタッフとともに学習に取り組み、「勉強がわかるようになった」と実感するとともに、自信が芽生え、学習意欲の向上につなげることができました。また、タブレットを使っての学習は、生徒たちが自分のペースで学習するのに有効な手段となりました。

【来年度に向けて】

今年度の取組への成果と課題をふまえ、来年度も「わかるわかる学習会」や今年度実施できなかった「各種体験学習」などの学習活動支援事業、「出前で部活」などの地域交流事業に引き続き取り組んでいきたいと考えています。

めざす子ども像 **地域とのかかわりを大切にする子・自分を大切に**

にする子・なかまを大切ににする子・学習を大切にする子

取組目標 **済美の町と人、そして奈良の町と人と関わる体験活動を行うことで、地域に誇りを持つ取組を進めていく。**

【今年度の取組紹介】 ☆世界遺産学習事業☆

全学年 御霊神社秋季例大祭お渡り式

3年ぶりに御霊神社のお渡り式が行われることとなり、平安時代の装束に身を包んだ人たちやお神輿の行列が済美小学校校区を練り歩きました。今年は宮司さんに協力をお願いして、運動場に入ってもらい全校で地域の伝統行事を見ることができました。このお渡り式を見るのが初めての子どもたちも多く、獅子舞やお神輿、平安時代の装束を間近で見られて大喜びしながらも、済美の町の歴史を感じることができました。



3年生「済美小学校と地域の昔のお話」「せいびの町を事故や事件から守る活動」

～地域の方をゲストティーチャーにお迎えして～

社会の学習として、済美小学校と地域の昔の様子や移り変わりについて京終駅の駅長さんご夫妻に来ていただき、お話を聞きました。明治時代の写真を見ながらこの数十年でのあまりの変わりように、子どもたちは驚きを隠せませんでした。



「安全見守り隊」の方にも来ていただいて「せいびの町を事故や事件から守る活動」についてもお話していただきました。どんな活動を、どのような思いで行っているのかを教えていただき、感謝と自分たちが住んでいる町を誇りに思う気持ちがさらに高まったようです。

【今年度のまとめ】

今年度は以前から取り組んできた活動を規模は若干縮小させながらではありますが行うことができました。新たな取組として、済美の町を誇りに思える体験や地域のために活動してくださっている人の話を聞いたことはとても有意義だったと考えます。

また、心を育む事業で芸術鑑賞会では伝統芸能「狂言」を見て体験し、生け花体験では自分たちで制作した花器に地域の方の指導を受けて花を生けるなど、地域の方とともに学び、喜びを共有できる活動ができました。

【来年度に向けて】

これからも、地域連携を大切にし、子ども達の心を豊かに育み、「済美・奈良を誇りに思う子ども」を育てる取組を進めていきたいと考えています。

めざす子ども像

地域とのかかわりを大切にする子
自分を大切にする子
なかまを大切にする子
学習を大切にする子

取組目標

大安寺っ子、地域で学び、つながろう**【今年度の取組紹介】**

1年生・3年生は敬老会の方と昔遊び体験やかきもち焼き体験、サツマイモ栽培収穫や八丁水菜を栽培収穫するなど、各学年の子どもたちが地域の方と一緒に活動することができました。活動する中で色々な交流があり、終わってから「昨日、帰り道で地域の人と会ったよ。」「あいさつできたよ。」など活動を通じて地域の方とつながりをもっていました。

野菜作りにおいても、地域の方は知識が豊富で教員では知らないことを多く教えていただき、教員にとっても実りのあるものでありました。



5年田植え体験



校内ペンキ塗り

【今年度のまとめ】

各学年一回は地域の方と会う体験を実施することができました。オンラインも良い点もありますが、やはり実際に体験することの大切さを感じた一年でありました。

今年度は、新型コロナウイルス感染対策が徐々に緩和されましたが、昨年と同様、行事が中止になったり、活動する内容もできるだけ少人数での作業・活動などで実施することもありました。しかし、敬老会との行事や地域の方との環境整備など3年ぶりに多くの方と関わることができました。

来年度も、感染症対策をしっかり行いながら、地域の方々と様々な行事



八丁水菜栽培・収穫

【来年度に向けて】

子どもたちにとって地域の方と様々な活動することは実りのあるものでありました。今後は、教員の働き方改革も考えながら取組を進めていきたいと考えています。

また活動に参加して下さる方々の高齢化・固定化が進んでおり、地域での新たな人材発掘という課題もあります。来年度も、今できることと、子どもたちにつけさせたい力を考えながら、実施していく必要があります。来年度も感染状況を見極め、地域の方の協力を得ながら大安寺小学校の子どもたちを育てていきたいです。

めざす子ども像

地域とのかかわりを大切にする子/自分を大**切にする子/なかまを大切にする子/学習を大切にする子**

取組目標

地域とのふれ合いを通して、郷土愛やコミュニケーション力を育む。
また、事業での関わりを通して、子どもと地域、学校と地域、地域同士のつながりを深めていく。

【今年度の取組紹介】

今年度も昨年度に引き続き、6年生が卒業を目前に控えた3学期に地域の方々の協力を得て、校区内の環境美化活動を行うことができました。

自分たちが6年間毎日登校した通学路に落ちているごみを拾うことで、地域に愛着をより一層感じる機会と同時に地域の方々と一緒に作業することで地域の方々に見守っていただいていることを実感できるいい機会となっています。

1・2年生の生活科の学習で1年生はチューリップの球根、2年生はビオラの苗を一人一鉢で育てます。今年度は、地域の方々の協力を得て、チューリップの球根を植えたり、ビオラの苗を植えたりする活動のお手伝いをさせていただきました。

子どもたちは、ていねいに土をかぶせた後、水やりをして芽が出てくるのを心待ちにしていました。

【環境整備・校区のごみ拾い】



【地域交流・花の苗植え】



【今年度のまとめ】

コロナ禍で地域の方々と一緒に行える活動が制限されましたが、地域の多くの方々がこんな状況だからこそ子どもたちのために何かできることはないかと尽力してくださいました。学校と地域が協力して積み重ねてきた取組を今後も続けていきたいです。

【来年度に向けて】

地域の子どものための健全育成のため、コロナウイルス感染症予防対策をしながら今までの「チーム済南」の活動を続けていきたいです。今年度も6年生の卒業前の奉仕活動（校区のごみ拾い）を継続して行うことができました。自分たちが住んでいる地域をきれいにすることで地域への愛着を感じさせるいい機会となったので、次年度以降も定着できるようにしていきたいです。

めざす子ども像

- ・ 地域とのかかわりを大切にする子
- ・ 自分を大切にする子
- ・ 仲間を大切にする子
- ・ 学習を大切にする子

取組目標

子ども達にとって地域とのつながりを意識できるふれあい活動事業を中心に、様々な経験や体験を通して地域とのつながりを強く感じられる取組を行う。

【今年度の取組紹介】

感染対策を行いながら、済美幼稚園ならではの取組を少しずつ戻すことができました。

◆まず、『ならまちたんけん』です。今年度も地域の方に安全指導・案内をしてもらい、音声館・庚申堂・からくりおもちゃ館や少し足を延ばし、元興寺・興福寺など、3回実施しました。子ども達は地域の方からその由来や言い伝えを聞き、興味を持って見ていました。

身近にある地域の良さを見たり聞いたり体験したりすることができました。また、保護者も一緒に参加する姿が見えています。今後も、子ども達にとって、地域の方々が身近に感じ取れるものにしていきたいです。

◆次に『新年を祝うお茶会』です。日本の伝統文化に触れる体験です。地域の方々がフルートと琴の生演奏を聴かせてくれます。続いて地域のお茶の先生に作法を見せてもらったり、お茶の点て方を学んだりしています。その後子ども達はお茶を点てて味わいます。また今年は自由参観とし保護者の方に見ていただきました。保護者の方と一緒にお茶の心にふれ、いつもとは違う雰囲気を感じる事ができました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍でも地域の方との関わりを少しずつ戻しながら、子ども達にとって地域とのつながりを意識できる活動（「ならまちたんけん」・「新年を祝うお茶会」・「親子花苗植え」・「絵本の読み聞かせ」・「子育て支援」・「ダンス・サッカークラブ」・「押し花教室」等）を地域の方にご支援いただきました。たくさんの方々との関わりを通して、子ども達に豊かな心が育ってきています。また、友だちと一緒に自分たちで遊びや生活を進めていこうとする気持ちを持てるようになってきました。保護者からは、「ならまちたんけんやお茶会など、親が教えられないことを地域の方から学んで貴重な体験をさせてもらっている」「これからも続けてほしい」という意見が多く聞かれます。子ども達は、さまざまな経験から、思いやりの心・挑戦する心を持てるようになってきていると感じています。

【来年度に向けて】

地域の方々から多くのことを学び、引き続き幼稚園が地域の子育て支援の拠点となるよう、感染症対策を行いながら、取組の精選を含めて、連携をさらに深めていきたいと考えています。

めざす子ども像

○地域とのかかわりを大切にする子**○自分を大切にする子****○なかまを大切にする子****○学習を大切にする子**

取組目標

家庭・地域・幼稚園が一緒になって事業に取り組む中で、子どもの現状を知り、共に子育てをする。

【今年度の取組紹介】

地域交流事業として、PTA さんとの共催で「幼稚園まつり」を行いました。5歳児は自分達でつくった神輿を担ぎ、4歳児は鳴子をならしながら園庭をまわりました。地域の方には和太鼓をたたいてもらったりうちわを振ってもらったりして、盛り上げていただきました。その後、PTA さんが準備してくださったコーナー遊びや、地域の方とじゃんけんをしてシールを3枚集めるとお菓子をもらえる遊びを楽しみました。子ども一人一人が地域の方と自然と関わることができ楽しいまつりになりました。



地域体験事業として、農業委員さんにお世話していただき大安寺の畑にジャガイモやサツマイモの苗を植え、親子で収穫する体験をさせていただきました。園内でも菜園活動はしていますが、大きな畑での栽培は初めてで、時々畑に苗の生長を観察しに行ったりしながら、収穫の日をととても楽しみにしていました。ジャガイモもサツマイモもとても大きく、量も沢山収穫することができ大喜びでした。持ち帰った野菜は各家庭で調理していただき、翌日には「おいしかった～」と報告してくれました。地域の方や保護者と共に菜園活動に取り組むことで地域の方の優しさを感じながら食への関心が深まりました。



【今年度のまとめ】

お茶会では、「お茶に関わってくれている多くの人に感謝の気持ちをもって、お茶をたてること」や、「優しい気持ちでお茶を点てること」など、普段の生活の中でも大切なことを教えて頂きました。英語遊びでは、英語で歌ったりゲームをしたりしながら楽しく英語に親しみ、心が通い合うふれあいの時間をもつことができました。キッズサッカーでは、サッカーだけではなく、様々な運動遊びを通して体を動かす楽しさを感じ、心身共に逞しさが見られるようになりました。また今年から新たに「運動遊び」「人形劇」を取り入れ、子ども達の経験の幅が広がりました。コロナ禍であり、地域の人との交流は活発にできませんでしたが、少ない機会を大事にしながら触れ合うことで地域の方々を身近に感じ親しみをもつことができたのではないかと思います。また、読書活動や栽培活動など1年を通して保護者に多く関わってもらうことで、親子でふれあう機会が増え関心を深めてもらうことができました。このような活動を通して子ども達の優しさや温かさなど様々な感情を豊かに育てることができたと思います。

【来年度に向けて】

地域交流については、感染症対策をしながら事業内容を工夫し実践できるようにしたいと考えています。子ども達には地域の方の温かさや気持ちのつながりを感じてほしいと思っています。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に**誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

合言葉を『三笠はひとつ、三笠はならのまほろば』とし、奈良の中心地としての文化・誇りを再確認し、新たな郷土愛や誇りを育む。

【今年度の取組紹介】

○子ども未来会議

今年度は「私たちのまちを盛り上げる活動（遊び）をかんがえよう！」をテーマに各小中学校で事前にアンケートを実施し意見を持ち寄ったのオンラインでの話し合いとなりました。当日は地域の方や大学生が司会を務め、小中学生が積極的に意見を出し合いました。話し合



いでは、お祭り（ものづくり・ゲーム・花火大会）、みんなで三笠校区清掃活動、古都奈良を歩こうスタンプラリー、人間オセロ（タッチ鬼ごっこ）、三笠校区運動会、脱出ゲーム（クイズを解きながら）などのたくさんの提案が出されました。

○おうちで楽しくチャレンジ（本の帯、「三笠エコスタイル」デザイン募集）

夏休みに、昨年の子ども未来会議で決めた「わたしたちが考える環境を守るための4つのお約束」からイメージする「三笠エコスタイル」のデザインを募集しました。園児から児童・生徒までの幅広い子どもたちの参加があり、昨年に比べてたくさんの応募がありました。

各校での展示、広報紙での掲載に加えて、のぼり旗とポスターを作成し各校園で掲揚することができました。子どもたちの考えたデザインや地域の事業をより多くの方に知っていただく機会になりました。

【今年度のまとめ】

ここ数年は、新型コロナウイルスの影響により中止が相次ぎましたが、状況に応じて新しい提案・検討を繰り返してきました。できることを継続し、さらに発展させるように取り組んできました。

感染予防対策を講じて実施できたオンラインでの子ども未来会議では、将来の地域を支える人材交流の場が形成でき、子どもたちの育ちと学びを実感することができました。また、「おうちで楽しくチャレンジ」など継続した取組を地域への広報活動としても生かすことができるなど、よりよい活動の内容に発展させられました。

【来年度に向けて】

来年度は、新型コロナウイルスの影響を受ける以前のような地域活動に戻していくことを目標に開催の規模や時期などを各校園と相談しながら段階的に進めていきたいと考えています。また、事業に対する子どもたちの取組の意欲が高いことも生かせるように、実施できる新しい事業の検討やこれまでの事業を発展的に進めていきたいと思います。地域教育協議会の活動への理解と啓発を進め、地域の絆と協働による地域の活性化につながるよう取り組んでいきます。

めざす子ども像 **郷土を愛し 夢と希望をもち 自分自身に誇りをもって
未来を切りひらく子ども**

取組目標 学校を支援してもらっただけが目的ではなく、地域力の醸成や住民自身のやりがいを感じる場をつくり、地域と学校との間に良好（双方にメリット）な関係づくりをめざす。

【今年度の取組紹介】

本校は地域教育協議会を『コミュニティ・スクール』の四つの部会である「学び支援」「育ち支援」「地域連携」「学校評価」の実働組織である「地域連携」として位置づけ活動しています。部会は、学校の教育目標を学校・家庭・地域で共有し、組織的・機能的に運営していくことで職員、保護者、地域の協働意識を高めるとともに、生徒の抱かえている課題をそれぞれの立場で把握し、具体的な活動に取り組み、課題の解決に努めています。教員が子どもと向き合う時間確保のため、図書ボランティア、キャリア教育など教育課程内にも支援を広げています。



さまざまな実社会で経験を持つ大人が工夫を凝らした授業を展開することにより、子どもだけでなく教員も課題解決力の向上や、明確な教員としての目的意識・責任感を養うことにつながっています。今年度も、新型コロナウイルス感染予防のため活動の制限はありましたが、地域の清掃活動に参加し、地域の方々との活動を通して、社会性やコミュニケーション能力を育み「生きる力」を培ってきています。またキャリア教育として様々な業種の方にお話をいただいたり、企業勤務経験者などの地域住民に面接官として進路に向けた面接練習をしていただいたりすることで勤労観・職業観を養い、社会自立をしていくことに対する目的意識を持たせることにつながっています。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染防止対策を講じて学校内での「ゲストティーチャー」や「面接指導」等に地域の方々に来て頂き、実施することができました。地域の方々には、教員とは違った視点からたくさんのお話を子どもたちに伝えて頂き、子どもたちの学びを支えて頂きました。コロナ禍の中、できることを模索し、その結果として地域の清掃活動や図書ボランティアの方による学校図書館の整備など少しずつではありますが、活動することができました。今後も状況に応じて、新しい形も考えながら計画・実施していきたいと思っております。

【来年度に向けて】

これまで培った地域コミュニティでの協働体制を大切に、子どもたちのため、学校や地域のために活動することを通して、『みんなで支え、みんなで育てる』と同時に『学校・地域のみんなが育つ』ための核となる組織づくりを目標にさらに取り組んでいきます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、**自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

世界にはばたく世界で生きる椿井っ子**【今年度の取組紹介】**

奈良市の中心部に位置し、多くの寺社や観光名所が校区内にある本校は、長い歴史と伝統を有する学校であり、地域の方の愛校心が強く、また学校教育に対する関心も高い地域です。そのため何事にも協力的です。こういった素晴らしい環境や地域の教育力を生かし、自分たちのまちに誇りをもつとともに、積極的に活動し、表現や発信のできる児童の育成を目指して取組を進めてきました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の流行下で、活動にも様々な制限がありましたが、できる限り今までの取組を踏襲する形で事業を進めました。今年度は行事等を精選しながら活動を行ってきました。学校地域支援事業においては、人・モノ支援センターの皆様の協力を受け、盲導犬学習を行いました。郷土学習事業雅楽鑑賞学習では、地域で活動している方に来校していただき、本物の雅楽を鑑賞して郷土に伝わる芸術を学ぶ機会を設けることができました。



雅楽鑑賞学習

【今年度のまとめ】

学校の教育活動に非常に協力的な地域の方々に支えられて取組を進めていくことができました。コロナ禍で非常に制限の多い中でも、感染拡大防止策を講じながら活動することができました。環境整備事業においても、学校や地域を大切に思う方々の存在に子どもたちが改めて気づき、感謝する気持ちを育てることができました。

【来年度に向けて】

来年度は、今まで続けてきた取組の見直しを行い、継続を基本線として可能な範囲での精選を検討していく予定です。これまで協力していただいた地域の方々を大切にしながらも、新たな地域人材の活用など取組をより発展させ、本校の教育目標の達成を図れるようにしていきたいと考えています。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望を持ち、自分自身に 誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

夢を持ち、夢を語り、夢を叶えるたくましい子どもを
育てる大宮アクション
～進めよう 学校・地域・家庭の連携～

【今年度の取組紹介】

◆ 図工サポート・家庭科サポート

今年度は新型コロナウイルス感染症対策をしたうえで、7月から2月にかけて図工サポートや家庭科サポートという新たな取組を行いました。

図工サポートでは、児童がカッターナイフ・のこぎり・彫刻刀や電動糸のこぎりを使う活動の時に、児童の安全確保と学習支援のために来ていただきました。のこぎりや彫刻刀などは普段から使う機会がなく、不慣れな児童が多いため大人の目がたくさんあることで児童の怪我防止になりました。

また、家庭科サポートでは、ミシンを使う裁縫や包丁を使う調理実習の時に同じく児童の安全確保と学習支援のために来ていただきました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症のため調理実習ができなかったので、5・6年生共に初めて包丁を使う児童が多く、各班に入っていた家庭科サポーターさんは非常に心強いサポートになりました。この支援体制が大宮小学校の強みであると思います。



【今年度のまとめ】

オンラインを活用した「子ども未来会議」、夏休み中の「おおみや未来塾」、そして年間を通しての図書室の環境整備や校内の環境整備など、地域の皆様の支援をいただきながらたくさんの取組を実施することができたことに感謝で一杯です。この地域と学校の繋がりが「郷土を愛し、夢と希望を持ち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども」の育成に大切な役割を果たしていると思います。

【来年度に向けて】

地域ボランティアの方々の高齢化に伴い、新しいボランティアの発掘が今後もまだまだ必要になります。学校ホームページ等様々な方法を用いて情報を発信し、さらなる協力者を募っていきたく思います。そして、コロナ対策やコーディネーターさんの負担軽減などをまだまだ検討していく必要があります。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望を持ち、**自分自身に誇りを持って、未来を切り開く子ども**

取組目標

自尊感情をもち、地域・仲間とつながって健やかに生きる児童を育成するための地域教材や人材を生かした取組の充実**【今年度の取組紹介】**

本校の取組の特色の1つであるのが、「雅楽体験」を取り入れた音楽教育を活用した教育活動です。南都楽所の杉浦孔子先生を講師に招き雅楽体験学習を行いました。雅楽について映像を見たり、雅楽の楽器を演奏したりしました。日本の伝統芸術文化を体験できる貴重な機会になっているのはもちろんですが、大西小の伝統を受け継ぐ誇りを感じ、地域仲間とつながる思いを味わうことができていました。



今年度は本校の前を流れる佐保川とその自然環境をテーマにした「佐保川環境学習（リバーウォッチング）」にも取り組むことができました。まだまだ色んな行事に制限がある中ですが、地域の方々と共に「佐保川清掃」・「河川植樹」活動も行いました。「わが町を流れるふるさとの川を大切に思う心」を育むことができ、「大好きな大西小を誇りに思う心」の育みにつながっていることを実感する取り組みとなりました。1月9日（祝）には、第10回校区成人式（20歳を祝う会）を行うことができました。今年度も短時間で密にならないように内容でしたが、新成人にとって少しでも成人の門出になる行事になるように恩師も駆けつけてくださいました。

【今年度のまとめ】

With コロナで、少しずつ活動は戻りつつありますが、まだまだ、限られた活動となりました。本来なら、豊富な行事に学年間で参加体制を調整し、地域の環境保全の取組や行事を各学年の教育課程に効果的に組み込んで実施する予定でした。美しい佐保川の川辺で四季を通じて集えるのは、「佐保川清掃」をはじめとする日頃の様々な取組があつてのことということ改めて感じました。

また、第10回目を迎えた校区成人式（20歳を祝う会）では懐かしい校舎に集い、和やかなひとときを過ごしました。

【来年度に向けて】

コロナ感染予防と活動再開とのバランスを取るのがなかなか難しい状況ではあります。また、地域の高齢化などに伴い、地域人材の確保が厳しくなっている状況があります。地域コーディネーターさんに協力していただきながら「地域ボランティア募集」の呼びかけを充実していき、人材確保をしたいと思います。また、各取組を今後も継続して無理なく充実させていく上でも、地域・学校・家庭の3団体が熟議を重ねながら、より効率的かつ効果的な事業となるよう、今後も検証・改善を行い、地域・学校・家庭が一体となり、『ふるさとを誇りに思い、大切に作る心』を育てていきたいと考えています。

めざす子ども像 **郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをも**

って、未来を切りひらく子ども

取組目標 **地域にある自然環境や文化的歴史遺産、さらには、地域の豊かな人材を活用しながら、心豊かで人や物にやさしく、地域を愛する子どもを育む。**

【今年度の取組紹介】

< あたたかさ生き物 >

佐保川小学校の校庭の樹木や佐保川周辺の動植物を4年生が学ぶため、奈良・人と自然の会の方に来ていただきました。校庭の樹木の名前や種子の秘密、珍しいジャコウアゲハやウマノスズクサについて実物を見ながら詳しく教えていただきました。また、種子の模型や発芽したドングリを子どもたち一人一人に用意していただき、子どもたちは興味を持って学習に取り組むとともに特徴をしっかりと理解することができました。自分たちの身近にある自然環境について学ぶことで環境を守る活動として、また地域を愛する子どもを育む活動となりました。



< 防災学習 >

佐保川地区自主防犯防災会の方の協力のもと、5年生が防災学習に取り組みました。防災士さんにお話をしていただき、地震などの災害の恐ろしさや自分たちができることで減災に取り組むことの大切さを教えてもらいました。また、本校運動場に設置されている奈良市と地域の防災倉庫の中を見せていただいたり、体育館で簡易テントや災害時のトイレの仕方などを教えていただきました。災害に備えるために自分たちにできることは何かをしっかりと考えることができました。



【今年度のまとめ】

佐保川清掃や佐保川への「ホタルの幼虫の放流」、保護者の方による図書室の環境整備や図書修繕は今年度も取り組むことができました。コロナ禍で中止されていた「おはなしせんと会による絵本の読み聞かせ」「平城宮跡でのマラソン大会」「とんど焼き」、地域の方に教えていただく「昔遊び」と「伝統音楽と楽器の学習」も実施することができました。今年度より新しく「あたたかさ生き物」（本校や佐保川周辺の樹木や生き物を学ぶ）を奈良・人と自然の会の方に、「ギコギコとんとんクリエイター」（のこぎりの使い方を学ぶ）を地域の工務店の方に、「防災学習」を佐保川地区自主防犯防災会の方にお願ひして、学習することができました。

【来年度に向けて】

体験的な活動を通して、地域の方々と触れ合い、佐保川小学校の校区を愛し、地域に誇りをもつ子どもの育成を目指したいと考えます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、 自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

地域の人材や教育力をいかした多様な体験活動を進めながら、人と関わる楽しさを感じ、豊かな感性やたくましい心を育む取組の充実

【今年度の取組紹介】

《体力づくり事業より》

子どもの実態と昨年度の課題を踏まえ、体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるよう「げんきっこクラブ」のゲストティーチャーの方と内容についてその都度話し合う機会をもつようにしました。担任も、子どもの興味や保育者の思い等を伝えることで活動で取り組んだことを好きな遊びの中でも取り入れ、自分達で巧技台を運んでコースをつくり友達同士で挑戦する等、主体的に体を動かして遊ぶ姿が見られるようになりました。運動遊び参観では、保護者の方に観ていただき、活動を知っていただく機会となりました。その後も縄跳びやサッカー、中あて等活動で教えていただいたルールを守り友達と継続して遊んでいました。



《環境整備事業より》

ボランティアの方を募り、年間計画に位置付けて園庭や芝生、花壇等の整備をしていただきました。夏には、芝生で裸足になり水遊びを楽しみ、「裸足で遊んだら気持ちがいい！」と喜び、整備をしていただいた際に「ありがとうございます」と声をかける子ども達の姿も見られました。また、花壇に四季折々の花を植えていただくと「何のお花、植えてるの？」「芽が出てきたよ」と関心をもつ子が増え、豊かな感性を育むきっかけとなりました。花壇に来るチョウチョや芝生に来るバッタ等を捕まえたり、落ちた花びらを使ってごちそうづくりや色水遊びをしたりと、遊びの充実にもつながりました。



【今年度のまとめ】

今年度は内容を工夫することで、すべての活動を実施することができ、多様な経験をすることができました。地域の方ともたくさん触れ合うことができ、コミュニケーション力を高めることにもつながりました。また昨年度の子どもの実態と課題を受け、特に体力づくりに重点をおき、ゲストティーチャーの方と実態や保育者の思い等の情報交換を行ったことで、活動と日々の遊びとがつながっていき、子ども達にとって活きた体験となり、体を動かして遊ぶ楽しさを味わいながら、たくましい心や体を育める成果が見られました。

【来年度に向けて】

子ども達にとって充実した体験活動を継続していくことで、子ども達に身につけていきたい力が培われていくと思われれます。今まで取り組んできた園のねらいや成果、課題を明確化し、移管先の法人に伝え、子ども達の育ちが途切れてしまわないように努めていきたいと思ひます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇**りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

- ・子どもたちの興味・関心に基づいた直接的・具体的な体験活動の実施
- ・子どもが主体的に活動できる環境の構成

【今年度の取組紹介】

〔子育て支援事業〕

民生委員・地域コーディネーターの方々にお力をいただきながらの未就園児保育。来年度から民間移管となることを見据えて移管先法人の先生にも一緒に取り組んでいただきました。毎回一緒に自由に遊んだり、カレンダー制作をしたり、リズム遊び・戸外遊びをしたりする中で、『顔見知り』が増え、新しい園への期待が膨らみました。

〔学習支援事業〕

音楽鑑賞会として地域の方による『演奏会』をしていただきました。オルガン・アルトサクソ・ドラムで、アニメソングや運動参観でのダンス曲、園歌やジャズまで、様々な曲を演奏してくださいました。子ども達も、マラカスやスズを使ってリズムに乗り楽しみました。演奏が終わった後も楽器を触らせていただき、音の出し方や楽器の面白さを教わり、帰りには楽器を習いたいという子どもも出てきました。とても貴重な体験となりました。



【今年度のまとめ】

園外の方との交流が、中々叶わなかった日々がありましたが、栽培活動でゲストティーチャーとして、土づくりから収穫までを、優しくご指導くださったり、民生委員さんがポン菓子実演に来てくださったり、「もうそろそろ刈り時じゃないか？」と園庭の草刈りをしてくださいました。

体操教室・チャレンジクラブでたくましい体を。お話し会や生け花教室、プレハローイングリッシュで豊かな感性を。自然豊かな環境の中で心動かす体験を。物的にも人的にも恵まれた環境の中で、子ども達は安心して学びに向かうことができました。形は変わっても、今後も『地域の中の園』として、保護者や地域の方々にご理解・ご協力いただける園であり続けたいと思います。

【来年度に向けて】

地域の方や保護者の思いもあり、一年間共に活動に取り組まれた移管先法人も、事業の継続を予定しています。今年度の成果や課題を受けて、回数や内容の精選をしながら進めていくため、引き続き地域の方や保護者のお力をいただきたいと思います。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

『奈良を知る 地域を知る』—世界遺産と環境—
～クロスオーバー若草 点から線へ、線から面へ～

【今年度の取組紹介】

コロナ禍により感染拡大防止を鑑み、地域教育協議会定例会を書面で開催し制限を設けながらできることから事業を進めました。中でも若草中学校区のメイン事業である「地域合同文化講演会」は、一部の制限を設けながらも、3年ぶりに従来の参集型により実施することができました。その後、参加者を中心に「コーディネーター会議」を実施し、情報交換を行いました。

＜地域合同文化講演会、コーディネーター会議＞

役員会を中心にコロナ禍における協議会の運営について検討を行い、恒例の地域合同文化講演会については従来の参集型により実施しました。今年度は、東大寺執事長の「上司 永照 様」をお招きし、『華厳～ひとりひとりが華であるという考え方～』と題して、私たちが住む奈良にとっても誇りを持てるお話をしていただきました。中でも、聖武天皇と光明皇后の関係性が垣間見られるお話や、大仏が2回も消失してもちゃんと復元された意味、さらにはあの奈良の大仏がなぜあんなふうに大きなものに作られたのかというお話、そして聖武天皇があんな大きな大仏にどのような願いを託されたのかということが本当によくわかりました。次に大仏をみるときも、きっと今までとは少し違った見方ができると思います。生徒の皆さんも、ぜひ自分が住む奈良に大きな誇りを持ち、また将来どこかで自分が奈良について語る力を育てて欲しいと思いました。生徒、教職員、地域コーディネーターが共に学ぶよい機会となりました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍における感染拡大防止を最優先し無理のない活動を行いました。例年行われている地域合同文化講演会は従来の参集型を追求し、一部制限を設けながら実施しました。コーディネーター会議も実施し、1回ではありましたが対面で顔をあわせ、情報交換ができたのは地域同士、地域と学校の繋がりを継続していく意味でよかったです。

【来年度に向けて】

- ・コロナ禍においてできる事業を工夫しながらすすめていきます。
- ・今年度同様、地域合同文化講演会、地域コーディネーター会議の開催により、コーディネーターの繋がりを継続的に深めていきます。
- ・地域の歴史を学んだり地域のことをよく知った人材の発掘等をすすめキャリア教育の支援に繋げていきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成 学びをはぐくむ

取組目標

【今年度の取組紹介】

◇学習支援

➤「中3学習会」

3年生では進路実現に向けてより確かな学力をつけるために地域の方や大学生のボランティアに協力いただき中3学習会を行っています。

➤「図書館学習」

定期テスト前の期間を中心に全学年希望者による図書館での学習会を行っています。

◇キャリア教育支援

➤「ゲストティーチャー」から学ぶ

キャリア教育の一環として様々な職業の講師の先生を招き職業についての講義を受けたり、実際に職業の実習体験を行いました。美容師、ブライダル関係、写真関係、保育士、警察官、獣医など生徒たちにとってとても興味深く、将来の進路選択に向けて有意義な体験でした。

➤「誕生学」講演会

誕生学など命に関する学習についてゲストティーチャーをお招きし講演を通じて学習することができました。

➤「ミニ講演会」

コロナ禍のなかではあっても、子どもたちにできるだけ豊かで、多様な生き方との様々な出逢いをしてもらいたいという思いから各学期に講演会を実施しました。『手話パフォーマンスのoioi』、『全盲のシンガーソングライター「堀内佳さん」』、『NPO法人あっとすくーる代表「渡剛さん」』、『NPO法人HOMEDOOR「中司年音さん」』。それぞれが実際に体験されたお話だけに、とても説得力があり、わかりやすいお話でした。生徒たちにとってとてもすばらしい出逢いとなりました。



【図書館学習】



【中3学習会】



【誕生学】



【ゲストティーチャー】



【ミニ講演会】

【今年度のまとめ】

コロナ禍において感染拡大防止を鑑み一部制限を設けながらも行事や学習体験を実施しました。保護者・地域の方々に学校に来ていただく機会が少なく、ともに活動する場面が設定できなかったのは残念でしたが、支援事業を通じて将来に向けての学びをはぐくんでいくことができました。

【来年度に向けて】

コロナ禍において来年度もできる事業を精選し感染対策を講じながら地域コーディネーターをはじめ地域の方々との連携をより深め、生徒たちが将来の進路選択に向けての学びをはぐくんでいけるよう継続的な支援をしていきたいと考えています。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、**多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

自分たちの育った校区に誇りを持ち、その素晴らしさを校区内外に発信し、より地域のきずなを深め合えるようにする

【今年度の取組紹介】

今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策で地域教育協議会のほとんどの事業が中止になり、実施することができませんでした。実施できたものから1つを紹介します。

・菜の花プロジェクト事業を通して

本校では、世界遺産学習・環境教育・地域交流の一環で、主に1・2年生の生活科で地域のボランティアの方々や保護者と一緒に取り組みました。

本事業の目的は、3つあります。1つ目は、児童に自身で菜の花の種まきから行い、育て、刈取り、種を採って、その種から搾取した油を東大寺に献納し灯明に使ってもらうことで、千年単位で文化財や伝統を守り、受け継いできた奈良の人々の営みや心との重なりを感じさせることです。2つ目は、菜種の油が食用やバイオ燃料（地球環境にやさしい）として使用し、油の搾りかすや菜の花は、畑の肥料となる循環型社会についても学ばせることです。3つ目は、大人（地域の方、保護者）と児童の世代間の交流や対話を促し、異なる世代との交流を通して、疑問を解決し、他者の思いを受け止めたりしながら、活動を通して「受け継ぐ」ということを体験的に理解させることです。

主な活動の流れは、5月菜の花刈取り、6月脱穀と搾油、9月東大寺に献納、10月種まき、11月移植です。

**【今年度のまとめ】**

本校区は、世界遺産に囲まれた素晴らしい環境の中にあり、様々な行事・伝統等、地域が守り続けてきた事柄が多くあります。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業ができるかどうか心配でした。しかし、何とか、子どもたちの為に、「ひと」「もの」「こと」との出会いを演出する事業が実施でき、生まれ育った地域に誇りを持ち、地域の方々とのつながりが深まったように思います。地域の方々との「であい」の演出を今後も大切に、この活動を進めていきたいです。

【来年度に向けて】

地域の「ひと」「もの」「こと」と出会い、生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路選択ができる子どもを育てる取組を、コロナ過に対応した形に変えながら、進めていきたいです。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

佐保に生きる（地域と共に）

【今年度の取組紹介】

自然環境学習～ビオトープやバタフライガーデンを通して～

12年目を迎えるビオトープでの自然環境学習では、引き続きNPO法人や専門家の指導を受けながら、子ども達が佐保の自然や環境から課題を見つけ、自らの問題として捉えながら、一人一人が自分にできることを考え、実践していくこと学んでいます。今年度は、本校創立100周年事業の一環でビオトープを改修し、専門家の指導を受けながらホタルを育てる計画を進めました。

地域連携活動～マーチングバンドの演奏～

昨年までは新型コロナウイルス感染症の影響で、発表の場はもとより練習時間の確保もままなりませんでしたが、今年度は運動会や創立100周年記念式典・地域団体主催のスポーツ大会など、発表の場があったことで、児童のモチベーションもあがりました。保護者や地域の方は、久しぶりの演奏に大変感動しておられました。

地域連携活動～英語でアート～

地域の方の紹介で、外国人の講師をお招きし、英語で指導を受けながら6年生が作品作り（左写真参照）に取り組みました。創立100周年記念式典の会場にも展示し、多くの方にご覧いただきました。



【今年度のまとめ】

ビオトープの学習では、地域の方や大学の先生の協力のおかげで、ホタルのエサとなるカワニナの生息状況を調査するなど、児童だけでは難しい学習に取り組みました。マーチングバンドの活動では、久しぶりに発表の機会を得たことで、子どもたち自身はもとより保護者や地域の方にも大変喜んでいただけました。英語でアートは、単年度の取組でしたが、想像以上の作品の仕上がりに子どもたちは満足していました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、今年度実施できなかった活動も積極的に実施していきたいと考えています。活動予算の使途が制限されているため、広げにくい活動もありますが、知恵を振り絞って活動を継続していきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

地域とのふれあい、人・もの・こと との豊かな体験活動を通して、学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童を育てる

【今年度の取組紹介】

今年度は、コロナ禍以前に行ってきた様々な事業について、形を変えたり新しい形にしたり模索しながら、多数のボランティアの方々の協力のもと取組を行うことができました。

本校では、①生活科や総合的な学習の時間を中心とした多様な体験や多くの方々との出会いの場の設定、②図書室や学年園を中心とした学習環境整備を進めています。新興住宅地が多くを占める本校区において、これらの学習を通して児童に地域への理解を深め、愛着や誇りを持たせることを主眼としています。今年度は、新たに昔遊び体験の取組をスタートさせました。

本校の特色の一つである「菜の花プロジェクト」は、世界遺産学習、環境教育へと体系的につなぎ、魅力ある総合的な学習の時間を構築し、特色ある学校づくりをめざしています。今年も、とれた菜種油をボランティアの方々とともに、5年生が春日大社と東大寺に灯明油として届けました。子どもたちにとって大変貴重な機会を与えていただくことができました。



1・2年生昔遊び体験



5年生 菜種油奉納



全学年 読み聞かせ

【今年度のまとめ】

今年度も感染状況を注視しながら、「菜の花プロジェクト」を中心に、安全見守り活動、学習支援活動を深化・発展させてきました。

「お話したつきゅうびん」の方々が朝の読書の時間（毎月2回）に、子どもたちの心に響く素敵なお話を届けてくださいました。「今日はどんな絵本かな？」「前に読んでもらった〇〇を図書室で借りた！」と読書意欲へ繋がっています。

見守り安全の方々には「命を考える集会」に参加していただき、命の大切さ、どんな思いで毎日見守っているのかお話しをしていただきました。子どもたちは、お話を聞いて、自分たちの安全を見守って頂いていることへの感謝の気持ちを手紙に書きました。

また、昔の町について学習や紙すき体験では地域の方にゲストティーチャーとして来ていただいたり、昔遊び体験では名人として子どもたちに手取り足取り教えていただいたり、たくさんの方々に子どもたちは関わることができました。教科書では学べない、豊かな学びにつながりました。

【来年度に向けて】

多くの方にご協力いただき安全で安心な学校生活を送ることができています。当たり前の裏にある多くの方々の助力を忘れず、常に感謝の気持ちをもち続けたいと思います。今年度同様、感染対策を講じ、工夫しながら活動を行っていきます。地域との絆、ふれあいを大切に、地域の方々から教えて頂いたことを学習活動に生かし、深い学びへとつなげていきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、多様な進路**選択ができる子どもの育成**

取組目標

地域の自然環境や様々な人との関わりを活かした体験活動を構築し、豊かな心とたくましい体を培い、佐保幼稚園で学んだことを誇れる子どもの育成

【今年度の取組紹介】

○ 大佛鐵道のことを知ろう！（わくわく地域連携事業）

絵本「イナヅマごうがやってきた」を見たり、大佛鐵道公園に行ったりして、日頃から大佛鐵道に親しみをもっていた子ども達。そこで、地域で活動されている大仏鐵道研究会の方をゲストティーチャーに迎えお話を聞くことにしました。機関車が走る風景は想像できるのですが、時代の流れを理解することが難しい子ども達は、映像や写真を見せていただくと「そこ家の近くや」「え、そこ走ってたん」と、自分達の住む地域と大佛鐵道がつながった瞬間でした。

また紙芝居も見せていただき、奈良から木津川市加茂駅までの様子も知ることができました。機関車や鐵道だけでなく、自分達が暮らす地域や歴史にも興味をもつ経験になり、後日、家族で遺構を見に行った話も聞かれました。



○ さほっ子クラブ（文化ふれあい事業）

劍道・柔道・茶道から希望のクラブを選び年間7回、講師の先生方に指導していただくさほっ子クラブは、今年で18年目を迎えました。子ども達は、日本の伝統文化を通して、それぞれのクラブで新しいことを学んだり、できるようになったりします。今年度は、クラブが3つになりましたが、子ども達は真剣に取り組み、礼儀作法も身に付けることができました。日本の伝統文化に触れる貴重な経験となっています。



【今年度のまとめ】

今年度は本園創立70周年、佐保小学校創立100周年の年でもあり、より地域の幼稚園として子ども達が「佐保を知る」そして「佐保を好きになる」ことを願い、職員と地域の方が取組の方法を検討しながら進めてきました。園の実情もあり予定通りに進められなかったところもありましたが、「大佛鐵道のことを知ろう」など、新しい取組を通して地域の方とのつながりが広がり、子ども達も地域により親しみを持つこともできました

【来年度に向けて】

保護者の方と毎日関わる事ができるという幼稚園の利点を活かし、子どもの姿を啓発し、時には一緒に取り組む機会をつくるなどの工夫をして、保護者の方の地域やこの事業への意識も高めていきたいと思ひます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、**多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

地域や小学校との連携を大切にし、様々な人とのふれあいや体験活動を通して豊かな心と体を育む。

【今年度の取組紹介】

○体力づくり事業では、フラフープの講師を招いてフラフープのショーを見せていただきました。その後、フラフープの持ち方や回し方など、指導をしていただきました。初めてフラフープのいろいろな遊び方に魅了され、友達と一緒に合わせる心地よさを味わうことができ、貴重な機会となりました。



○畑づくり事業では、畑の先生として地域の方に来ていただき、苗の植え方を教えてもらいました。夏には水やりや草引きなどの世話をし、秋になると大きく育ったサツマイモを収穫することができました。畑の土や苗の生長、野菜に触れることで収穫の喜びと食への感謝など豊かな心の育ちと共に、水やり・草引き・虫探しなど世話や発見をする喜びは貴重な体験となりました。



○おはなしの会事業では「おはなしの会」の方々に来ていただき紙芝居や絵本の読み聞かせや素話、手遊び、パネルシアターなど様々な形式でお話を聞かせていただきました。昔話や季節の話など子ども達は毎回楽しみにしていて、集中して話を聞く力に繋がっています。



【今年度のまとめ】

コロナ禍で回数や人数の制限を行いながら事業を進めてきましたが、熱心で温かい地域の方々に支えていただき、様々な生活体験をすることができました。畑づくり事業では、地域の方からの丁寧な指導を通して野菜の生長や収穫の喜びなど様々なことを教えていただいたことは、学び多い体験となりました。また、体づくり事業では、フラフープ教室でフラフープのいろいろな遊び方を指導していただいたことで、子ども達がフラフープを好きになり、室内外で友達と一緒に体を動かして、楽しむことが出来ました。

【来年度に向けて】

これまでの事業を継続し、様々な体験を通して豊かな心と夢を育むために、園・家庭・地域の連携を深め、環境構成の工夫や保育内容の充実を図り、笑顔あふれるこども園をめざしていきたく思います。地域の方々の力をお借りしながら、地域に開かれたこども園としての役割を果たしていきたく思います。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども

取組目標

「つながる力をそだてよう」
～地域の一員であることを自覚し、誇りを持つ子どもを育てる～

【今年度の取組紹介】

コロナ禍の中、子どもたちが楽しんで地域の方とふれあうことができるよう小学校と地域コーディネーターが数回の話し合いを持ち、1月17日(火)1限目・2限目に1年生の「昔遊びの会」を開催しました。久々の開催に40名もの地域の方が集まってくださいました。3クラス81名のかわいい1年生たちは、4班に分かれて会場を順序良く回りました。体育館では羽根つき、けん玉。教室では駒回し、折り紙、あやとり、ぼうずめくり。どのコーナーも地域の方と1年生とが仲良く和気あいあい昔遊びに取り組み、とても楽しいひとときを過ごすことができました。外は震えるほど寒いのに活気があふれとても盛り上がりました。後日学校の休み時間に伺った時、上達した駒回しやあやとりを「みて～みて～」と自慢げに披露してくれて、当日だけでなく昔遊びに夢中になっている姿が見られました。子どもたちからお礼の手紙が地域の方に届けられ「来年もお手伝いに行きたいです。」という声も。地域の方も子どもも良い思い出になりました。今後も地域とのふれあいを大事にしていきたいと思います。



【今年度のまとめ】

《 昔遊び 》

「子どもたちは地域の方が教えに来てくださることをとても楽しみにしてきました。当日もたくさんの笑顔を見ることができ、今後もこの活動を続けてほしいです。」という声を学校からいただきました。ゲーム好きな子どもたちからは「駒を手のひらにのせられるようになったよ。」「お花の折り紙ができたからあげる」と。地域の方とのふれあいを通して、子どもたちの遊びが広がったのではないかと思います。

【来年度に向けて】

来年度は、コロナの対応も緩和され、より充実した活動が期待できると思っています。子どもたちと、一杯触れあい、つながりを深めていきたいと思っています。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども

取組目標

「つながる力を育てよう」 ～「伏見中 大好き！」と心から言える日のために～ 地域と共に育つ生徒の育成

【今年度の取組紹介】

◆「100万回生きたねこ」の読み聞かせ【読書活動推進事業】

図書ボランティアさんに読み聞かせをしていただきました。

毎年1年生を対象におこなっていただいています。

「前に読んだことがあったけれど、読んでもらうことでまた感じ方が変わりました。」「本のイラストの見せ方が上手で、お話の世界に引き込まれました。」「ぜひ、また来てください。」と、読み聞かせならではの感動を味わうことができたようでした。



◆『本物に学ぶ』【キャリア教育推進事業】

将来の仕事を見すえて、「職業学習（キャリア教育）」を行っています。『本物に学ぶ』と題して地域のその職業の専門家の方々をお迎えし、お話をお聞きし、体験もさせていただきました。今年度も職場体験学習を実施することができなかつたので、1、2年生両方の学年を対象にして3年振りに行うことができました。その仕事のやりがい、大変さ、喜びなどを実際にお聞きし、学ぶことの多い有意義な時間となりました。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症対策をとりながら慎重に活動をすすめました。漢字検定も3回行うことができました。教室、手指の消毒、マスクの着用、検温等、徹底しました。図書ボランティアさんたちは来校する人数を制限し、マスクとマウスガードの併用着用で対策してくださいました。外でおこなっている花植えボランティアや環境整備清掃などは地域の方々と生徒たちが一緒に活動することができました。地域連携を主軸とした、「地域と共に育つ生徒の育成」を目指し、今年度はできることを考えて、取り組むことができました。

【来年度に向けて】

今年度は、地域交流事業（伏見まつり、西大寺地区の防災訓練等）に生徒たちもボランティアとして参加することができました。こんな時だからこそ、情報発信・啓発活動にも力を入れ、コーディネーターやボランティアによる、よりよい体制づくりに取り組みたいと思います。

めざす子ども像 **地域に誇りをもち、心豊かに、共に生きぬく子ども****取組目標** 「いきいきわくわく地域とともに」～伏見でふれ合い、学び、育つ伏見っ子～地域に根ざした「自ら学ぶ子ども 心豊かな子ども たくましい子ども」の育成**【今年度の取組紹介】**

主な柱を「地域連携による『伏見まつり～子どもの笑顔が地域を笑顔に～』の開催」「地域文化遺産学習等を通じた学校教育活動の充実」「共同環境整備作業や本の補修作業等を通じた学校環境整備」とし、取組を進める予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で縮小したものもありました。また、数年ぶりに開催したものもあり、いくつかの取組を実施しました。

「子ども見守り活動事業」では、子どもの登下校の時間に多くの地域の方々に通学路に立っていただき、子ども見守り隊の方々にパトロールをしていただき、安全を見守っていただきました。

「伏見まつり」が3年ぶりに開催されました。小学校、伏見公民館、ふれあい会館の会場は、各団体の出店や警察や消防、自主防災による体験コーナー、体育館や公民館などでの展示や発表などが行われました。また、3か所の会場を回るスタンプラリーも行われ、多くの参加者で大盛況でした。

このように、多くの方々が、より良い学校環境づくりに力を尽くしてくださいました。

**【今年度のまとめ】**

教育活動の活性化、地域拠点としての学校機能の維持向上、子ども・地域・学校相互のより良い関係形成の面において、次のような様子から一定の効果を得ることができたと考えています。

- ・地域の方との交流の機会が少なくなったが、その中でも、子どもたちが地域の方との活動を通して、地域に対する愛着や関わってくださった方々への感謝の気持ち等が育ってきました。
- ・学習を通して、子どもたちが自分にできることを考える等、心豊かでたくましく育つ素地となる活動や体験を行うことができました。

【来年度に向けて】

諸活動に携わってくださる方の世代交代や新たな人材の参加は徐々に進みつつありますが、継続的かつ安定的な人材の確保が課題であると考えます。また、働き方改革の観点からも、事業の見直しの必要があると考えます。地域の方のボランティアとしての参加方法や教職員の地域行事への参加方法を検討していく必要があると考えます。更に、コロナ禍が明けてからも、今までのあたりまえを見直していく観点からの取組の検討も必要であると考えます。

めざす子ども像 **地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども**

取組目標 「出会いと体験から豊かな学びを」ー地域ぐるみの子育てー

【今年度の取組紹介】

読書活動推進事業

【お話の会】と【図書ボランティア】の方々に図書館教育の充実にお力添えをいただいております。お話の会では、各教室で本の読み聞かせをしていただきました。図書ボランティアの方が自作の紙人形・脚本を用いたパネルシアター劇で、本の紹介をしていただきました。コロナの感染状況に応じて、動画を撮影していただきオンラインによる配信もしていただきました。本の修繕や図書館の充実にもお力添えをいただいています。本との出会いを通して、心豊かな子に育ててほしいと願っています。

授業サポート事業

植物の栽培を通して、豊かな学びの場を創造するために、地域の方にご尽力いただきました。お米作り体験、さつまいも栽培体験、野菜栽培体験、花いっぱい運動等にご尽力いただきました。豊かな体験を通して学びを深めることができました。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえつつ、本事業の一層の充実を考えての取組となりました。学校に地域の方が集まっていたいただき、学校と地域の連携がさらに深まり充実した取組が実施できました。読書活動の推進事業をはじめ、田植えや稲刈りの体験学習、環境支援事業（学校周辺の花いっぱい運動）も実施することができました。

ご協力いただいたすべての方のご尽力をもって、体験を通して子どもたちが「心豊かに育つ」学校教育が展開できたと考えております。

【来年度に向けて】

本事業の充実をすべての関係者の皆様のお知恵をいただきながら、「地域に誇りを持ち心豊かに共に生きぬく子どもの育成」に向けた取組を継続・発展させていきたいと思っております。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく子ども

取組目標

自分たちが暮らす地域に親しみを持ち、自分たちが地域の人たちに支えられていると感じられるような行事を作っていく。

【今年度の取組紹介】

◆ぶっくらばこさんによる図書室整備【読書啓発事業】

ぶっくらばこの活動として、年間通じて対面での読み聞かせ活動を行うことができました。読み聞かせをしていただいたボランティアの方は「対面での読み聞かせは、子どもたちの反応を感じられるので、とても楽しく意欲がわく。」とお話されていました。子どもたちは図書室に通う機会も増え、図書に親しむ姿が多く見かけられました。また、図書室の環境整備として、子どもたちが気持ちよく読書が行えるよう、ブッカーかけや棚の整理などに力を注いでくださいました。



◆ケナフで感謝の気持ちを伝えよう。【地域に学ぶ事業】(2年生)

子どもたちが栽培したケナフを利用し、はがきを作り挑戦しました。ケナフの栽培・はがきづくりには、ゲストティーチャーとして地域の方(自主防災・女性防災クラブ・すこやか会等)をお迎えし、体験活動を行うことができました。子どもたちが完成したはがきに感謝の気持ちのメッセージを書き、ボランティアの方々に届けることができました。この交流を通して、地域の方々と子どもたちとの繋がりが深まりました。また、登下校や地域行事でお世話になっている地域の方にも感謝の気持ちを届ける取組となりました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍の為、地域の方と交流する規制が緩和され、年間通じて環境整備事業・読書啓発事業・地域に学ぶ事業を中心に実施することができました。地域に学ぶ事業では、地域の方々にゲストティーチャーとして来校していただき、「昔遊び体験」(1年生)・「ケナフで感謝の気持ちを伝えよう」(2年生)・「防災体験」(4年生)・「平和学習」(6年生)を実施することができました。地域の方がゲストティーチャーとして来校していただくことで、地域の方とつながりが生まれ、子どもたちが地域に愛着を持つ良き体験事業となりました。来年度はさらに、より豊かな体験活動ができるように計画していきたいと考えています。

【来年度に向けて】

来年度も読書啓発事業・環境整備事業・地域に学ぶ事業を中心に子どもたちがより地域に親しめるような体験活動を実施していきたいと考えています。また、子どもたちにより豊かな体験活動ができるようにコーディネーターと協議しながら進めていきたいと考えています。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、共に生きぬく**子ども**

取組目標

身近な人と人との輪の中で、豊かに学び、自ら考え行動する子どもを育成する。

【今年度の取組紹介】

～地域の人と一緒に楽しもう事業～

【英語を楽しもう】

年3回、地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、英語での挨拶やふれあい遊び、絵本の読み聞かせをしていただきました。友達と一緒に英語に触れ、体を動かしながら外国の文化に親しむきっかけにもなりました。普段の遊びの中でも教えていただいた英語を使った遊びをしたり、歌を歌ったりして自然と英語に親しむことができました。



【人形劇】



年2回、地域で人形劇を主宰する方にゲストティーチャーとして来ていただき、楽しい人形劇を見せていただきました。人形劇を見ることで想像力を広げたり、登場人物の心情に共感したりして豊かな感性の育ちにつながりました。また、人形劇の舞台裏を見せていただき、からくりや仕組みに子ども達の興味が広がりました。毎回人形劇を観ることを楽しみ、豊かな心情や話を聞く態度が育まれました。

【今年度のまとめ】

地域の方やゲストティーチャーとの体験活動は普段経験できないことに触れる機会となり、子ども達にとって豊かな学びとなりました。また、地域の方々がいつも温かく接してくださることで、回を重ねるごとに、子どもたちは親しみを感じ、自分から挨拶をしたり話しかけたりするなど積極的に関わっていく姿につながりました。新型コロナウイルス感染症対策の為、クラスごとで、時間も限られる中ではありましたが、子ども達は毎回活動を楽しみにしており、園での活動が地域とつながり合う場となりました。

【来年度に向けて】

来年度も地域の方や子ども達が安心して活動に取り組めるように、様々な安全対策を講じながら、園、地域、家庭と連携し、子どもにとってよりよい心豊かな体験ができるように、事業を継続していきたいと思います。地域と子どもがつながり合う喜びを感じることができるよう、保育の内容を検討し計画していきたいと思います。

めざす子ども像

地域に誇りを持ち、心豊かに、**共に生きぬく子ども**

取組目標

地域とのつながりを感じる・広げる・深める**～地域の教育力を活かし、心揺さぶられる感動体験の充実と心豊かな子どもの育成～**

【今年度の取組紹介】

◇蚕の飼育・喜光寺への園外保育（世界遺産学習事業・地域学習事業）

5歳児が中心となって1ミリぐらいの大きさの卵から蚕を育てていきました。大きくなるために必要なことを図鑑で調べたり、園内にある桑の葉が蚕にとって大好物であることを知り、毎日欠かさず餌やり等の世話をしました。日々成長する蚕に「プニプニして可愛い。」と愛着をもつようになり、成長過程がわかるように日記を書くことで他学年や保護者、地域の方も関心をもち、語らいの場が生まれたり、友達と協力して育てることを喜んだりして、充実感を味わうことができました。また、成虫になった蚕が餌も食べずに糸を出して繭になろうとしている姿を見て、はかない命へのいたわりの気持ちが芽生え、大切に育てたからこそ、命の大切さに気付くことができました。そして、昔は洋服をつくる等生活するために蚕が必要であったことを知り、昔の人に思いを馳せながら、自分たちの生活と結びつけて考え、取り組みました。さらには、1月に地域の方と一緒に喜光寺へ出かけ、繭を紡いで一本一本の絹糸にしてコロナ終息の思いを込めてつくった『マスク』を奉納しました。奉納すると副住職から「大切な命の重みを込めてつくられたものなので、大切にします。」と仰っていただきました。この経験を通して、自分の住んでいる町のことを知り、文化財に触れたり、人の素晴らしさに気付いたり、豊かな心を育むことができました。



◇お茶会（体験活動事業）

地域の教育力を活かし3年ぶりに再開したお茶会。お茶の立て方やお辞儀の仕方、お茶碗を回す意味などの茶道の作法や思いやりの心、季節に応じた掛け軸、生け花なども見せて頂き、目や香りから情緒ある季節を感じることができました。家庭ではなかなか経験することができない初めての作法に関心を寄せ、地域の方の言葉がけや関わりにより、温かい雰囲気の中で体験することができました。また、「泡がいっぱいできた」「抹茶は苦かったけど自分で点てたからおいしかった」と自分が点てた抹茶を味わって飲んでいました。古くから伝わる日本の伝統文化に触れ、人の心を大切にする「おもてなし」の文化を学ぶ機会となりました。



【今年度のまとめ】

地域の方が主となり子ども達のために活動した「いきいき広場」「絵本の読み聞かせ」の地域交流事業や、英語に触れて遊んだりサッカーで体を動かして活動したりする体験活動は、子ども達の心を動かし、人と関わる嬉しさや楽しさを感じ、豊かな心が育ちました。また、活動を継続することで、「楽しかった」「もっとやってみよう」と意欲や自信に繋がりました。地域の方は「子ども達のために」と協力を惜しまず、温かい雰囲気や眼差しで一人一人を認める言葉がけをしてご尽力くださいました。子ども達は地域の方の優しさを感じ、人と関わる心地よさや親しみ、感謝する気持ちをもつことができました。

【来年度に向けて】

今年度取り組んだ活動内容を踏まえ、次年度も継続して取り組む活動と、子ども達の実態に合わせた活動を取り入れながら計画し、子ども達の豊かな経験となるように進めていきたいと思っております。各取組で学んだことや感動が日々の子ども達の遊びにつながっていくよう工夫していきたいと考えています。また、ホームページや掲示物等で情報をリアルタイムに発信し、園・地域・家庭が連携を密にできるようにしていきたいです。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子

取組目標

各小中学校のコミュニティ・スクールとも連動し、幼稚園からの11年間を見通した学校園と地域の連携の確立を目指す。社会情勢には柔軟に対応しつつコロナ後を見据え、不足気味であった体験、つながりを取り戻す。

【今年度の取組紹介】

めざす子ども像の「富雄を愛する子」を「故郷の歴史、風土に誇りを持ち、語ることのできる子」と具体化し、実施してきた「郷土学習」ですが、今年度は奈良大学の土平博教授をお迎えし、ふるさと発見ウォーク「富雄に残る街道を辿って」～古（いにしえ）から未来へ～を実施することができました。地域の皆さんも多く参加してくださり、会議室で古地図をもとにしたお話を聞いた後、実際に暗峠奈良街道～砂茶屋を歩きました。追分本陣にも立ち寄り、地域の皆さんと共に学ぶ良い機会となりました。

コロナ禍のため実施を見送ってきた「防災学習」は3年ぶりに形を変えて実施することができました。協議会のメンバーだけではなく、各地域の自主防災組織の皆さん、公民館、女性防災クラブ、奈良大学ボランティアグループの皆さんに実行委員として参画していただき、今できる形、必要な学びを、実行委員会を重ねて検討し、富雄子ども防災チャレンジ「地震だ！どうする？」を実施しました。西消防署から起振車にも来てもらい、スタンプラリー形式で楽しく学ぶ事ができました。

また今年度は2年間実施を見送ってきた教員との合同研修もハイブリッド形式で実施しました。奈良教育大学教職大学院准教授の小崎誠二先生をお迎えし、ICTとこれからの学校教育について貴重な学びを得ることができました。



【今年度のまとめ】

本来実施する予定であった取組が、コロナ禍のため中止になったり、内容変更を余儀なくされてきたりしましたが、今年度は工夫を重ねることで本来の目的に合った形で実施することができました。子どもたちの学びを途切れさせないのはもちろんのこと、地域にとっても学校とのつながり、共に学ぶ事の継続が求められていることを感じる事ができました。

【来年度に向けて】

様々な取組を認知されるようになってきましたが、「地域教育協議会」という組織の認知度にはつながっていないようです。また、地域の回覧での取組広報では十分に周知できていない現状があります。この点から来年度は広報の方法について工夫を重ね、保護者に対する認知度を上げる取組に力を入れたいと考えています。

めざす子ども像

**命や人を大切にする子 夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子**

取組目標

地域と一体になった活動を通し、めざす子ども像に合わせた取組の充実。教職員における地域との協働意識の向上。**【今年度の取組紹介】**

今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、大人数で活動することが制限されましたが、本校区のめざす子ども像育成に向けどのような活動ができるかを、コーディネーターと話し合いを重ね、昨年度の経験を生かしながら今できる方法での取組を工夫することができました。

キャリア教育では、昨年度同様2年生の職場体験は実施できませんでしたが、早くから計画することで多くの講師の先生を招き、色々な職業について生徒たちが学ぶ場を持つことができました。3年生では、実際に企業で人事を担当している方々に来校していただき、面接の受け方や話し方について学ぶ貴重な時間を持つことができました。今年度も教職員と沢山の地域の方々が一堂に会しての熟議の場を持つことは難しかったですが、本校が推進している「学びあい」を取り入れた授業改革について、コーディネーターと教員合同で研究協議を行うなど、地域の方々と共に子どもたちの教育を考える場を持つことができました。また、18年前の事件以降、地域の方々が子どもたちの安全を守るためにどのような思いで継続的な見守りをしてくださってきたのかを直接聞かせていただく機会を持つことができ、生徒だけでなく教員も地域の方の思いを再確認することができました。その他、生徒の表現力向上のため、昨年実施している「富中川柳」「ベルマークプレゼンテーション」の取組に加え「ビブリオバトル」などの自分の思いを表現することのできる機会を設けることができました。また、ボランティア部では、「富より団子」を広く世間に知ってもらうため、ふるさと納税の返礼品や市内全体の給食に取り入れてもらうための活動を進めることができました。

**【今年度のまとめ】**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、今年度も色々と活動が制限されましたが、感染対策を行いながら、実施形態を工夫することで、積極的に新たな取組を実施することができました。特に今年度は、生徒たちが「自分の考えや思い」を表現できる力の育成に重点を置き、様々な場でプレゼンテーション等の表現活動の機会確保に努めることができました。また、地域の方々の話を聞き、思いに触れる機会を持つことで、普段からの地域の見守りに感謝し、富雄を愛し、誇りに思える気持ちを育てることができました。

【来年度に向けて】

来年度は、新型コロナウイルス感染症も収束に向かい、ここ数年実施できなかった沢山の地域の方々と共に活動することのできる機会が期待できます。本校区のめざす子ども像育成に向けコーディネーターの方々と教員がしっかりと熟議し、それぞれの取組に教員も積極的に参加し、地域と協働できるよう努めていきたいと思っております。また、授業をはじめとした日々の活動の中に、学び合い活動を積極的に取り入れ、生徒が人とのつながりをつくる機会を増やしていきたいと考えています。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子 感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子

取組目標 ○人と温もりのあるふれあいの中で、挨拶や感謝の思いを大切にする。

○地域人材や保護者ボランティアを活用した体験型学習を実施することで、気づいたり、考えて判断したりする力を高める。

○活動から分かったことや考えたことを地域ボランティアや保護者に伝える機会をもつことで、表現力、発信力、コミュニケーション力を高める。

【今年度の取組紹介】

2年 とびだせ！町のたんけんたい（生活科）

2年生は、自分たちの住んでいる地域のよさを発見する学習を行いました。学校を出発し、富雄川や商店街、駅前ロータリーなどを巡りながら、地域の人に公民館や掲示板について教えてもらったり、地域の方が大切にしているお地藏さんを見せてもらったりして、町にある、みんなが安心してくらす工夫をたくさん発見できました。活動後、「やさしい人がたくさんいた。」「富雄はいいところだなと思った。」等の感想を発表しました。



掲示板について教えてもらいました

富雄名物 とみあかり（地域交流）

「しずかに 想う 祈る 願う」をテーマにした「とみあかり」が、3年ぶりに富雄を照らしました。会場いっぱいに並んだ灯籠カップから、自分がデザインした灯籠カップをさがし、「ここにあったよ！」と、家族や地域の人に知らせる子どもたちの姿があちこちで見られました。暗くなると、灯籠に描かれたかわいいイラストや「富雄最高！」「コロナに負けずがんばろう！」等のメッセージが浮かび上がり、たくさんの人を笑顔にしました。



富雄の町を静かに照らしました

地域ボランティアの方に感謝の気持ちを表す会（行事）

日頃から登下校の見守りや学習支援のボランティアでお世話になっている地域の方々に、感謝の気持ちを伝えました。学年別に、歌や寸劇などを交え、感謝の気持ちを精一杯伝えることができました。地域の方からは、入場から退場までずっと拍手を送っていただき、「みんなの元気な挨拶のおかげで頑張れます。これからも元気で明るくすごしてください。」という温かい思いを子どもたちに伝えていただきました。



感謝の思いをみんなで表現しました

【今年度のまとめ】

各学年でテーマを設定し、子どもたちの興味関心を大切にしながら、実際に体験して学んだことを発表する活動を進めました。「地域の方との体験学習」についての学校アンケートでは、児童の98%が「やってよかった」、保護者の97%が「有意義だった」という肯定的な回答を得ました。今年度も、感染対策として人数や時間に制限を設けながらの実施となりましたが、全学年で充実した活動を実施することができました。

【来年度に向けて】

これからも多くの地域の方とのあたたかいふれあいを通して、感謝の思いと、目標に向けて努力する力を育てられるよう活動を進めていきます。富雄のすばらしい「ひと」「もの」「自然」「歴史」との出会いやふれあいを大切にして、「富雄を愛する子」を育てていきます。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子
感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子

取組目標

・ゲストティーチャーを招聘するなど、多様な人との関わりを通して、より良い人間関係を作り、夢をもって自ら学ぼうとする児童を育成する。
・地域の方と共に活動することで、人と出会うことの楽しさ・素晴らしさ、地域の良さを知ると共に、地域に対する誇りと自信、地域を愛する心を育てる。

【今年度の取組紹介】

○学習支援事業（5年生）

たくさんの地域のボランティアの方に、5年生の裁縫学習の支援、ミシン学習の支援をしていただきました。5年生は、家庭科ではじめて針と糸やミシンを使用するにあたって、たくさんの地域の方に教えていただきながら学習を進めることができました。



○体験学習事業（1、2年）

1、2年生は、地域コーディネーターの方の協力により「大型紙芝居」の鑑賞をしました。昨年に引き続いての取組でしたが、感染症予防対策をしっかりといただき、子ども達は畳1畳の大きな紙芝居に吸い込まれるように鑑賞していました。「猿沢池の龍」「イワシの頭も信心から」のお話をいただき、地域のことを知り、興味を持ち、地域を愛する子の育成のきっかけづくりになりました。



【今年度のまとめ】

今年度もコロナウイルス感染状況をふまえての取組になりました。地域コーディネーターの方と学校とで今までの事業を見直しました。同じ形で実施できる取組・形態を工夫してできる取組・新たな取組に仕分けを行いながら地域ボランティアの方等に協力をいただき予定通り実施することができました。特に、図書活動支援事業では、たくさんの地域の図書ボランティアの方が参加してくださり、図書の本のブッカーかけや季節感あふれる掲示物を作成してくださいました。ボランティアの方が図書委員会の児童と一緒に掲示物を作成するなど新しい活動も始めることができました。

【来年度に向けて】

来年度も地域の方のお力を借り、めざす子ども像の実現に向け、子ども達にとって地域の方に親しみを感じ、様々な体験ができる活動を継続していきたいです。新型コロナウイルス感染状況を見極め、今までの取組を考え直し、工夫して実施することにより、取組目標が達成されるよう工夫改善しながら実施していき、地域の方と教職員がつながる場面を拡大していきたいと考えています。

めざす子ども像

命や人を大切にする子**夢に向かって進める子****感謝の気持ちを大切にする子****富雄を愛する子**

取組目標

○様々な事業を通して、地域の人と触れ合い、関わりながら、コミュニケーション力を高めたり、知らないことを知る喜びを味わい、感動したりしながら豊かな心と体を育てる。

○事業内容を方法や回数を見直しながら継続し、協働していく。

【今年度の取組紹介】

◎<リズム遊び> “体を動かすって楽しいね”

講師の先生の元気な挨拶で始まります。先生の元気な声につられ子ども達も自然と大きな声が出ます。柔軟体操では全身をほぐしたり、バランス運動をしたりする事で徐々に体幹も鍛えられます。様々な曲に合わせて、跳んだり、踊ったりする事で、みんなと一緒に体を動かす楽しさや心地良さを味わう事ができました。また、少し難しいと思う事にも友達と一緒になら“やってみよう”という意欲が見られるようになりました。



◎<花咲ロード> “綺麗に咲いたらいいね。”

近所のお店の方から花苗の植え方を教えていただき、保護者や地域の方と一緒にしました。子ども達は、花苗を優しくもつ事や土をそっとかけること、直接、花に水をかけないで周りの土にかけることなどを学びました。地域の方から優しく声をかけられたり、認められたりしたことで自信となり今度は、自ら相手に関わろうとしたり、教えてあげたりするなどの優しい姿が見られました。



【今年度のまとめ】

リズム遊びなど様々な体験をする事は、子ども達の生きる力となり“またやってみたい”と意欲につながりました。そして、地域の方や友達と一緒にする中で人と関わる心地よさを感じたり、コミュニケーション力を高めたりすることができました。地域の方と一緒に行動する事は、自分達の地域を知り感謝や思いやりの気持ちを育む事につながります。また、地域の方も「子ども達の成長していくのが見られて嬉しい」と、互換性のあるつながりができています。

【来年度に向けて】

今後も、保護者や地域の方々にも、協力が得られるように啓発活動に努め、子ども達の豊かな心と体を育てていけるよう地域の教育力を園内活動に取り入れていきたいです。

めざす子ども像

命や人を大切にする子 夢に向かって進める子**感謝の気持ちを大切にする子 富雄を愛する子**

取組目標

- 様々な活動行事を通して、地域の方と触れ合い、コミュニケーション能力を高めたり、感動体験を積み重ねられるような取組の充実。
- 幼児の心身の発達を促す直接体験ができるような保育内容の充実。

【今年度の取組紹介】

○「春と秋の花の苗植え」

春と秋の年2回、地域のボランティアの方に来ていただき、花の苗植えを行っています。使う土をボランティアの方がほぐして土の準備をしてくださいます。そして、やわらかくなった土を入れ方や量をお話しながらプランターと一緒に入れます。植え方も教わり楽しく苗植えができました。地域の方との触れ合いを通して苗植えをしたことで、花を大切にすることを実感し、花のお世話をするたびに地域の方の温かい心を感じることができています。



○「英語で遊ぼう」

学期に1回ずつ、講師を招き英語に親しむ機会を持っています。ゲームやリズムを楽しみながら、挨拶や簡単な会話、体の部位や色・数字などの英語にふれていきます。英語に構えるのではなく、音楽を楽しむように講師の先生とやりとりをしています。園の保育だけではできない体験を通して、外国への興味や関心を持つことができます。



【今年度のまとめ】

コーディネーターと相談しながら取組を進め、多くのボランティアやゲストティーチャーのご協力により、保育内容を充実させ、環境改善を行うことができました。コロナ禍で地域での行事も削減の中、地域の方とのふれあいは、とても大切な経験でした。優しいまなざしやぬくもりのある交流は、子ども達の心を育て世界を広げてくれました。

【来年度に向けて】

今年度同様、コーディネーターと連携し、様々な人と触れ合いながら豊かな体験や園内の環境づくり等に、地域の方々の力添えを得ながら取り組んでいきたいと考えています。そして、そんな取組が子どもを育てているということを保護者だけでなく、地域の方に広く知っていただけるように取り組んでいきたいと思ひます。

めざす子ども像

- **みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
- **「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども**
- **感性豊かで、たくましく自立する子ども**
- **地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども**
- **共に汗して働くことのできる子ども**

取組目標

すべての園児・児童・生徒に15年間の連続した「学び」を保証するために、地域の力を活用しながら学校園の教育活動を支援する。また、学校園を核とした地域コミュニティの活性化と、地域の教育力を高めるための協働により、地域に園児・児童・生徒が活躍できる場を作ることによって「自己有用感」の育成を図る。

【今年度の取組紹介】

一昨年から続く新型コロナウイルス感染症が依然として拡大と減少を繰り返す中、以前とは大幅に規模縮小となりましたがSAKURA夢フォーラム、SAKURA夢フェスタを感染防止対策を行いながらできる範囲で3年ぶりに実施することができました。

また、SAKURA夢スクールも感染防止対策に注意をしながら英会話・編み物の2講座を開講することができました。



【今年度のまとめ】

まだまだ新型コロナウイルス感染症が終息していない中での開催ではありましたが、事業を実施することができ地域の方々も多く参加してくださいました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルスの対応が春から5類相当に変更される見通しであるので、少しでも従来行われていた活動が実施できるように、子どもたち・学校園・地域が協力していきたいと思っております。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

自己有用感を育成し高めることで、学習への意欲回復・基礎学力の向上と規範意識の育成につなげる。

【今年度の取組紹介】

「地域に開き、地域と共につくる学校」をテーマに様々な活動を計画しておりました。今年度もコロナ禍での活度は難しく、制限をもうけた活動がたくさんありましたが、本格的に活動を再開することができたものもありました。そういった中、懸念されていた生徒と地域の方々とのつながりの希薄化も杞憂に終わり、これまでの活動に今年度の活動が重なり、生徒と地域の方々との絆が育まれていきました。

図書館運営においては、継続的に地域ボランティアの方々による協力をいただき、読書推進活動がすすみました。生徒の図書室の利用制限がある中、安心・安全にいつでも自由に図書室が利用できるように、室内のレイアウトを変えていきました。



本格的な再開となった「クリーンキャンペーンの様子」

【今年度のまとめ】

今年度はようやく本格的な活動の再開にこぎつけることができ、スローガンである「地域で子どもを育てる」という地域の方々とともに取り組むシーンを校内で見ることができました。そのようなシーンを見るにつけ、改めて地域の方々の存在の大きさや交流の大切さを再認識する一年となりました。

【来年度に向けて】

今年度、ようやく一部ながら本格的な活動を再開することができました。来年度からはさらに積極的に活動を再開し「地域に開き、地域と共につくる学校」のテーマにそった事業を推進していこうと考えています。地域の人に学校へ足を運んでもらう取組を継続しながら、その中で地域の方々との触れ合いを通じて、生徒たちが「自己有用感」を感じ、さらには地域の一員としての認識の向上や規範意識の醸成につながればと考えています。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

地域と学校が連携して学習環境の整備に取り組み、子どもが地域の一員であることを自覚し、地域に誇りをもって生きようとする姿勢を育む。

【今年度の取組紹介】

本校の地域の方々は「子どもは地域で育てる」ということを大切にしており、学校・地域・家庭が連携・協働して事業を進めています。今年度は新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、人とのかかわりを重視した活動を行いました。

○ 服のチカラプロジェクト

子どもたちが主体となって子ども服の回収を行い、回収した服を難民などの必要とする人々に届けるという服のチカラプロジェクトに5・6年生が参加しました。自分たちにできる社会貢献があることを知ったり、SDG'sの視点から物事を見ることを学んだりしました。子ども服の回収には地域・保護者の方とともに協力して取り組むことができました。

○ 菜の花プロジェクト

今年度も地域の方との協力のもと、菜の花プロジェクトをすすめることができました。地域の方と協力して、昨年度に植えた菜の花を6年生が収穫し、搾油をしました。搾った菜種油は5年生が、世界遺産学習の際に春日大社と興福寺に奉納しました。そして5年生は来年収穫することになる菜の花を植えました。学年をまたいで活動が続いていきます。

**【今年度のまとめ】**

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っている事業のうち屋内での活動や多くの方が交流するような行事については実施できないまま終わってしまいました。

そのような中でも地域と協力して取り組めることを進め、回数は少ないですが人とのつながりを感じる活動を行うことができました。

【来年度に向けて】

来年度は今年度できなかった活動の取り組み方について検討し直したり、新しい活動を模索したりすることも必要だと思えます。これまでのよさを踏襲しつつ、新しい取組にもチャレンジしていきたいと思えます。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

活動の中で子どもたちが地域とのつながりも感じられるような地域と密に連携した環境整備、学習支援活動等の取組の充実。

【今年度の取組紹介】

○環境整備事業

学校園の整備を行っていただき、子どもたちとともに季節に応じた様々な草花の栽培を行っていただきました。

季節ごとに玄関や職員室前の廊下の飾り付けをしていただき、きれいな手作りの飾りに、みんな足を止めて見入っていました。また、年末には松の剪定もしていただきました。

○学習支援活動事業

家庭科の実習で協力いただきました。裁縫の実習では、ボランティアの方に補助をしていただき、ミシンの使い方等をはじめ、裁縫に関する手ほどきを優しく教えていただきました。

○読書力向上事業

絵本の読み聞かせボランティア「お話ドラゴン」のみなさんが、毎週水曜日に朝の学習時間を使って絵本の読み聞かせをして下さりました。また、学校図書館の整備を、図書館司書の先生と共に行っていただきました。児童も読書を楽しみにし、児童の読書力向上へつながってきています。



○児童の安全指導事業

毎日の登下校時に児童の見守りをしていただきました。また、1年生の給食が始まるまでは地域ごとに分かれ、一緒に下校していただきました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍という、困難な状況の1年となりましたが、そのような状況でありながら、今年度も地域の方々に様々な面でご協力いただきました。特に地域と共に行った1月の防災教育DAYははっきりと実感できる変化でしたし、登下校時の見守り活動や家庭科の実習補助、学級園での草花の栽培等においては、制限を設けながらの活動とはいえ、地域の方々と触れ合いながら活動したので、児童はたくさんの方々に支えていただいているということを実感できたようでした。

【来年度に向けて】

次年度からコロナが収束する状況において、継続して行えるもの、一旦取りやめなければいけないもの、新たに活動を始めていくもの等、どのような活動ができるのかを模索していくことが引き続きの課題となってきます。

活動ボランティアが高齢化し、ボランティアを卒業される方が増えてきているという現状があります。新たな人材を発掘し、現状並みの人数を確保できるよう地域に働きかけていく必要があります。また、多くのボランティアの方に力を発揮していただき、人材を有効に活用することができるよう運営委員会を中心に活動内容や連絡体制を見直していく必要もあります。そしてより活動の活性化を図れるようボランティアの皆さんの意見を聞き、取り入れていきたいと思っております。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

地域の教育力を活用し、継続性をもって学習環境や学習体験を豊かにしていく事業を目指す。

【今年度の取組紹介】

今年度もたくさんの地域の方々の協力を得て、様々な取組をしてきました。確かな学力の育成に向けては、新型コロナウイルス感染症予防に最大限努めながら、たくさんの講師の方々に来校いただき、子どもの学力向上のために研究実践を重ねてきました。地域の方の畑でいもほり体験、車いす福祉体験学習、地域の詳しい方からお祭りについて学ぶ学習、地域消防団の方々に来校いただきポンプ車の放水体験や聞き取り学習、家庭科の学習（ミシン補助）などを行いました。さらに、明治地区自主防災防犯会と女性防災クラブの方々の協力を得て防災学習を行うことができました。

今年度は新たに、子どもたちが福祉・介護の仕事を理解するため、民生児童協議会や社会福祉協議会の方々に来校いただき、車いす体験学習とボッチャ体験学習も行いました。

まずは子どもたちが普段慣れている学校の中で車いす体験を行いました。子どもたちは少しの段差や勾配でも進むことが困難であることに気付くとともに、学校のバリアフリーと段差とを改めて認識し、実際の街はどうなのだろうという考えをもつことができました。

次にパラリンピックの正式種目であるボッチャを体験しました。ボッチャのルールの説明を受け、子どもたちで作戦を練り、しっかりと考えながらゲームを楽しみました。子どもたちの感想の中には、障がいの有無や年齢にかかわらず誰でも楽しむことができるスポーツであるので、ボッチャがもっと広がってほしいというものが見られました。



【今年度のまとめ】

地域の方々と子どもたちが共に活動する機会をたくさん設定することで、子どもたちは地域の方々と親しみをもって触れ合い様々なことを学ぶことができました。子どもたちは地域の一員としての自覚と誇りをもち、自尊感情を高める取組につながりました。今後も学校と地域が連携を図ることにより、子どもたちが自己肯定感を持てるような取組等を更に進めていきたいと思ひます。

【来年度に向けて】

引き続き、地域との連携を深め、新たな取組と人材発掘に努めるとともに、「地域と共に歩む学校」をめざして取組を進めてまいります。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

豊かな感性をもち地域とともに主体的に生きる子どもの育成

【今年度の取組紹介】

帯解小学校では、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の方と共に活動したり、学んだりする取組を栽培活動や体験・交流活動、聞き取り学習として長年取り組んできました。しかしながら本年度も、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大半の事業を断念せざるを得ず、本来の地域で決める学校予算の活動ができない1年間となりました。そんな中でも、何とか実施できた事業を紹介します。

図書ボランティア「みなくる」さんによる「本の読み聞かせ」活動では、月に一度全校や学年に絵本の読み聞かせをしてくださり、子ども達の読書推進に貢献してくださっています。5年生における栽培活動においては、地域の方からお借りした田で実際に稲まきから田植え、秋には稲刈りの体験をさせていただきました。収穫を祝って地域の人を招いて行う収穫祭は残念ながらできませんでしたが、身近なお米の栽培に関わり、地域の方とつながることで、地域の良さを知り、感謝の心が育まれています。



地域の方々の知恵をいただく貴重な機会となっています。こうした地域学校連携は、児童の豊かな感性の育成につながっています。今後も『市民と協働した教育を進める「30万人の市民を先生に」』という奈良市教育振興基本計画の基本方針実現ために、さらに地域の方と子どもたちがつながり、学びの輪が広がることを願って取組を進めています。

【今年度のまとめ】

本年度も、本校の特色でもある地域の方に学ぶ聞き取り学習や体験・交流学習・栽培活動が制限されましたが、毎朝の登校見守りや上記の活動で児童が地域の方と関わる中で、学校だけでは学べない体験をし、豊かな感性や郷土愛の育成につながりました。地域の方との活動は、学校評価において、児童・保護者共に95.9%の肯定的な回答を得ました。学校教育の様々な場面で地域の方に見守られ、支えられながら地域の歴史を知り、地域に愛着をもつ子どもたちの育成を目指しました。

【来年度に向けて】

来年度も精華・帯解両地区の良さを生かした取組を大切にしながら、地域で学んだことを誇りに思う児童の育成と、豊かな感性をもち主体的に生きる子どもの育成を目指していきたいと考えています。また、取組の内容を多くの方に知っていただき、さらに継続・発展させていくために広報にも力を入れていきます。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども**
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども**
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども**
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども**
- 共に汗して働くことのできる子ども**

取組目標

地域とのつながりを感じながら、心豊かで、いきいきと活動する幼児の育成

【今年度の取組紹介】

『ランランひろば』1年を通して6回、民生児童委員をはじめとした地域の方々に来ていただき、ランラン広場を行っています。年間計画を立てて、一緒にふれあい遊びをしたり、運動遊びをしたり、七夕集会やおたのしみ会に参加していただき一緒に楽しむなど、色々な事をしていただいています。回を重ねていく事で顔や名前も覚えてきて、「あっ、〇〇さんが、来てくれた。」「〇〇さんだ。」と話している子ども達です。地域の方も、『町やスーパーで見かけると、「〇〇さんや。」「また来てね。」と声をかけてくれるんですよ。』と嬉しそうにお話してくださいました。また、回を重ねることで、



親しみも芽生えてきて、自分から声をかけに行ったり、「次はいつ来てくれるかな。」と楽しみにしたりする姿も見られました。ランラン広場の最後の日には、地域の方から、手遊びをしてもらったり、大型絵本を読んでいただいたり、パネルシアターをしてくださったりと、子どもたちも大喜びでした。

**【今年度のまとめ】**

コロナ禍で地域の方とふれあう機会もまだ制限がありましたが、その中で経験した1つ1つが大変貴重なものとなりました。また1年を通して地域の方に関わっていただくことで「〇〇さんだ。」「〇〇さんが来てくれた。」と、より親しみや感謝の気持ちをもったように思います。また、褒めていただいたり認めてもらったりすることで、子どもたちの自信や意欲にもつながり、主体的・意欲的に活動する力にもなりました。そして、様々な取組を通して感動体験を味わい、豊かな感性にもつながっていると感じます。

【来年度に向けて】

地域の方々の協力を頂きながらその中で、地域の方とのつながりを感じ様々な感動体験ができるように、また子ども達が、地域の方々に親しみの気持ちをもち、人とかかわることで得られる感謝の気持ちや自分を取り巻く地域を大切に思う豊かな心を育てていくことを願います。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

地域に開かれたこども園をめざし、豊かな心とたくましい体を育む

【今年度の取組紹介】

春に山町地域環境保全協議会、そして地域の方にご協力いただき5歳児36名がサツマイモの苗を植えました。ぬかるんだ畑の土に戸惑う姿もありましたが、「こうやってするの?」「あってる?」と地域の方に聞きながら、初めての苗植えを楽しんでいました。秋、長く伸びたツルの先に期待を膨らませ、地域の方に手伝ってもらいながら掘り起こしました。園に持ち帰ると掘り起こしたサツマイモの数や重さを数えたり測ったりして、収穫した喜びを友達と共有していました。

11月には、焼き芋パーティをしました。朝早くから準備をして下さり、子ども達は煙がもくもくと上がるもみ殻の中に、自分たちで洗ったり包んだりしたサツマイモを入れ、焼き上がるのを楽しみにしていました。焼き立てのおいしさを味わう嬉しい体験ができました。

また、年間を通して畑の先生として地域の方に来ていただき、子どもたちと畑づくりや種まき・苗植え、畑の世話の仕方を教わりながら、玉ねぎ・ナスビ・カボチャ・ブロッコリー・白菜など、季節の野菜を育てて収穫する中で、生長の喜びや収穫への期待、そして、食への意欲などにつながる豊かな心の育ちの経験となりました。



【今年度のまとめ】

菜園活動、環境整備、教育支援等、地域の方の様々な協力や支援のもと、経験や体験を積み重ね、地域の方に親しみをもつなど、ヒトとのつながりが豊かになっていることを子ども達の姿から実感できます。また、年間を通して野菜や花などに関わることは、すべての生き物の生長に対して子どもも職員も見通しをもつことができ、「めがでてきた」「すこしのびたね」など小さな変化や喜びを感じながら、モノやコトとも繋がることのできたと感じています。

【来年度に向けて】

地域や保護者の方の協力を得ながら、子どもたちの学びや育ちにつながるような多様な経験と、地域の方とのつながりを大切にしつつ情報発信もすることで、こども園の教育・保育への理解を更に深めていただき、地域に開かれたこども園として事業を進めていきたいと思っております。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身につけ、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

- ・ 地域とのかかわりを通して、お互い認め合い、助け合い、思いやる心を育てる。
- ・ 地域の良さを生かした、豊かで多様な体験をしながら、生きる力の基礎を培う。

【今年度の取組紹介】

運動・リズム遊び事業として、昨年に引き続き講師を招き5歳児の子どもたちに継続して和太鼓の指導をしていただきました。バチの持ち方や構え方、良い音が出るたたき方などを教えていただき、太鼓の音の響きを全身で感じながら、友達と一緒にリズムを合わせる心地よさを味わうことが出来ました。地域の地蔵尊祭には「子授け太鼓奉納」を行い、油かけ地蔵さんにみんなの願いを届けました。運動会のオープニングにも演奏をし、力強い太鼓の音が響きわたりました。今年度は、新たに講師を迎え運動遊び教室も行い、ボールを使った遊びや縄跳びも教えていただきました。体を動かす心地良さを感じる事が出来、体力の向上にも繋がっています。

焼き物体験事業では、地域の陶芸教室で活動されている方々に教えていただき花器を製作しました。陶芸の粘土に触れ、「粘土、冷たくて気持ちいい」「硬いな」等と言いながら、手や伸ばし棒で粘土を伸ばし、形を作っていました。陶芸教室の方々に素焼きをしていただき、色付けでは、子どもたちが好きな色を選び、一人一人丁寧に手伝っていただきました。生花体験事業で講師の方を招き、自分で作った花器に花を生けて作品展に展示しました。多くの保護者の方や陶芸教室の方々にも見ていただくことができ、花器作りから生け花まで貴重な体験となりました。

「和太鼓教室」「焼き物教室」「生け花教室」「運動遊び教室」「菜園活動」「防災教室」等を通して、地域の方に親しみを感じ豊かな感性を育む経験が出来ました。



【今年度のまとめ】

地域の方々にご協力をいただき、「和太鼓教室」「菜園活動」「花いっぱい運動」等様々な体験や経験を通して、優しい気持ちや思いやりの心を豊かにすることが出来ました。和太鼓では、5歳児の太鼓をたたく姿を見て、3・4歳児が憧れの気持ちを持ったり、花いっぱい運動で園に花苗をたくさん植えて地域の方と一緒に美しさを感じたりする姿が見られました。地域の方々と共に活動することで地域の方に親しみを感じながら、感性を豊かにする経験に繋がったと思います。

【来年度に向けて】

活動内容の充実を図り、保護者や地域の方と共に活動を進め、感性豊かなしなやかな心と身体をはぐくむ取組が出来るようにしていきたいと思います。また、子どもたちが地域の方と交流を深めながら、地域に親しみをもち、地域を大切にする気持ちを育てていきたいと思っています。こども園の教育・保育内容への理解を深めてもらい、開かれた地域のこども園になっていきたいと思っています。

めざす子ども像

- みんなと力を合わせ、なかまと共に高まっていく子ども
- 「学ぶ力」「生きる力」を身に付け、生活や将来に活かせる子ども
- 感性豊かで、たくましく自立する子ども
- 地域で学んだことを誇りに思い、地域に貢献できる子ども
- 共に汗して働くことのできる子ども

取組目標

**地域の教育力を生かした取組の中で、
ひとりひとりの笑顔がかがやき安心して園生活を送れるようにする**

【今年度の取組紹介】

今年度より、子育て支援事業の一環として始めた『おはなしの会』は、地域の幼児教育経験者の方を招きました。コロナ禍で、時間を制限しクラスごとの実施となりましたが、地域の方のご協力をいただき、予定通り行うことができました。

事前に会の内容を記した掲示物を届けていただいたことで、『おはなしの会』に期待を持ち、「もうすぐ、おはなしの会やなあ」「今回は〇〇のお話やって」と心待ちにする姿につながりました。お話の世界を楽しめるように一人一人の表情に目を配りながら、読み方を工夫したり手遊びや軽いストレッチを組み入れたりしてすすめてくださったことで、言葉の美しさやおもしろさを知ったり、お話を落ち着いて聞く態度が育ったりしたと感じます。



継続して行うことができたことで、積極的に質問や思いを述べたり終わり際にはハイタッチを求めたり、地域の方を身近に感じ親しみを持って関わる姿が見られるようになりました。各年齢に応じた絵本や楽しいペープサートに親しみ、おはなしの世界から好奇心を刺激し、想像力を豊かにする経験につながりました。

【今年度のまとめ】

コロナ禍で、昨年度に引き続き例年通りの取組の形や内容ではなかったのですが、人数を制限したり時間を短縮したり、また密を避けた環境作りの工夫を行いながら事業に取り組んできました。地域の方には子ども達の園での遊びや生活の様子を見ていただき、こども園の教育・保育を知ってもらう機会となりました。今後も地域の方を身近な存在と感じ地域に開かれたこども園となるよう、地域の方と共に歩んでいきたいと思います。

【来年度に向けて】

コロナ禍であっても、地域の方の教育力を活かした取組が引き続き行えるように、今年度の経験をもとに事業を検討します。また、子どもにとりより良い豊かな体験が重ねられるように、地域・こども園・家庭が連携を図り事業を計画し進めていきたいです。

めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い、人とのつながりを大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び進んで実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標

学校・家庭・地域が一つとなって、めざす子ども像に向かって地域の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

(文化鑑賞会・人権講演会の開催 地域、全校児童生徒、先生方とともに)

- ・ 世界の民族楽器や各地の暮らしの紹介、演奏5割、お話4割、体験1割
- ・ 「けん玉で世界をつなぐ」世界の人々との出会いやエピソードを聞き、夢や目標をもつことの大切さを考えさせることができました。

(案内道路標識づくり 学校の子どもボランティアとのコラボ)

- ・ 来校者が困っているという現状を学校から伺いました。
- ・ 子どもたちと一緒に、学校を来る人にとってやさしい場に行かないか…道路標識づくりを提案しました。
- ・ 子どもたちからボランティアを募って、道路にペイントをすることになりました。

(学び舎プロジェクト)

- ・ 地域の力で放課後に英語教室を開催しました。
- ・ 田原を愛する講師による英語学習補助支援が行われました。



【今年度のまとめ】

話し合いから新たに「コロナ禍のなか、学校と協力し、できるかぎり自然体験や体験学習をさせよう」「学校との関わりをできるかぎり再開させよう」という2つの目標を掲げ、学校と協力し達成することができたように思います。

【来年度に向けて】

「地域・家庭・学校が一つとなって田原の教育に取り組み、地域を愛する人間を育成しよう!」「コロナ禍のなか、学校と協力し、できるかぎり自然体験や体験学習をさせよう!」「学校との関わりをできるかぎり再開させよう!」という目標を来年度も掲げ、今後、学校が言う小中9年間を見通したキャリア教育と連動させながら、次年度も、「学校のために」「地域のために」と、さらに活動をジャンプアップさせたいと思います。教頭先生をはじめ、たくさんの先生方、活動にご協力ありがとうございました。

めざす子ども像

- ・ **ふるさとを愛し、誇りとする子ども**
- ・ **思いを伝え合い、人とのつながりを大事にする子ども**
- ・ **よく考え、よく学び進んで実行する子ども**
- ・ **人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども**

取組目標

学校・家庭・地域が一つとなって、めざす子ども像に向かって地域の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

(野点体験 8・9年とともに)

- ・ 地域のお茶農家さんと茶道体験の講師さんに来てもらいました。茶道体験に関する取組については、中学校の先生方とも相談し、二日間にわたり2回実施することになりました。一日目は、お茶の所作を学ぶ体験活動です。子どもたちは、所作に含まれる意味を丁寧に教えてもらいながら活動していました。二日目は、学んだことを生かし、実際にお茶を点でて、相手をもてなしました。さらに、学習をつなげるために、茶筌づくり体験をするという提案が学校からありました。一人一つ茶筌を作ることができ、茶筌は後日学校に届きました。



(案内道路標示づくり 学校の子どもボランティアとのコラボ)

- ・ 来校者が困っているという現状を学校から伺いました。そこで、運営委員会で相談し、「子どもたちと一緒に、道路標示づくりをしよう」ということになりました。小中の先生方の協力を得て、子どもたちに呼びかけてもらい、ボランティアを募ることになりました。小学校の運営委員会が開催する「花植え集会」のあとに、地域の環境整備のボランティアと子どもたちボランティアが一緒になって、敷地内の道路に案内となる道路標示を作製することになりました。教頭先生に協力してもらい、標示のもととなる型抜きを製作しました。スプレー缶に入ったペンキで標識を作りました。「来る人が迷わないようになったね」「がんばったね」「やってよかった」「車が通るところと歩くと、自転車が通るところがはっきりして交通安全にもなったね」という意見が出ていました。中学校の運営委員会が学校に何かすることはできないかを尋ね、小学校の運営委員会や学校の先生方の協力を得て行うことができました。安全のための表示として白線も引くことになり、安心して安全なやさしい学校環境が作られました

【今年度のまとめ】

話し合いから新たに「コロナ禍のなか、学校と協力し、できるかぎり自然体験や体験学習をさせよう」「学校との関わりをできるかぎり再開させよう」という2つの目標を掲げ、学校と協力し達成することができたように思います。

【来年度に向けて】

今年度と同じ目標を来年度も掲げ、今後、学校が言う小中9年間を見通したキャリア教育と連動させながら、次年度も、「学校のために」「地域のために」と、さらに活動をジャンプアップさせたいと思います。教頭先生をはじめ、たくさんの先生方、活動にご協力ありがとうございました。

めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い、人とのつながりを大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び進んで実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標

学校・家庭・地域が一つとなって、めざす子ども像に向かって地域の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

(花植え集会 1～4年とともに)

- ・ 環境整備ボランティアと1～4年による春と秋に学校園の整備、花植えをしました。4年生による集会運営の学習も見ることができました。

(お茶の学習 3年とともに)

- ・ 「お茶にくわしい2人のお茶博士に尋ねよう」ということで、お茶ができるまでを学習していました。「茶葉がいろいろなお茶に生まれ変わる」ことも学習しました。最後に、お茶のおいしい入れ方を学び、おいしいお茶をいただきました。

(田植えと稲刈りの体験 4・5年とともに)

- ・ 地域教育協議会の委員である奥和田さんの田をお借りして実施されました。足の指を通る泥の感覚を感じながら、カエルの鳴き声を、風を感じながらの田植え体験でした。ザッザッという音とともに軽快に鎌を動かして稲を刈る体験をすることができました。

(国見山登山 5～7年とともに)

- ・ 地域を知り、地域を愛し、地域に貢献することを目標にし、地域ボランティアガイドに来ていただき、地域の山「国見山」の登山をしました。「国見山の歴史を知る」「国見山の自然を知る」「登山者のための案内板づくりをし、その設置をする」という体験を通しての学習ができました。

(地域探検し&環境クリーン作戦 6年とともに)

- ・ 「地域を歩きながら、地域について知る」「ごみを拾う」ということをしました。地域を知り、地域を愛する子どもたちになるのではないかと思います。

(学び舎プロジェクト)

- ・ 放課後英語教室を開催しました。田原を愛する講師による英語学習補助支援が行われました。



【今年度のまとめ】

話し合いから新たに「コロナ禍のなか、学校と協力し、できるかぎり自然体験や体験学習をさせよう」「学校との関わりをできるかぎり再開させよう」という2つの目標を掲げ、学校と協力し達成することができたように思います。

【来年度に向けて】

今年度と同じ目標を来年度も掲げ、今後、学校が言う小中9年間を見通したキャリア教育と連動させながら、次年度も、「学校のために」「地域のために」と、さらに活動をジャンプアップさせたいと思います。教頭先生をはじめ、たくさんの先生方、活動にご協力ありがとうございました。

めざす子ども像

郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

様々な体験活動や地域の方々との交流を通して、校区の自然・歴史・文化等の良さを知り、豊かな心と自主的に行動する力、コミュニケーション能力を育てる。

【今年度の取組紹介】

今年度も、新型コロナウイルス感染症流行のため、4校園が集まって行う行事はできず、各校園で「命」をテーマにした行事に取り組みました。

- ・柳生こども園では、元気な“こころ”と元気な“からだ”づくりをねらいとし、感謝の気持ちをやさしい言葉で届ける取組を行いました。
- ・柳生小学校では NPO 法人「おてんとさん」の協力により、「食品ロス」について学びました。
- ・興東小学校では、生き物の命と私たちの命は同じであること、いじめのない環境をつくるためにしなければならないことを学びました。
- ・興東館柳生中学校では海外協力隊員の講演から文化の違いを越えて理解し合うことについて学びました。



興東小



柳生小



柳生こども園



興東館柳生中

【今年度のまとめ】

＜柳生こども園の取組 参加者の声＞

- ・「いつも会うたびに子ども達からかわいい声をかけてもらえて元気をもらえるわ。」「園児とふれあえて楽しい時間をすごせたわ。」と園児達との交流を喜んでいただけました。

＜柳生小学校の取組 児童の感想＞

- ・奈良県では、家庭では半分以上もしていることが分かったので、食品ロスをできるだけしないように、食品は買いすぎず、食べ物を作りすぎないようにしたいと思います。

＜興東小学校の取組 参加者の声＞

- ・心音のモニターができる器機があるのが驚きですごく良いと思いました。「生きているということは」の小学生の捉え方も、日常のありがたさを改めて感じました。

＜興東館柳生中学校の取組 生徒の感想＞

- ・言葉も伝わりにくく、文化もちがうけれど、自分の気持ちが相手に伝わればつながれるんだなと思いました。

【来年度に向けて】

コロナ禍のもと各校園で取り組んできた「命」にかかわるテーマでの取組も3年目を終え、工夫をこらし、定着してきたように思います。これからもこの取組を続けていきたいと考えます。

4校園の子どもたちが集まって行う行事「ふれあい広場」を、来年度は興東館柳生中学校で、感染対策を行いながら半日規模で実施する方向性を確認しました。様々な課題がありますが、まずはみんなが「集まる」機会をつくることから始めたいと考えています。

めざす子ども像

郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

故郷を愛し、心豊かにたくましく生きる生徒の育成

【今年度の取組紹介】

興東館柳生中学校創立以来行ってきた「地域の伝統文化に学ぶ」取組は、コロナ禍が続いた今年度も絶やさず続けることができました。

「大柳生太鼓踊り」は、地域の方々の全面協力のもと、昨年度より大幅に練習回数を増やし、3年生を中心とした生徒たちのがんばりもあって、完成度の高い発表をすることができました。少ないながらも保護者、地域の方々に見ていただくこともでき、NHKの取材も受けました。

「木剣体操」も1学期から練習に取り組み、体育大会で多くの保護者の前で披露することができました。

新しい取組として、地域の方々を講師としてお招きし、「民謡教室」を行いました。三味線などの伝統楽器に触れ、子どもたちは興味津々でした。



【今年度のまとめ】

感染対策を行った上で、少しずつではありますが、保護者や地域の皆様をお招きして行事をご覧いただくことができるようになってきました。新たな行事にも取り組むことができ、コロナ後を見据えた行事のあり方についての議論も進めることができました。

環境整備等、日々必要な事業についても、ご協力を得て少しずつ進めることができています。

【来年度に向けて】

地域の伝統に学び、地域を愛し伝統を守ろうとする子どもを育てるための本校の取組は来年度も続きます。子どもや教員の減少、地域の高齢化などの課題を乗り越えて、この取組をますます充実させていきたいと思っています。

2024年度には、本校は開校10周年を迎えます。地域の方々のご協力を引き続きいただきながら、記念行事等の準備も進めていけたらと思っています。

めざす子ども像

郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

**地域の特色を生かした体験的な活動を多く取り入れるなかで、
「いきいき・わくわく・元気な柳生っ子」を育成する。**

【今年度の取組紹介】

1. 柳生の伝統を学ぶ

柳生は剣道の地であります。今年度は、全校で剣道体験を行うことができました。短い時間ではありましたが、体験をすることで、子どもたちは日頃とは違い、きりっとした態度を見せてくれました。人を斬るのではなく、人をつくる新陰流の精神を少し触れることができました。



2. 学校ボランティアとマラソン大会

毎年1月に本校ではマラソン大会が行われますが、今年は大雪のため、3回延期したなかで、学校ボランティアの方の雪かきのおかげで、無事マラソン大会が行われました。たくさんのボランティアの方の応援もあり、子どもたちは日頃見せない頑張りで走ることができました。



【今年度のまとめ】

今年度も感染症防止対策を講じながら、「お話の会」「まちたんけん」「柳生焼体験」「炭焼き体験」、また今年度は久しぶりに「剣道体験」も取り組むことができ、地域を知る充実した内容の体験学習、また地域の方々とのふれあいを大切にした学習活動が昨年より展開できました。また学校ボランティアのおかげで、学校環境整美はもちろんのこと、マラソン大会もたくさんの方に安全面での支援を承りました。学校評価アンケートから「学校は、地域と連携して特色ある教育活動を行っている」は保護者から高評価の結果が出ています。

【来年度に向けて】

来年度もいろいろな体験や学習を通して、地域の伝統や産業を学び、地域の方々とのふれあいを大切にする中で、自分の郷土に誇りを持ち、自分の夢をかなえようとする子どもを育てていきたいと考えます。また学校ボランティアと児童との協働で、学校環境整美を行うことや、防災訓練も地域の方々と一緒にやっていき、地域の絆が深められる有意義な取組をしたいと考えます。また、興東館柳生中学校区での「ふれあい広場」も再開していきたいと思えます。

めざす子ども像

郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

子どもたちが地域とのつながりを意識できる学習環境整備や取組の充実をはかる。

【今年度の取組紹介】

地域の方々との出会いを大切に、地域の教育力をお借りして、本年度も本校教育を推進しました。なかでも“もち米作り”は、米に関わる様々な体験を「つながり学ぶ」大切な学習事業となっています。子どもたちは、5月の田植えに始まり、9月の稲刈り、10月の粃摺りと色々なお話を聞いたり、体験をしたりすることができました。更に12月のしめ縄づくり、1月の大とんどまで、年間を通して本当に地域の方々にお世話になりました。

本校にとってこの米作り体験は、「地域で学ぶ体験学習事業」の豊かな学びの軸となる取組となっています。

その他にも1・2年生の焼き芋体験、3・4年生の絵手紙教室、蜜蝋でろうそく作り体験、1～4年生の白砂川でのニジマスの放流体験を行いました。また、6年生は校区歴史遺産学習として、運慶作の仏像等、国宝をもつ円成寺を訪問しました。新型コロナウイルス感染症感染防止のため実施することができていない行事もありますが、ここまでたくさんの活動が実施できたことは、地域の方々のご協力のたまものであると感謝しています。



【今年度のまとめ】

本年度も地域の方々の熱心な支援・協力のもと、学校としての取組も順調に進めることができました。どの体験活動においても児童が生き生きと、そして、楽しそうに活動している姿から、本当に貴重な経験をさせていただいているのだと感じました。この体験活動が有意義で、楽しく、心に残るものであったことは学校評価アンケートの結果にも表れていました。また、地域の方々から色々な話を聞き、一緒に体験することで、地域の方々と子どものつながりもより深まっていると感じます。

【来年度に向けて】

来年度も校区の歴史や伝統・産業を学び、先人の知恵や思いに触れ、いろいろな体験を通して感性を育てることで、自分の郷土を誇れる児童を育てていきたいと考えます。コロナ禍における活動も想定し、地域と連携・協働し、人と人とのふれあいから生まれる豊かな心を大切に、学校・地域の実情に合わせた取組を考えて、地域との絆をさらに強固たるものにしていきたいと思います。

めざす子ども像

郷土に誇りを持ち、自らの夢をかなえようとする子ども

取組目標

自然や地域の人との関わりを通して、豊かな心を育み、主体的に活動に取り組もうとする態度を育成する。



【菜園活動】

田植え体験、稲刈り体験、サツマイモ植え付け、いもほり、玉ネギ植え付けと収穫など、地域の先生に教えていただきながら、豊かな体験ができました。



【お話の会】

楽しく、愉快的な先生のお話に子どもたちは物語の世界に引き込まれていきました。毎回、楽しみにしています。



【リトミック活動】

学期に1回外部講師を招き、幼児組でピアノの楽曲に合わせて楽しく体を動かしたり、音楽に合わせて絵本の読み聞かせをして頂きました。



【制作活動】

4,5歳児対象に焼き物体験や生け花体験、茶道体験また、自然物を使ったリースづくりなど、地域の先生にたくさん教えていただきました

【今年度のまとめ】

地域教育協議会に参画させていただき、中学校区内の学校および地域コーディネーターの方々のご理解とご協力をたくさんいただいたおかげで、この地域ならではの豊かな自然の恵みを活動の中にたくさん取り入れ、また、地域の方々にも講師として来ていただき、子どもたちに幅広い豊かな体験活動を教えていただけたことで、興味・関心が深まり、心も体も豊かに成長している様子が子どもたちの言動から実感しています。

【来年度に向けて】

今年度同様に、地域の方々の教育力を取り入れ、地域と共に子どもたちの成長を温かく見守りながら、心を育む感動体験を積み重ね、主体的に取り組もうとする態度や、たくましく生きる力を育むための保育内容の工夫や、校区内の小・中学校とさらに連携を深めていきながら、地域に根づいた教育施設として幼児教育の取組を実践していきたいと考えます。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で 自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標

地域教育協議会と学校・保護者・地域との連携を一層深め、
地域と学校園が連携・協働し、子どもが参画できる取組の開発と充実に努める

【今年度の取組紹介】

今年度もコロナ禍で活動が制限されたなかで、唯一「学力支援」のみ毎年続けられている活動です。地域の方々に指導をお願いしていますが、子どもや、講師の方にも感染しないように毎回学校と連絡を取りながらの活動でした。子どもたちも、クラブ活動や委員会との両立で、毎回人数が変動し、年度初めの人数より減ってきているのが現状です。しかし、「テストに出た問題が出来た」と、報告に子どもから言われた時には、「少人数でもやっていてよかった」と講師の方から嬉しいお声が聞かれています。



また、【愛・花菜活動】として今年は小学校の子どもたちと藍・パンジー等の数々の種から栽培し、成長すれば植え替えもし、花壇の整備、水やり、土壌作りを各学年に合わせて育てました。なかなか家ですることがない子が多く、ボランティアの方々と共に暑い最中も熱心に取り組んでいました。虫やミミズに怖がる子もいましたが、きれいに咲いた花を見て「私の花咲いたよ」と誇らしげに報告してくれました。

【今年度のまとめ】

コロナの影響は、まだまだあり「地域との交流事業」が難しく、コーディネーターやボランティアの皆さんの意欲が薄らいでいることも確かではあります。特に、学校に出向くことも少なくなったと同時に、先生方との交流がなくなり、今までしていた活動を知らない先生が多くなってきていることも活動の難しさでもあると思います。

しかし、コーディネーターやボランティアの皆さんの顔が分かることで、子どもたちから声をかけてくれることは、皆さんの励みになっています。

【来年度に向けて】

「地域交流事業」の新たな取組を考えてきます。地域も老老が多くなり活動できる人材が多くなり、生徒や児童による企画・立案・実行を多く取り入れて、今、出来ること、してみたいこと、を考えていきます。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で**自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標

**地域を愛し、地域に誇りを持ち、自ら学び、考え、判断し、
手応えのある夢を持ち、たくましく生きるこどもの育成****【今年度の取組紹介】**

学力の定着と子どもたちの学びにむかう姿勢を育む機会として地域の方々を講師として学力向上プロジェクトやイングリッシュカフェを開催し、学ぶ楽しさを体感し、達成感や自己肯定感を育む機会を得ることができました。

また、継続して「花いっぱい笑顔いっぱい登美中～プロジェクトチューリップ」を実施、生徒会が全校生徒へボランティア参加を呼びかけ、



地域の方々とともに活動に取り組みました。春には、百本を超えるチューリップが子どもたちの門出を彩ります。自分たちがたくさんの花と笑顔に出迎えられて、温かい気持ちで登校した景色を次年度も全校生徒で感じたいと思います。

地域の方々とながら、温かな経験を通して、地域貢献や地域愛が育まれる機会となっています。

**【今年度のまとめ】**

全校集会や校内放送での子どもたちから全校生徒への呼びかけや報告、また学校ホームページへの掲載を通して、地域教育協議会の協力のもと行われている事業や取組の啓発を行いました。

地域の方々の大きな支援のもと、自分のペースで学びを行う学習環境の整備や学習サポート、大規模な模様替えと本の整理整頓により本に親しみやすい図書館へのリニューアル、そして花壇の整備をさせていただくことができました。自分のため、また人のために頑張ること、夢中になること、そこでできたつながりに子どもたちのたくさんの笑顔と安心がうまれたことが大きな成果であり、ご支援いただけることに感謝申し上げます。

【来年度に向けて】

子どもたちの学習環境整備と学習サポート、図書館の充実の継続とゲストティーチャーに学ぶ機会を計画し、地域の方々のご支援をいただきながら学校教育活動の活性化を推進していきます。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で 自ら考え、未来を切り拓く子ども

取組目標

地域で子どもをはぐくみ、子どもで地域がつながる
～自ら学び、考え、行動するやさしくたくましい子どもの育成～

【今年度の取組紹介】

今年度も「地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる」取組を継続しました。

1学期から、子どもたちが、地域の方と共に植物を栽培・収穫する活動に取り組み、収穫した植物を活かして様々な作品・製品を作ることが出来ました。

1年生は、チューリップとビオラを一人一鉢植え、入学式で飾る予定でいます。

6年生は、全校児童が栽培から乾燥まででかけた植物を用いてスワッグを作成し、お世話になった方々へ「感謝の気持ちを伝える集会」でプレゼントしました。

家庭科の調理実習やミシンを使う授業にも、地域の方々がお手伝いに来てくださり、子どもたち一人一人に寄り添って丁寧に手助けしていただきました。

また、今年度も、防災教育の一環として地域の方に講演・ご指導いただき、地域の方と触れ合い、つながりながら「守られる側から守る側への気づき」を体感し「今、自分たちが安心して毎日の生活を安全に送ることが出来ていること」に感謝することが出来ました。

地域の方々と、子どもたちが共に活動することで、「子どもたちが地域の中でしっかりと生活し、地域とのつながりを深める」という目標に近づいているという実感をさらに強く感じる事が出来た一年となりました。



【今年度のまとめ】

感染症対策にも留意しながら、ボランティアの方々の熱心な関りと子どもたちへの温かい心配りがあり、子どもたちは、それらによって、ますます成長し、ふるさと鶴舞を思う気持ちが強くなっています。学校・家庭・地域が、それぞれお互いの役割や機能を十分理解し、連携・協働することで、これからも「確かなつながりの中で自ら考え未来を切り拓く子ども」の育成をめざしていきたいと考えています。

【来年度に向けて】

これまでの活動の蓄積を財産としながら、地域の方々と共に協働して活動を継続することで、「地域で子どもをはぐくみ子どもで地域がつながる」鶴舞を創りあげていきたいと考えています。共に歩んでくださっている保護者・地域・関係団体の皆様へ、深く感謝しております。今後とも、鶴舞の子どもたちへのご支援ご協力、宜しくお願いいたします。

めざす子ども像

幼小中・地域の確かなつながりの中で**自ら考え、未来を切り拓く子ども**

取組目標

児童が学び、考え、行動するやさしくたくましい子どもの育成

【今年度の取組紹介】

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、多くの活動を自粛せざるを得ませんでした。その中でも感染者が比較的少ない時期に地域の方と児童と共に環境整備事業として、校舎内にある雑草の刈り込み等を行うことができました。

1年生の「命の学習」は、講師の先生（医師）たちと連絡を密に取り合いながら、授業を行いました。また、地域の方に来ていただいて、昔遊びを教えていただく機会をもつことができました。コマ回しやあやとりなど、初めての子も多くなかなかうまくいかないこともありましたが、地域の方と楽しそうに遊ぶ子どもの姿がたくさん見られました。

1年生はまだ入学したばかりなので、安心して学校生活を送れるように、できるだけ地域の方と関われる機会をつくれるようにと考えています。

**【今年度のまとめ】**

本事業を通して、児童や保護者、地域の方の距離が近くなってきたように思います。その証として、児童の言葉から、地域の方の名前が出てくるようになりました。各事業を継続させていくことで、児童と保護者・地域とのつながりがより深く密になると考えています。

【来年度に向けて】

これまで取り組んできた活動を継続しつつ、新しい活動を模索していきたいと思います。また、児童が地域や保護者と協働して同じ課題に取り組むような活動を考えていきたいと思っています。

めざす子ども像

幼小中・地域のつながりの中で自ら考え、 未来を切り拓く子ども

取組目標

子どもたちの興味・関心に基づいた直接的・具体的な体験活動の実施
子どもが主体的に活動できる環境構成

【今年度の取組紹介】

【地域とのつながり】 ゲストティーチャーを招いて、野菜やお花の栽培を体験することができました。昨年に続きコロナ禍の中、地域の方の協力を得て、園で玉ねぎや花の苗のお店屋さんごっこを体験しました。おすすめのお花を説明し、お客さんを案内して品物を選んでもらえて、自信をつけることができました。

【染色に挑戦】 ゲストティーチャーの指導をいただき、カモミールで毛糸の染色に挑戦をしました。きれいなクリーム色にみんな大喜びでした。また作品展の生駒山上遊園の遠足をテーマにし、各自自分の人形を製作し、マフラーを染色した毛糸で作成しました。楽しい思い出を形にし、さらに細かなアイテムであるマフラー作成とディティールにこだわったことにより子どもたちの作品の完成度も一人ひとりが自信への寄与となりました。



【今年度のまとめ】

取組紹介のほかにも、地域の方々への支援を受け、子どもたちが初めて挑戦した栽培活動や染色活動を経験することにより、自然の物に興味を持ち、探求する心が育ってきました。またサッカーや英語で遊ぼう、わらべうた、また木工製作を体験させていただきました。これまで積み上げてきた取組をさらに充実させたことにより、子どもたちの興味・関心が引き出され、自ら学ぼうとする意欲や心情、態度がさらに育ってきました。

【来年度に向けて】

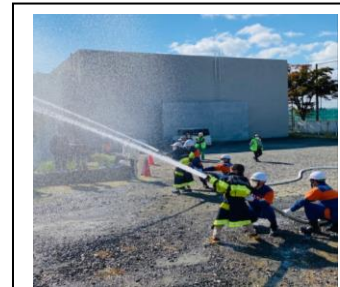
コロナ禍の中で昨年に引き続き幼小の連携ができなかったため、地域の方のご協力を得て、幼小連携の取組の強化とともに、地域の方々と交流していきます。また、広い園庭で体力づくりにも取り組み、園庭での遊びの中で、子どもたちが自ら学び、考え、行動するやさしくたくましい子どもの育成を目指します。

めざす子ども像 **確かなつながりの中で自ら学び続ける心豊かなたくましい子**

取組目標 「地域を守る人づくり」を目指し、学校・保護者・地域各種団体の連携をより一層促す

【今年度の取組紹介】

「地域を守る人づくり」を目標に掲げながら、コロナ禍の状況下防災フェス（防災訓練・教育）を十分に行えず、数年ぶりの開催となりました。新しい学校施設を利用し、様々な避難訓練・防災体験の場面を設定し、地域住民と子どもたちが共に体験できました。10月30日『奈良市総合防災訓練』『右京・神功地区合同自主防災訓練』と共同運営で①「避難者受付」「救護所」②「防災食展示」「防災教育パネル展示」③「消火訓練」④「避難ルーム(簡易)」⑤「防災グッズ手作り体験」⑥「炊出し訓練」⑦「マンホールトイレ(展示)」「車いす体験」⑧「アルファ化米おにぎりづくり」⑨「テント・車中泊区画整備」など各種の役割を避難者に作業分担しました。『避難者はお客様ではありません!』を大切にし、子どもたちも「防災グッズ手作り体験」「アルファ化米おにぎりづくり」「消火訓練」などに積極的に取り組んでいました。晴天に恵まれ、家族で地域をつなぐ防災体験を楽しむ日となりました。



平城分団指導による放水体験



豚汁炊き出し大人気

【今年度のまとめ】

- ①計画していた事業はほぼ実施でき、特に新しい図書室のためにボランティアがミーティングを重ね、支援システムの構築を進めました。また新たな通学路の見守り活動の連絡体制のために細やかな打合せの会合を持ちました。
- ②小学校の授業支援に多くのボランティアの協力を得ることができました。
- ③地域と連携した防災教育（防災フェス）の取組イベントの復活開催、『草刈り作業』『落ち葉清掃』の児童、生徒の多くの参加はボランティア意識の活性化を感じました。
- ④地域ボランティアの登録参加は維持され、地道な活動が必要に応じ継続されました。

【来年度に向けて】

- ① 地域の様々な世代に適応した広報活動を細やかに行い、ボランティアの募集に繋げるために協議会のホームページを活用、広報紙も適時発行します。
- ② コーディネーター間の連絡・会話を密に、ボランティアの中でも役割や作業分担を明確にし、活動能力を上げていきたいと思えます。子どもたち、教職員、保護者の声を事業に反映し、実行していきたいと考えています。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける**心豊かなたくましい子**

取組目標

地域とともに心を耕し、夢を育む「ならやまっ子」**【今年度の取組紹介】**

○落ち葉清掃

令和4年12月17日(土)にならやま中学校区で落ち葉清掃をしました。前身の平城西中学校区としても、毎年12月に落ち葉清掃に取り組んでいました。しかし、コロナウイルスの影響でなかなか大勢で取り組む活動ができずにいましたが、今年度は小中一体型のならやま小中学校になってコロナ禍前よりもさらに参加者の範囲を広げ、実施することができました。これまでは地域コーディネーターと中学校生徒会が中心となり、神功小学校と平城西中学校、神功こども園に呼びかけて実施してきました。今年度はそこに、右京地区の児童と保護者、さらに社会体育チームが参加し、幅広い年齢層の参加者が寒さに負けず地域の美化活動に参加しました。

ひたすら溝さらいに励む生徒、満杯になったゴミ袋を回収して回る生徒など、地域貢献する中学生のたくましい姿がありました。生徒たちは自分たちの担当場所をきれいにするはもちろん、ほかの参加者とも声を掛け合って協働する姿がありました。地域の皆さんと交流しながらの作業で「ありがとう」と言ってもらえることで、この取組が生徒一人ひとりにとって地域の一員としての自覚をもつ機会となりました。

**【今年度のまとめ】**

○今年度はより多くの方に参加いただける活動ができて、学校や地域がにぎやかになりました。

○年間を通してさまざまな分野で活動いただいたボランティアさんの紹介ができて、子どもたちと地域の皆さんの距離をより近づけることができました。

【来年度に向けて】

心の通い合いを大切にし、持続可能な取組の計画と実施をさまざまな人たちに参画いただきながら考えていきたいです。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける 心豊かなたくましい子

取組目標

地域とともに心を耕し、夢を育む「ならやまっ子」

【今年度の取組紹介】

○防災体験学習

北消防署の協力を得ながら、各学年の発達段階に応じた系統的な学習を進めています。また、教職員についても校内研修として救急救命法研修を実施し防災意識を高めています。

毎年行うことによって、児童の防災や地域の一員であることの意識が高まり、地域で行われる防災訓練への参加にもつながっています。



○授業支援活動

新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を講じながら、本年度はプール学習や家庭科実習を再開しました。児童の安全補助として多くのボランティアの方に協力いただきました。

また、世界遺産学習や福祉体験、能楽体験等でのゲストティーチャー等、専門性を生かした実技披露や児童への指導助言等をいただき、児童が本物にふれるよい機会となりました。



【今年度のまとめ】

- 新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、感染対策を講じつつ、できる事業から実施したところ多くの地域ボランティアの方や保護者の協力を得ることができました。
- 消防署の協力も得て、各学年で系統的に取り組んでいる防災学習や地域の防災訓練への児童の積極的な参加等を通じて、防災や地域の一員であることの意識をより一層高めることができました。
- 見守りボランティアや図書ボランティア等の地域の方々の学校支援活動が、学校力を高める大きな一助となっています。

【来年度に向けて】

- 地域・家庭・学校のつながりを深める取組を進め、子どもたちには自分の住んでいる町の魅力についてより知ってもらいたいと考えています。

めざす子ども像 **確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かな子****取組目標** **地域の人、環境に親しみを持てるような事業内容の充実**

【今年度の取組紹介】

おはなしの会

新型コロナウイルス感染症と共存し、新しい生活様式が定着しつつある中、今年は3年ぶりにおはなしくれよんと、右京おはなしの会の方によるお話の会を実施しました。

人形劇を見た子どもたちは、人形が動く様子に惹かれ、その表現方法に興味を持ちました。そして、普段の遊びの中でも、友達とペープサートを作ったり、大好きな絵本で表現あそびを楽しんだりする姿が見られるようになりました。

また、お話の会を通して地域の方に親近感を感じることができたようで、地域の方からは「園外で会う機会があると、挨拶してくれる子が増えた」「また来てねと声をかけられた」などの声をいただき、地域の方とのつながりの中で育っていることをうかがうことができました。

おはなしの会以外にも子ども達は菜園活動や花壇整備などで、地域の方が来てくださる機会をとっても楽しみにしています。地域の方とのかかわりの中でいろいろな刺激を受け、多様な経験ができるように、これからも地域の方とつながる活動を行っていききたいと思います。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが従来の生活様式に戻せる部分もあり、久々におはなしの会を実施し、地域の方との活動を前進させることが出来ました。また環境整備事業と一緒に活動し地域の方に声をかけてもらうことで親しみを持ったり、子どもの活動の様子を認めてもらうことでより意欲的に活動したりするようになりました。子どもたちは地域とのつながりの中で心豊かに育ってきています。

【来年度に向けて】

地域の方とかかわりを持てるような取組の見直しを行いながら、園の現状に応じた保育内容を実施できるようにしていきたいと思います。また、多方面の教育支援をボランティアの方に協力して頂けるように、活動内容などをホームページ等で知らせ、より多くの方への理解につなげたいと思います。

めざす子ども像

確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かなたくましい子

取組目標

地域の方との関りを通して、自然の面白さや美しさを感じたり、身近な人に親しみ「やりたい！やってみよう！」と思う意欲を育てていく

【今年度の取組紹介】

☆おはなしの会

今年度も“右京おはなしの会”を開催しました。この2年間は開催時期を見合わせることもあり予定数の8回をすべて開催できていませんでしたが、今年度は無事に8回すべて開催することができました。開催するにあたっては前年度と同様、開催時間を短くして消毒を行いながら歳児級ごとに会を進めました。おはなしの会では、あたたかい空気間の中、子どもたちの歳児級に合わせた内容で行っていただきました。また、季節に合わせた内容のお話や歌もあり子どもたちは、おはなしの会の世界に引き込まれていました。



☆運動あそび

社会環境や生活様式の変化から現代の幼児は身体を動かして遊ぶ機会が減少しているということを踏まえ、今年度は、体操講師による運動あそびを10回開催しました。サーキット遊びやドッチボールなど楽しく体を動かす遊びを通して基礎的な体力や身体能力を発達させ、様々な活動への意欲につなげる機会となりました。



☆野菜の苗植え・収穫

地域ボランティアの方に来ていただき、3、4、5歳児の園児とサツマイモの収穫を行いました。掘り方を教えてもらいながら、収穫した芋を使い、園庭で地域の方とサツマイモパーティーを行いました。玉葱の苗植えも行いました。

☆プール清掃

子どもたちの午睡中に職員と地域の方と共にプール掃除を行いました。5月に行った玉ねぎの収穫の際、地域の方から『今年プールするの？プール掃除するなら来るよ』というお声をいただき始まったプール掃除。職員と和気あいあいと話しに花を咲かせながらプール掃除を行い関係を深めることができました。



【今年度のまとめ】

今年度は、地域事業に携わってくださっている方々に許可をいただき、園に入っすぐの掲示板に地域事業の紹介や、地域の見守り活動のチラシなど掲示すると共に、活動に携わっていただいている方々の顔を覚えていただけたらという思いから顔写真の掲示を行いました。また、毎月どんな活動をしているかも掲示することで、地域の方々との関わりを子ども伝いや連絡機能アプリケーションだけではなく、掲示することで見ていただけるように工夫しました。今後も継続していきたいと思ひます。また、今年度もコロナ禍の中でしたが対策や、環境、時間を工夫しながら昨年度に比べ、充実した活動ができたように感じています。

【来年度に向けて】

来年度も、今年度行った活動を継続していきながら、コロナが5類になるということも踏まえ、出来る活動範囲が広がっていくと共に子どもたちにとって地域との交流をより一層深めて行きたいと思ひています。また、地域の方と、右京こだまの会（保護者会）の方々と話し合いながら、園を見ていただける機会を増やし、園を開いていきたいと思ひています。

めざす子ども像 **人との出会いを通して****地域で学んだことを誇れる子ども**

取組目標

多様な世代の地域住民の絆がつながるようにする。安心でのびのびと自分を発揮できる環境をつくる。顔が見え、声を掛け合える地域を目指し、それぞれの防犯防災意識を高める。次世代を担う若者を育む環境をつくる。

【今年度の取組紹介】

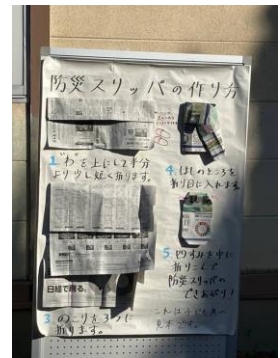


<大学生参画事業> 奈良女子大学、奈良教育大学の学生3名を地域教育協議会のスタッフとして受け入れ、中学校で開催の「夏期補充学習講座」「しぶ柿に学ぶ事業」のワークショップ、「さわやかフェス 2022」を開催しました。

日々の学業が忙しい学生さんとはSNSを使ってワークショップの準備・行程等を情報共有や意見交換をして当日に備えました。

ワークショップでは、参加する子ども達を笑顔で迎え様子を見守りながらも丁寧に柿の扱い方や手順などを指導していました。

さわやかフェスでは防災工作とクイズの担当をし、参加者に分かりやすい模造紙の掲示物を事前に作成しました。中学生とは年齢も近いので兄弟のように仲良く談笑しながら協力して行事進めていました。また防災の取組に興味を持ち、自ら熱心に参加者と一緒に学んでいました。



【今年度のまとめ】地域の大人ばかりのところに大学生が加わることで、活動に活気と笑顔が増えました。コーディネーターやボランティアとワークショップの準備等をしていても機敏に動いてくれるのでスムーズに作業をすすめることができました。

事業に参加した生徒や児童にも、年齢が近いと親しみやすいので質問等もしやすいようでした。教員を目指す大学生を地域教育協議会に受け入れ、活動をともにすることで、学校や子ども達のためにボランティアなど地域の協力を体感してもらい、将来に経験を活かすことができたらと思います。

【来年度に向けて】大学生参画事業による大学生の受け入れは学生にとっても協議会にとっても良い事なので、次年度も引き続き事業を継続していこうと思います。

コロナ感染対策であったり学生が多忙であったりとなかなか企画会議の段階で顔を会わせて出来なかったのが、若者の意見を取り入れて事業を充実させたいです。

「しぶ柿に学ぶ事業」は先人の知恵を次世代につなぐものなので、子ども達にわかりやすく伝えていけるように学生と工夫していきたいです。

めざす子ども像 人との出会いを通して、

地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標 多様な価値観と接する中で、自主的に行動し、地域に誇りを持ち、貢献できる生徒を育てる。仲間と積極的に学び高め合い、豊かな感性で、自分の思いを伝え、社会で自律的に生きることができる人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

毎年恒例となっている花植えを今年も令和4年7月に2年生、12月に1年生が、地域やPTAの方々と共に行うことができました。生徒たちにとって心に残る行事となりました。その後も生徒たちは仲間と共に協力し、お花を大切に慈しみ育てる取組を行いました。地域で決める学校予算事業が子どもたちの情操教育に繋がっていることを認識でき大変嬉しく思います。来年度も引き続きこの取組を行いたいと思っています。

今年度は3年ぶりに寺子屋事業を再開できたことも大きな自信となりました。地域ボランティアの方々の協力で子どもたちの基礎学力定着、学習に対する意識も向上しました。

その他、読書活動推進事業、防災体験活動、夏休み補充学習事業、仕事の専門家から学ぶ事業、障がい者・高齢者理解・体験事業などの取組もすることができました。

来年度も更に積極的な取組を進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



【今年度のまとめ】

今年度もコロナ禍の中何ができるかを地域と学校が全力で考え知恵を出し合った1年でした。コロナ対策に関して少しずつ分かってきたこともあり、より積極的に行事を進めることができたと思います。こうした連携を通し、学校と地域の絆がより強まったと感じています。

地域の方々と共に行った花植え、図書室の環境整備と整理、図書室開館の工夫、防災食作り体験など、コロナ禍の中であっても地域と学校が共に計画を立て、より前向きに積極的に取り組めたことは、二名中学校区にとって大きな自信となりました。地域の方々や学校の思いは、確実に生徒たちに伝わり成長の糧となっています。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染拡大防止対策と並行していかに行事を行っていくのか、これまでの本校の地域の方々と共に創り上げた良き伝統をどのように継承していくのか等まだまだ課題はあると思いますが、これまでの地域の方々と協力連携した活動に自信を持ち、前向きかつ積極的な取組を遂行していきたいと思っています。

めざす子ども像

人との出会いを通して、

地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

- ・地域の方々やゲストティーチャーの支援のもと本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる児童を育てる。
- ・読書活動等を通して、読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・校内の「あいさつ運動」に加え、登下校時、地域の方々と元気にあいさつを交わすことで地域との関係を深めるとともに、自尊感情やコミュニケーション能力を高める。

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、活動方法について、地域コーディネーターと検討を重ねました。そして、子どもたちや関わっていただく方々の安全を第一に活動を進めました。

教育支援事業として、家庭科等実技教科をはじめニーズに沿って学習支援に入っていました。きめ細かな支援をいただき、子どもたちは安心して活動することができました。今年度はゲストティーチャーから直接学ぶ機会も設け、体験から豊かな学びが生まれました。

また、図書環境事業として、図書修復や図書室環境を整備していただきました。子どもたちの読書への興味がより高まり、言語力育成につながりました。

多くの場面で地域の方に支えられ、教育活動の充実につながりました。



【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、工夫をしながら子どもたちと地域の方が出会い、活動することで、子どもも大人もこの地域での存在意識を感じることができました。学校と地域が協働して、「本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる子どもを育てる。」という目標に向けて、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有できました。

【来年度に向けて】

学校と地域がねらいを共有し、協働して、本校の「めざす子ども像」「取組目標」を具現化できるように努めたいと思います。状況に応じた内容や取り組み方の改善を図って、継続可能な事業の展開をめざします。

めざす子ども像

人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

見守り等に感謝する心を育て、自尊感情・地域への愛着を醸成する
 地域の人と関わる活動を通して、様々な人との関わり方を学ぶ
 環境整備を通して、活動の意義や自分のできることに気づき、行動する

【今年度の取組紹介】

□地域の方々との交流

二名小学校では、地域ボランティアの方に教育活動を支えていただいたり、多くの学年で地域人材をお迎えしての授業を行ったりしています。コロナ禍ではありますが、行い方を工夫し、昨年より多くの地域の方との交流ができました。

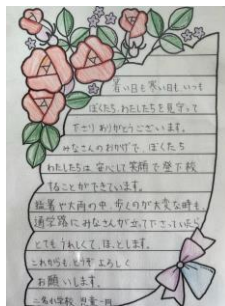
(今年度の授業)

- ・ 絵手紙教室、富雄川についてのお話を聞く会、どんぐり工作教室、声楽出前教室

子どもたちにとっては、地域の歴史を知ったり、地域で活躍している方々の存在を知ったりすることができる貴重な機会となりました。地域の方々も、コロナ禍において子どもたちとの触れ合いが減ってきている中でこのような機会があることはとても良いことだと、喜んでおられました。

□地域の方への感謝の気持ちを形に

二名小学校には、見守り活動団体がたくさんあります。暑い日も寒い日も、子どもたちの安全のために見守り活動をしてくださっている方々へ、感謝の気持ちを込めた贈り物を制作しました。コロナ禍にあつて子どもたちが直接お渡しすることはできませんでしたが、自分たちを見守って下さっている方々がいることを実感する良い機会となりました。



左：富雄川の歴史を聞く会
 右：見守り活動をして下さる方々への贈り物

【今年度のまとめ】

コロナ禍だからこそ、地域の方々とのつながりが薄れないように工夫して様々な活動ができました。地域の方々にとっても、二名小学校の子どもたちとの交流の機会があることがとてもうれしいとお言葉をいただきました。

【来年度に向けて】

二名小学校には、子どもたちの安全を見守ってくれる方々、学びを支えてくださっている方々がたくさんいます。地域の昔の様子を聞く機会や、地域の方々がもっている技術にふれる機会は、子どもたちの学びをより豊かなものにしてくれます。来年度も引き続き、地域の方々とのつながりを密にし、地域の方々を学校にお招きする機会を増やしていきたいと思ひます。

めざす子ども像

人との出会いを通して**地域に学んだことを誇れる子ども**

取組目標

人と関わることを喜び、楽しく活動する子どもの育成**【今年度の取組紹介】**

保育支援事業 《 二名おはなし会 》

未就園児親子や園児が地域の方と一緒に、ゲストティーチャー（二名おはなし会）から、パネルシアターや素話、ペープサートなどをしていただくのを見たり聞いたりしました。毎回、「今日は、どんなお話かなあ」と楽しみにしていました。抑揚ある語りに引きこまれ、お話の面白さを感じることができ、聞く力や想像する力につながりました。



環境整備事業

地域のボランティアの方と一緒に、花壇やプランターに季節の花を植えました。花の苗や球根を丁寧に植え、毎日の水やりや肥料をあげる事などの世話が必要という事を教えていただき、命の大切さも学びました。色とりどりの花が咲き、和やかな優しい気持ちになりました。

**【今年度のまとめ】**

- ・コロナ禍の中で感染拡大防止対策を行いながら、昨年できなかった事業も行うことができました。子ども達は様々な活動を経験し、地域の方々やボランティアの方々の温かい気持ちに触れ、人とかかわる心地よさや感謝の気持ちを持つことができました。地域の方々の協力を得ての取組は子どもたちの豊かな学びにつながり、保育・教育の充実を図ることができました。
- ・体験活動事業（お茶会）では、作法やお点前の仕方、お軸、生け花などについて教えていただきました。園児お茶会はご自前で、お茶会参観では、園児達が点てたお茶を、自分の保護者にふるまいました。昼と毛氈を敷いたリズム室はいつもと違った雰囲気、緊張しながらも自分たちで点てたお茶は格別なようで「おいしかった」と感想がでていました。お茶会の雰囲気を味わい、日本古来の伝統文化に触れる貴重な体験になりました。

【来年度に向けて】

園児が減少していく中ですが、地域の教育力を活かした保育内容を工夫し、地域の方々や保護者の協力をいただきながら子ども達が感動体験できる事業を継続して進めていきたいと思えます。

また、各取組で学んだことや感動体験を、日々の遊びの中に活かし、より保育を充実させていきたいと思えます。

めざす子ども像

人との出会いを通して 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

心豊かにたくましく地域の中で生きぬく子どもの育成

【今年度の取組紹介】

《ふれあい交流事業「民生委員さんと遊ぼう」》

民生委員さんが来園し、子どもたちに「こぶとりじいさん」のペープサートを見せてくださいました。お話に合わせてペープサートが動いたり絵が変わったり、歌や効果音などで楽器になる様子に、子どもたちは、お話の世界に引き込まれ、登場人物と一緒に体を動かしたり手拍子をしたりして楽しんでいました。「いろいろな音が聞こえておもしろかった」「こぶが二つになったところがびっくりしました」と感想を伝えたり、お礼の気持ちを込めて手作りのペンダントを渡したりして民生委員さんとのふれあいを喜んでいました。また「ペープサートってこんな風になっているんだね」とペープサートや使われていた楽器に興味をもち、後日、子どもたちの遊びの中で「民生委員さんが使っていたでんでん太鼓をつくったよ」「こうしたら音になるよ」と嬉しそうに見せる姿も見られました。また、5歳児は、ペープサート遊びから「民生委員さんはこんな風をしていたよね」「音を鳴らす人・言葉を言う人、ペープサートを動かす人に分かれてやろう」とクラス全体の活動となり、学期末の生活発表会でペープサートを使ったお話を披露する姿に繋がりました。



《体験学習事業「柿渋染めをしよう」》

地域コーディネーターの方に二名中学校区で取り組まれている「柿渋染め」を教えてもらいました。手作りの紙芝居を見せてもらいながら「柿渋」について教えてもらった後、園庭で一人ずつ白い布を柿渋液につけました。地域コーディネーターの方が染めていく様子を子どもたちに丁寧に伝えて下さったことで「わー！色が変わっていく」「オレンジだと思ったらちょっと違った」と感じたことを話し、柿渋染めに興味をもち不思議さやおもしろさを感じていました。また「教えてくれてありがとうございます」「〇〇さんまた来てね」と地域の方を身近に感じ、親しみをもって関わる姿に繋がりました。染めた布に墨汁で絵をかき園に飾り、保護者の方にも見ていただいたことで「地域にこんな取組があるのですね」と保護者の方々にも柿渋染めについての関心が広がりました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍ではありますが、活動内容や方法を地域の方や、講師の方と相談しながら取り組んできました。環境整備や体験活動、ふれあい交流等は、子どもたちの心を動かし、人と関わる嬉しさや楽しさを感じ、豊かな心を育む機会となりました。また、講師を招き、英語や音楽を使って遊んだり、体を思いきり動かしたりする活動は、子どもたちの興味や関心を広げ、日々の遊びの中に取り入れる姿も見られ、意欲的に挑戦したり、積極的に取り組んだりする姿に繋がっています。

【来年度に向けて】

定着している活動を継承していくと共により豊かな経験となるよう、子どもたちの実態に合わせながら内容や方法を見直し進めていきたいと思えます。また、保護者の方の事業や地域への関心が更に高まるように啓発を行い、園・地域・保護者が繋がりを広げ深めていくことができるよう取り組んでいきたいと考えています。

めざす子ども像 **自らのまちに誇りをもって、
自らのまちのことを語れる子ども**

取組目標 **～守ろう地域のたから 育てよう故郷を愛する子どもたち～**

【今年度の取組紹介】

【大学生参画事業】

今年度も3名の学生をCNの一員として迎え入れ、学校担当司書の指導のもと蔵書整理や昼休みの開館を見守り、学校図書館のより良い活用の仕方・生徒の居場所などをCNと考えました。生徒と相談しながらの季節の掲示・体育大会受付での保護者対応など真摯に前向きに取り組む姿は、将来の教師像を彷彿とさせ、私たち大人にも明るい未来を感じさせてくれました。



【どんぐりプロジェクト】

どんぐりポスト設置2年目の今年、京チュン通信によるプロジェクト告知で地域住民からも大きな協力を得ることとなり、昨年(361kg)の倍以上の814kgのどんぐりが集まりました。子どもたちと一緒に奈良の鹿愛護会に届けることも叶い二重の喜びとなりました。



【広報紙「京チュン通信」】

私たちの事業を多くの人に知ってもらうツールとして年2回発行しました。夏号には5年ぶりに子どもたちのおすすめスポットを、春号では恒例の中学卒業生からのメッセージを掲載。準備から校正、仕分けまで全CNが関わり作り上げています。



【今年度のまとめ】

- ・学校担当司書のサポートをする図書ボランティアがいることで、学校図書室が子どもたちの居場所となり、地域人材を学校教育の一助にすることを継続できました。
- ・「京チュン通信」は子どもたちや地域の皆さんにも好評で発行を心待ちにする人が増えています。
- ・コロナ禍の後の新しい時代を見据えながら活動の輪を広げ、効率的な取組の方法を模索していきたいです。

【来年度に向けて】

- ・来年度も地域・家庭・学校が連携・協働して子どもたちを育成する活動を推進します。
- ・『継続は力なり』をモットーに粘り強く取り組んでいきたいです。
- ・「史跡散策」「授業支援」「京チュン通信の発行」などの活動を地道に取り組み、ボランティアの輪を広げ、サポートが必要な場面で必要な支援ができる組織を目指します。
- ・大学生参画事業を通して、学生を地域CNとして積極的に活用していきます。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、

自らのまちのことを語れる子ども

取組目標

学校を美しく ところを豊かに 挨拶が響き合い

互いの思いを語り合える学校に

【今年度の取組紹介】

○「国際交流事業」として、日本への留学生の方を講師としてお招きし1年生で交流を行いました。
○学習支援活動として、福祉体験の講師、または補助として取組に参加いただきました。また、地域の図書ボランティアによって昼休みの図書室の開館や環境整備等の取組に参加していただきました。

今年度もコロナ禍にあり、例年より少ない機会ではありましたが、生徒たちは終始、地域の方と共に熱心に活動する様子が見られ、地域の一員である自覚が芽生えてきているように感じました。



【今年度のまとめ】

○多くの事業が定着し、生徒や地域にも受け入れられています。

地域の皆さんが温かく見守ってくださり、時には一緒に活動して、生徒たちに積極的に関わりをもってくださいすることで、生徒一人ひとりの心の中に学校愛や地域愛が生まれ、自らの地域、まちを誇れる生徒の育成につながっていると思います。また心にゆとりが生まれ、挨拶がしっかりできる生徒がますます増えてきて、まちでは朝から元気な声が響き、地域の方々との交流の機会となっています。

【来年度に向けて】

○感染症対策に工夫を凝らすなどし、今年度以上に、地域の方との協働による事業を推進していきたいと思います。

○各取組が、生徒・保護者・地域の皆さんに深く浸透していることがうかがえます。

○マンネリの活動にならないように工夫行うとともに、地域の方々に参加してよかったと思っただけの活動方法をさらに模索していきたいと思います。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、

自らのまちのことを語れる子ども

取組目標

命こそ宝、地域が宝。宝を活かそう！

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス感染による感染拡大予防措置を取りながら、地域 CN・ボランティアの皆さんが子ども達の学習活動を支えてきました。

① 図書ボランティア（としょぼん）による活動

- 掲示物作成
- 新書のブックカバー作業
- 本の整理
- としょぼん通信の発行
- 書架の作成 等



② 学習支援

- 福祉体験の補助
- 読み聞かせ
- 七夕飾りの補助 等



【今年度のまとめ】

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により当初の活動計画の変更を余儀なくされたが、感染状況を見ながらできることを地域と共に考え、再開できた活動もありました。

【来年度に向けて】

- ・ 保護者・地域にも活動取組を紹介することで、学校にいなくても活動がわかるように発信していきます。
- ・ 感染予防対策をしながら、「できる事を できる時に できる形で」地域の方と共に前進していきます。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、**自らのまちのことを語れる子ども**

取組目標

**ともに学び、ともに歩み、豊かな人権感覚を熟成する学校
～子どもたちの瞳輝く「ふしなんプロジェクト」の創造～****【今年度の取組紹介】**

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた取組をなかなか思い通りに進めることができませんでした。人と人ができるだけ関わらないように工夫しながら、極力取りやめにならないようにして実施しました。地域行事として伝統文化を学ぶ「天の川の集い」「しめ縄づくり」「干し柿作り」「とんどの集い」は、コロナ禍ではありましたが工夫をして実施しました。地域の方と昔からの伝統行事を体験したり、地域の方とのふれあいを楽しむ良い機会は少なくなりました。また、コロナ禍ではありましたが、地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、薬物乱用防止教室を開催しました。

そのような中で地域の方に、見守り活動や図書室の整備、花いっぱい運動、清掃活動の環境整備に努めていただきました。

毎週、図書ボランティアと図書館司書によるブックカバー貼りや図書室の環境整備、図書コーナーの設置、読み聞かせなど子どもたちが本に親しむ場を作っていただき、読書をすることが楽しいと感じる子どもが増えました。

**【今年度のまとめ】**

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の方との交流を目的とした体験的な活動が計画通りに進めないながらも、地域の方や地域 CN の方々が中心になって、それぞれの行事をあきらめることなく、工夫をした学習環境づくりを通して子ども達の道徳的実践力を養い、自己肯定感を高めることができました。

【来年度に向けて】

新しい学校様式の一つとして、本年度、コロナ禍で培った、様々な形態による児童への学習場面の設定、事前の映像制作による学習場面の設定をさらにステップアップさせ、子どもたちの学びを深める体験活動や環境整備を中心に取組を進めていきたいと考えています。地域の方が学校教育に参画していただけるような学習場面を設定し、ゲストティーチャーや学習ボランティアとして参加していただけるような年間計画の作成を行うとともに新たな人材発掘をしていきます。

めざす子ども像

『自らまちに誇りをもって、自らのまちのことを語れる子ども』

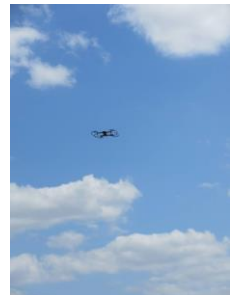
取組目標

「こころとからだで感じ、意欲的に遊び、たくましく生きる子ども」を育成する

【今年度の取組紹介】

六条幼稚園は9月18日に創立50周年を迎えました。地域に根差した幼稚園ということで、古くから地域の方々の深いご理解とご支援をいただいています。奈良市観光大使のシンガーソングライター氷置 晋さんを迎えた50周年記念コンサートでは、保護者や、地域を代表してお招きした学校評議員、ゲストティーチャーの方々と一緒に氷置晋さんの温かい歌声とゆるキャラ「びよっきー」のかわいい動きに和ませていただきました。同日、運動場で子ども達はサーキット遊びとドローンの操縦体験を、大人たちはセグウェイ等の乗車体験をし、大人も子どもも、日常では味わえない感動体験の場となりました。又、運動会や作品展も50周年記念として実施し、保護者の中には自身が卒園生の方もおられ、「自分が小さいときは」と話してくださり幼稚園の50回目の誕生会をみんなで祝いする内容となりました。

今後子ども達には、地域の方に見守られている事に感謝する心を持ち、50年の歴史を感じ、それを継承していく当事者としての自覚を持ちながら地域を誇りに思う気持ちが育ってほしいと考えています。



【今年度のまとめ】

今年度もコロナ禍を日常と受け止め、園生活を楽んでいる子ども達ですが、「菜の花プロジェクト」をはじめとするそれぞれの事業で地域の方と一緒に体験的な活動をしたり、幼稚園の50歳をお祝いしたりする中で、周りの方に感謝する気持ちや地域を誇りに感じる気持ちが育ってきました。保護者や地域、学校評議員の方々からも子どもたちの姿から見た本園の取組に対し高評価をいただいています。

【来年度に向けて】

来年度も地域教育力に助けをいただきながら、子ども達に五感を刺激するような様々な経験をさせてあげたいと思っています。またその取組をホームページや六条幼稚園ニュースで紹介し、六条幼稚園の子ども達の様子をお知らせしていく予定です。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども

取組目標

いろいろな人や身近なものとの関わりを通して、
心豊かでいきいきと活動する幼児を育てる。

【今年度の取組紹介】

<花植え>

環境整備の一つで、地域コーディネーターやボランティアの方と一緒に、園庭の花壇やプランターに花を植えています。子ども達は、「この色がいい」と好きな色を選び、植え方を教えてもらったり、手伝ってもらったりしながら植えています。登園後、子ども達はペットボトルのジョウロで水やりをしながら、生長を楽しみにするとともに、世話をする大切さを学んでいます。



<草刈り>

地域ボランティアの方が、園の周りや園庭の草刈りをしてくださっています。子ども達に話をすると、「ありがとうございました」と感謝の気持ちを伝える姿がありました。ボランティアの方が笑顔で「子どもに元気をもらった」と、とても喜んでおられ、人とのつながりや温かさに触れた一場面でした。

<すくすくクラブ>

民生児童委員やボランティアの方の協力を得て、未就園の3歳児の親子が、来園して活動しています。その中で、年6回実施している『のびっ子クラブ』の講師をお招きし、運動遊びを体験したり、在園児と体操やふれあい遊びを楽しみ、交流する機会をもったりすることができました。未就園児や家庭、園、地域とのつながりを感じることができています。



【今年度のまとめ】

コロナ禍で制限もありましたが、地域コーディネーターや地域の方々の協力のもと、活動方法を工夫しながら、事業を実施することができました。子ども達は、地域の様々な人との関わりや経験を通して、親しみや感謝の気持ちを持ち、人と関わる力や活動への意欲につながっています。

今年度は、保護者の方に『のびっ子クラブ』の様子を観ていただき、「子ども達が本当に楽しそうで、観ているこちらでも嬉しくなりました」「みんなで楽しく体を動かしながら、少しずつルールを覚えていけるので良いと思いました」などの声が聞かれました。園の取組や子どもの様子を知っていただく機会となりました。

【来年度に向けて】

地域の方や保護者の方と連携しながら、人と関わり、人とのつながりを感じられる活動内容の充実をめざし、子どもの豊かな心の育ちにつながるようにしていきたいと思えます。

めざす子ども像・**学びを大切にする園児児童生徒**・**仲間を大切にする園児児童生徒**
・命を大切にする園児児童生徒

取組目標 豊かな心を育み、地域を大切に、たくましく生きる力を持った子どもの育成をめざす。
 学校支援活動の促進と地域全体で展開する「美しく、安全・安心な繋がる地域づくり」。

【今年度の取組紹介】

- ・子どもに豊かな心と生きる力のもととなる確かな学力を育むために、地域の人材を活用し、読み聞かせ活動や体験学習、就学前から英語になじむ取組を行いました。
 - ・地域で安全見守り活動の取組を行い、いろいろな問題点も見えてきました。
 - ・各校園一斉「花いっぱい運動」の展開を秋と春に向け2回実施。
 - ・大学生参画事業の取組を活用し、身近なお兄さんお姉さんと一緒に児童・生徒がアイデアを出し合い「とみにゃんフェスタ」を企画立案から当日運営まで行いました。
 - ・中学生、小学生のボランティア活動（とみにゃんクラブ・とみにゃんkids）は、とみにゃんクラブでは地域のボランティアさんと一緒にプログラミングを小学生に指導しました。
- とみにゃん kids は地元の花苗屋さんで買い付けから値付け販売までを行いうキャリア教育の取組をすることが出来ました。自ら考え行動する力や、異年齢との繋がり、地域の方との交流を行えました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍で思うように計画を進めることが出来なかった部分も多かったのですが、3年ぶりに開催した new フェスタ「とみにゃんフェスタ」は予想以上の取組となりました。

目指す子ども像の「学びを大切に・仲間を大切に・命を大切に」は十分な成果を出せたと思います。また自ら考え、行動するという点でもここで今何をすべきかを考えて行動している場面を多くみることができたと思います。

【来年度に向けて】

コーディネーター不足や、次世代の担い手の育成が大きな課題となりますが、今年度の卒業生たちが学生ボランティアとして活躍してくれました。次年度はこの輪をもっともっと広げられるように広報活動を行い、地域に愛着を持ってもらえる人材の育成を行いたいと考えます。

めざす子ども像

学びを大切にする園児児童生徒 仲間を大切にする園児児童生徒 命を大切にする園児児童生徒

取組目標

子どもたちが地域とのつながりを意識し、地域理解や貢献に努め、主に学習環境整備・取組を充実する。

【今年度の取組紹介】

- 環境整備・栽培事業では、10月に地域の方やPTAの皆様で合同清掃を行いました。朝早くから地域の方を中心に木々の伐採や剪定を行っていただき、美しい学校環境が整いました。今年度も多くの支援をいただき、地域の「花いっぱい運動」と生徒会活動、「とみにゃんクラブ」の活動を行いました。引き続き、温もりのある美しい学習環境づくりを進めることができます。
- 12月に地域教育協議会主催で「とみにゃんフェスタ」を行い、参加した子どもたちから多くの笑顔が見られました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で地域連携や交流する機会がほとんどありませんでしたが、徐々に地域が一体となって開催されたフェスタは、多くの方々の交流の場となり、地域の活性化につながることができました。また、生徒が地域の方々の打ち合わせや当日のボランティア活動を自主的に行い、生涯にわたって必要な多くの経験ができたと思います。



【今年度のまとめ】

本中学校区では、地域行事や地域教育協議会主催の行事への協働体制が定着しておりました。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症により、学校行事の中止や制限により、学校活動を積極的に関わってくださる地域の方々との交流や協働の場がなくなってしまいました。無念さは残りますが、地域と学校が工夫しながら、今できることを考え、精一杯取り組みました。また、中学校区のマスコットキャラクター「とみにゃん」に続き、本校生徒が考案した校区の安全を見守る新キャラクター「とみわん」が加わり、地域と学校が今まで同様に安全に対する意識を高めました。本事業による人的・物的支援により、本校のめざす「美しい学校づくり」を充実させ、推進しました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、地域とともに子どもたちを育成する視点に立ち、本中学校区のフェスタを開催するなど、キャラクターを活かした広報活動を積極的に行います。また、これまで以上に学校と地域が連携し、子どもたちの「学び」「仲間」「命」を大切にする力を伸ばし、主体的に行動できるように工夫しながら、育てていきたいと考えています。

めざす子ども像

学びを大切にする園児児童生徒

仲間を大切にする園児児童生徒

命を大切にする園児児童生徒

取組目標

- ・読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・地域の方々とのふれあいを通して、コミュニケーション能力を高める。

【今年度の取組紹介】

今年度も「人とふれあい 地域とつながる」をコンセプトに計画しました。また、制約がある中で、「実施できること」や、「実施できる方法」、そして「今後も持続可能な事業としての在り方」を模索しました。「チャレンジタイム事業」等の体験学習、「ファンタジータイム事業」の読書活動の推進、「環境整備事業」の教育環境を充実させる活動は、コロナ感染予防に留意しながら行うことができました。学校生活においてコミュニケーション活動の制限があり、リモートによる学習をせざるを得ない中、「リアルに本物を体験できること」、「子どもたちの学びの教育条件を整える環境整備」は、今の本校児童にとって大変貴重なことだと思います。それを地域の方々と共に実施できたことは、大変意義あることでありました。

ファンタジータイム事業 チャレンジ事業 環境整備事業

ファンタジータイム事業として、本の読み聞かせ、図書館司書さんと協働して、図書室の整備を行いました。また、チャレンジタイム事業（地域学習、福祉体験学習）、環境整備事業（花の植え付け）などを地域の方々の協力の下、実施することができました。



5年地域学習 赤膚焼体験

【今年度のまとめ】

社会全体に新型コロナウイルス感染症の影響があり続ける中、どのように活動を実施すればよいか、どのような活動が実施可能かを、地域コーディネーターとともに思案しました。中止とせざるを得ない事業もありましたが、内容・参加する人数などを工夫して環境整備事業を充実させたりできました。どの取組でも、子どもたちからは、「すごく楽しかった。」「地域の方に教えてもらって良く分かった。」「図書館がきれいになってうれしい。」等の声がきかれました。児童に自分が住む地域への関心を深め、地域の中で生きているという意識を持たせることができたと感じます。特に本校の卒業生である地域の方々が、活動の合間に語られる学校での思い出が子ども達には心に響いたようです。また、地域の方々が学習活動に参加していただくことで、本校教育への理解を深めていただくことにもつながったと感じました。

【来年度に向けて】

あたえられた環境の中で、持続可能な事業の在り方を模索しながら、活動内容を深化発展させていきたいと思っています。そして、地域・保護者・学校・行政が協働して教育目標の達成に向かって進めていきたいと思っています。

目指す子ども像

- ・ 学びを大切にする園児・児童・生徒
- ・ 仲間を大切にする園児・児童・生徒
- ・ 命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

◎体験 発見 創造ひろがる 「三碓学習」

歴史ある「みつがらす」地域とのつながりを大切にした学習環境の整備に取り組み、子どもたちが「みつがらす」に愛着と誇りを感じることでできる取組にする。

【今年度の取組紹介】

今年度もコロナ禍の中スタートすることになりました。そんな中でも「三碓の町たんけん」「いのちの学習」「三碓（なら）の祭り」「むかしあそび」「伝統文化～書道」「人権と平和」など各学年で、テーマに基づき、できる形で行おうと考えました。しかし、感染拡大が頻繁に繰り返され地域との交流を含む学習活動が大きく制限されました。

そのような中でも、豊かな感性や情操を育む事業として、1年を通しての「図書ボランティア」によるより使いやすい図書室への改装と「校内緑化」及び「校内環境整備」事業を進めました。また、本年度は急遽プール学習を行うことが決定しました。感染対策を講じながら行う必要があり、監視する教員を配置することが難しい状況だったため、地域から大学生の人材を紹介いただき、指導支援をしてもらうことができました。引き続き行っている3年生の習字や、低学年の昔遊び、6年生の平和学習など、これらの学びをきっかけとして、三碓に愛着をもつ児童の育成に向けた活動となっています。



【今年度のまとめ】

「学び」「仲間」「いのち」を大切にする感性豊かな子どもを育成することは、本校保護者をはじめ地域の方々の強い願いです。今年度は、コロナ禍で例年通りに行えなかった分、どうすればよいか改めて考える良いきっかけにもなりました。地域を愛する方々とともに実体験をした児童は、「みつがらす」という郷土とともにそこに暮らす人々を愛し、誇りをもつことができました。

ボランティアの方々と進めてきた「校内緑化・環境整備事業」が根付き、今年度は地域の力をお借りすることがあまりできませんでしたが、子どもたちが自ら企画・作業を行い、新しく田畑や花壇・寄せ植えを作り、育てました。子どもたちが「主体的に考える」取組を行うことができました。

【来年度に向けて】

実体験ができる「環境」と「人」の提供を目指して取り組んでいますが、来年度も今年のように人との接触が制限されるようであれば、ICTの活用も視野に入れて検討していこうと考えています。また、校内緑化・整備事業や地域と学ぶ三碓学習などは継続的に推進し、「学び」「仲間」「いのち」を大切にできる児童の育成に努めていきます。地域の方々と連携し進めていきたいと考えています。

めざす子ども像

- ・ **学びを大切にする園児児童生徒**
- ・ **仲間を大切にする園児児童生徒**
- ・ **命を大切にする園児児童生徒**

取組目標

ぐんぐん 伸びよう 笑顔 いっぱいタイム

【今年度の取組紹介】

地域の方とのふれあい事業 “サッカー教室”

サッカー教室では、コーチや友達と触れ合って遊ぶ楽しさを感じながら、ボールに片足を置いてバランスをとったり、友達とタイミングを合わせてボールをパスしたりと、ボールに少しずつ慣れていきました。

回数を重ねていくと、試合をする中で「次は負けないぞ。」「さっきのシュートすごかったね。」と、友達と協力し合っ取り組む姿が見られました。また、簡単なルールを守りながら遊ぶ楽しさを感じ、体を動かす心地よさを教えていただくとともに、サッカーを通して「何事にも粘り強く取り組む力」を育むことができました。



地域の方とのふれあい事業 “みんなであそぼう”



元気でパワフルな講師を招き、年に3回運動遊びを思いきり楽しみました。片足を上げてバランスをとったり、一本の線の上をはずれないように歩いたり、いろいろな動物の真似をすることで、体幹を鍛えるコアトレーニングも遊びの中に取り入れていただき、活動しました。

子ども達は“みんなであそぼう”の時間が大好きで、教えていただいたことをずっと覚えており、保育室でも繰り返し楽しむ姿が見られました。取組を掲示して知らせることで、保護者や地域の方が「昨日、家でしていたのはこれだったんですね」「こんなことをできるようになったんだね」と、園での活動と家庭の様子の共有に繋がりました。

【今年度のまとめ】

友達と一緒に、いろいろな方と関わりながら活動する楽しさを味わい、自らやってみたくと積極的に活動することで、主体的に取り組む姿が見られました。また“キッズイングリッシュ”や栽培活動、“木工でネームプレートづくり体験”等もさせていただきました。これまで積み上げてきた取組を継続して行いながら、新しい取組も計画し、充実させてきたことで、子ども達の興味や関心がさらに高まり、子ども達の豊かな学びになりました。

【来年度に向けて】

地域や保護者の方の協力をいただきながら、様々な人との関わりを大切にして事業を継続し、友達と一緒に多様な体験を積み重ねていきたいです。その中で、地域の方との繋がりを広げていけるように、取り組み方を工夫していきたいです。

めざす子ども像

学びを大切にする園児児童生徒**仲間を大切にする園児児童生徒****命を大切にする園児児童生徒**

取組目標

人や自然との豊かなふれあいができる環境を整え、地域とのつながりを感じられる取組を行っていく

【今年度の取組紹介】

・今年度は、読み聞かせ事業として、初めて地域の読み聞かせサークル「泉のたまご」さんに来ていただき、おはなしの会を開催しました。人形を使ってのおはなしや紙芝居、絵本などを音楽や声色を使いながら楽しく子ども達に話してもらいました。子ども達は目をキラキラさせ、一緒にセリフを言ったりしながら聞いていました。「おもしろかった!」「また来てね」など楽しい時間になったようです。

また、山本三歌代先生を招いての初めての運動遊び教室も開催しました。いろいろな動きを通して体幹を鍛える運動や縄跳び、フープなどを使って



の体の動かし方などを楽しみながら教えていただきました。子ども達は体を動かす心地よさや楽しさ、そして大変さなど身をもって感じていたようです。終わった後は「お腹すいた〜」「もっとしたい!」などの声が聞かれました。その後も音楽に合わせて体を動かしたり、いろいろな運動用具をつかって積極的に楽しんだりする姿が見られました。

【今年度のまとめ】

地域の方との交流をしながら、子ども達はいろいろな活動に楽しく参加しました。野菜栽培活動を通して野菜などに触れあったりしながら、食への興味や関心を深めたり、味わうことの嬉しさや食べる意欲などが出でてきたように感じました。また運動遊び事業では、運動遊びを通して、身体を動かす心地よさなどを感じ、自ら体を動かすことを楽しむ姿につながりました。

読み聞かせ事業では、おはなしを聞く楽しさ、いろいろな絵本に触れること、絵本を見る面白さなどを感じてくれていました。環境整備事業では、いろいろな季節の植物を植え、育てる楽しさや自然に興味を持ったり、身の回りを綺麗にする心地よさなどを感じたりすることができました。

【来年度に向けて】

地域の中にあるこども園として、子ども達が地域のことを知り、地域の方々の力を借りながら、子ども達の成長をともに見守っていけるような交流が図れる事業になってと思っています。また学園南こども園での取組を地域の方々に知って頂けるよう広報活動などのほか、地域の行事などにも積極的に参加し、園の保育・教育内容を発信し、子ども達の育ちに共に関わってもらえたらと思います。

めざす子ども像

地域の絆を深めよう～平城の地でいのちを育もう～

取組目標

地域の絆を深めよう ～平城の地でいのちを育もう～**【今年度の取組紹介】**

今年度の新しい試みとして、大根の種まきから収穫、そして、ぬか漬けの完成に至るまでを中学生と共に一貫して行うことに挑戦しました。

初回のことで不安もありましたが、農作物の収穫やぬか漬けのノウハウを待った方々、何より、中学生の「ボランティア部」の全面的な協力のもと、活気に満ちた事業となりました。生徒たちの頼もしい姿に地域の我々もやりがいを感じることができました。

また、奈良の名産である柿を使った干し柿づくりの事業では、大根のぬか漬け同様に生徒と力を合わせ取り組みました。生徒の手によって干し柿用に柿を加工し、学校内に干すことにより食材が完成される過程を生徒らが見学できるようにしました。干し柿のような商品の状態でしか見ない食材を一から作りあげることが、今の中学生にとって新鮮な体験だったと思います。

柿のような名産の食材を扱うことは、奈良の魅力や歴史にも関わることができ、生徒たちにとって地域を見つめ直すよい機会となりました。

**【今年度のまとめ】**

平城地域では、「食と農」を中心に、保存食作りに取り組みました。「日本古来の食文化を大切にしたい」の思いから、多くの工程を経て「農から食」へとつながっていく過程を生徒たちに体験してもらえたと思っています。

小学校では、稲作体験を通じ生徒たちが米作りに勤しみました。平城地区では、田んぼを目にする機会が多く、生徒たちにとって身近な食文化を体験できたと思います。

こども園では、さつま芋の栽培、収穫をおこないました。初めて、収穫を体験した園児たちは、実ったさつま芋見て、興奮と喜びの表情を浮かべていました。

【来年度に向けて】

来年度では、平城の地域性や歴史に目を向けた事業をできればと考えています。また、小中学校やこども園に多数のこども達が在籍しており、こども達が地域を愛し、より安心・安全に生活ができるように、地域や学校園と連携し、意義のある事業をしたいと思っています。

めざす子ども像

地域の絆を深めよう ~平城の地でいのちを育もう~

取組目標

今まで取り組んできた食と農に加え、防災、労働、環境、生と性等、人が人として生きていく上で必要なテーマについての学習を深め、豊かな心を育むとともに地域の一員として地域に貢献できる人材の育成に努める

【今年度の取組紹介】**① 恒例のイモ栽培、今年こそその思いを込めて、「鳴門金時」に決定!!**

秋の平城“食と農”ふれあいフェスタ2022は今年も開催を見送り、秋に向けて今年のイモは、王道の「鳴門金時」に!! 苗の生育が遅れ、心配されましたが、4月27日に生徒会役員・ボランティア部の有志メンバー、地域の方々と教員で協力しながら無事に「鳴門金時」300本を植えました。今年は夏休み前にイモの蔓切りを行い、8月の猛暑の影響がかえって水分の多い畑には最適だったのか、9月14日に生徒約30人ほどの手で見事に育った美味しいサツマイモを収穫しました。

**② お正月の風物詩、「干し柿づくり」に挑戦!!**

11月13日(土)、初めて干し柿づくりに挑戦。立派な江戸柿と鶴の子柿の皮をひたすら剥き、消毒を兼ねて熱湯にくぐらせ、編んだ縄や紐に結び、ピロティに干して、収穫まで約2ヶ月、柿の美味しさがギュッと詰まった干し柿の完成に、参加者の歓声!?があがりました。

**③ 収穫した大根は、究極の保存食、「お漬物」に!!**

サツマイモ収穫と同時に大根の種を蒔いて2ヶ月、太く立派に育った大根は、煮てよし、おろしてよし。その大根を、漬け物にしようと、地域の方のレクチャーを聞きながら、一本一本漬け込んでいきました。1月上旬、浅漬けでもしっかりと黄色に漬かった「平城たくあん」の完成です!!

【今年度のまとめ】

- 今年も新型コロナウイルスの影響で「平城“食と農”ふれあいフェスタ2022」の開催は中止となりましたが、新たな取組として、秋の大根栽培からの漬け物づくりや、干し柿づくりなど、例年にはない、“食と農”を考える機会となりました。また、参加した生徒は、地域の方から栽培方法や柿のむき方、縄への吊るし方など、終始和やかな雰囲気の中で挑戦し、完成する日を心待ちにしている様子が伺えました。「地域の中で子どもは育つ」という、皆さんの思いを、来年こそもっと多くの機会をとらえて実現できるように計画していく必要性を感じました。
- 環境整美事業については、今年度も地域のお力を借りながら職員が中心となり、気持ちよく学習に取り組むことができる環境を作り出していただきました。ご協力、ありがとうございました。

【来年度に向けて】

- 来年度は、さらに生徒たちが主体的・意欲的に取り組む視点を取り入れて、今年度の取組を踏襲しながら、地域と学校の双方が無理のない内容で取り組みたいと考えています。
- 生徒一人一人が平城地域の諸活動に対して主体的に取り組み、継続的な取組にしていくとともに、地域の方の協力を得て、環境美化活動への支援の輪をさらに広げていきたいと思ひます。
- 地域の方との懇話会をもつなど、お互いの「顔が見える関係」を大切にしたいと思ひます。

めざす子ども像 「地域の絆を深めよう」～平城の地で命を育もう**取組目標** 地域・家庭・学校が、栽培・生産・命を育む取組を中心に、協力して学んでいく**【今年度の取組紹介】****◆米作り体験**

地域の方から学校の南に隣接したたんぼをお借りして、5年生が田植え・稲刈り体験を行いました。今年で13年目になります。田植えや稲刈りには、地域の方々や農協の方々が多数応援に駆け付けてくださいました。

**◆サツマイモ栽培**

1年生と6年生が、地域の方にやり方を教わりながらサツマイモを植え、世話をしました。10月には再び1年生と6年生と一緒に収穫をしました。6年生が1年生に教え、手伝う姿を地域の方がサポートしてくださいました。収穫した芋は、放課後子ども教室と共催の焼き芋大会でふるまわれました。

**◆パンジー栽培**

地域の方が中心になり、地域の校・園を彩るパンジーを種から栽培してくださいました。その植替え作業等に中学校・小学校・こども園がそれぞれ携わりました。

小学校では、園芸委員会が中心となり、植替え作業や日々の水やりを行い、地域と共に栽培を続けています。

**【今年度のまとめ】**

地域の方々との協働による様々な栽培体験活動で、達成感や成就感を味わい、また、顔を合わす機会や、自然に挨拶を交わし話すことも増え、コミュニケーション力の育成につながっています。

家庭科学習・図工科学習の支援、図書室や中庭の環境整備への支援など、様々な面で地域の方々のお世話になり、教育活動を進める上でもなくてはならない存在でした。

【来年度に向けて】

各学年の児童により効果的な栽培体験学習を年度当初に計画し、地域の協力を得て実行していきたいです。教職員と地域の方々とのつながりをより深めるためにも、顔合わせや意見交換の場を設定し、密接な関係づくりを図っていきたいです。校内で、地域と共に行う活動をまとめ、より計画的・継続的に行える体制づくりを進めています。実践内容の再度検討を図り、小中一貫教育の立場から子どもや教師の交流をより一層深めていきたいです。

めざす子ども像

「地域の絆を深めよう」～平城の地で命を育もう～

取組目標

食と農の活動を通して、地域の絆を深めよう**～園・家庭・地域が連携し、様々な体験を通して豊かな心と健康な体を育む～****【今年度の取組紹介】 栽培活動**

今年も地域の方と一緒に栽培活動をしました。5歳児は、田植えと稲刈りをしました。有志の保護者の方もたくさん手伝いに参加してください、地域の方に田植えの仕方を教わりながら共に楽しみました。泥の感触を味わいながら、「稲の根元を持って、指で土の中へ植える」と教えてもらった植え方を頑張っていた子ども達。その時、田んぼの中でカブトエビを発見！園庭で発泡トレイの“そらぐみ田んぼ”を作って飼育することになりました。その後、地域の方に田んぼの土も少しいただきカブトエビの情報を聞いたり、保護者も巻き込み生態を調べたりしながら飼育をしていました。田植えを通して稲作に触れるだけではなく、田んぼに住む生物についても学ぶことができ、とても良い体験ができました。



地域の方と一緒に子どもたちも花を植え園内を整えています。今年も地域の方に教えてもらいながら、春には5歳児が花壇やプランターに花を植え、秋には4歳児が植えました。そして2学期の終わりには、地域の方と一緒に中学生と小学生が種から育てたパンジーの苗をいただき、こども園のフェンスに飾るプランターに5歳児が植えました。春に地域の方に教わりながら植えた経験や、個人鉢や畑でも栽培活動をしてきたことを思い出し、丁寧に苗を扱っていた子ども達。地域の方からも「すごいね！」「上手に植えてるね」と褒めていただきとても嬉しそうな子ども達でした。

**【今年度のまとめ】**

今年度も感染対策を十分に行い、事前に相談しながら計画し、昨年度よりも地域の方と一緒に活動することができたように思います。

サツマイモの収穫や田植え、稲刈りを通して食への興味関心が高まり、地域の方への感謝の気持ちをもつことができました。今回はカブトエビの飼育活動にも広がり地域の方と子どもたちのつながりを深めることができました。また、今年度は、昨年度から始まったパンジーの栽培にこども園なりに参加させてもらうことができ中学校や小学校とのつながりを感じることができました。他にも地域の方や保護者の方の協力のもと、お話の会、体操教室、防災教室等を行うことができ子どもたちは様々な経験をすることができました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染症が5類になることを受け、今後の活動内容や方法を地域の方と一緒に考えながら進めていきたいと思っています。園児、保護者、地域が互いに心豊かな体験になるように、今後も活動計画や活動後の振り返りを大切にしていきたいです。その際、職員と地域の方がつながりをもてるように引き続き保育後にも時間を確保していきたいと思っています。

めざす子ども像

地域に対する誇りと、地域を大切にする心 を持ち、自ら考え主体的に行動する子ども

取組目標

飛鳥の地域で生きる喜びを感じる子どもが育つこと。そのために、地域と学校がより密につながる場と機会をつくり、これまで以上に地域で子どもを育む環境を整えること。また、地域の土台となる家庭を支え、地域の中で教師が育ち、学校と関わる地域人材が育つこと。

【今年度の取組紹介】

夏期小中合同研修(8/1)の場を利用し、地域の方々[CS]と小中全教員で、『子どもたちを笑顔にする学校・地域』をテーマに、オンラインも活用した【熟議】を昨年度に引き続き行いました。この熟議を基にして、「子どもたちの自主的な、達成感のある活動」の創造を目標に、コロナ禍で中止となっていた「飛鳥フェスティバル」(10/22)の3年ぶりの開催を実現することができ、まさに「子どもたちの笑顔が溢れる」・「地域とのつながりをあらためて実感する」、貴重な機会となりました。

また、「日本舞踊」に携わっておられる地域人材とのつながりをきっかけに、キャリア教育推進事業として毎年行っているスペシャリスト講演会において、文化庁による「文化芸術による子供育成総合事業」を活用した『日本舞踊体験・鑑賞会』を行うことができました。日本舞踊協会による、我が国が誇る「本物の伝統芸能に触れる体験」を通して、「子どもたちの豊かな感性や生きる力」を育むと共に、「地域に誇りを持ち、大切にする心」の醸成につながる、有意義な時間を持つことができました。



【今年度のまとめ】

『子どもたちの笑顔のために』をスローガンにした【熟議】を2年続けて行うことで、地域・小中学校が一体となって、子どもたちの自主性や達成感を育むための教育活動の創造に結びつけることができました。このような、「子どもたちのためにできることを地域と学校が共に考え、改めて地域の宝である子どもたちにつけたい力、地域を知り、地域を愛し、地域に誇りを持って、健やかに子どもたちが育つような方策を考える時間」を持てていることは、大変有意義でありがたいことです。

【来年度に向けて】

今後も引き続き、地域・学校・保護者が協働・連携して、「地域に誇りを持ち、地域を大切にする」子どもたちを育てていけること、「子どもが自ら考え、主体的に行動できる活動をする事」を大切にしていきたいです。いつもそばに地域の方がいる中で子どもたちがいきいきと活動し、地域の大人も子どももお互いが支え合い、大切に思いあえる関係づくりを大事にしていきたいと思います。

めざす子ども像

地域に対する誇りと、地域を大切にすることを**もち、自ら考え主体的に行動する子ども**

取組目標

自分を知り、自己の考えを育て、それを皆の前で表現し、行動できる力を育てる**【今年度の取組紹介】**

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による制限が続く中でしたが、『「できない」でなく「できる」ことを考えよう』と、学校・地域・保護者が一体となって、様々な取組を行うことができました。

6年目を迎える「あすかスタディ・サポート（放課後学習）」での学習支援も、地域ボランティアの方々や奈良教育大学生ボランティア(大学生参画事業)と協働で推進すると共に、図書室の整備等にも尽力していただくことができました。

また、『子どもたちの豊かな感性や生きる力を育みたい』との願いから、本年度は『様々な本物に触れる体験』も行いました。自然農法による米作りをされている地域人材の方にご協力いただいたの「バケツ稲作り」や、プロのオーケストラから5名の奏者をお招きしての「クラシック鑑賞・体験会」など、普段では体験できない貴重な学びの時間となりました。

さらには、今年度も中学3年生の模擬面接で、地域の方々に面接官としてご協力いただきました。地域の方に生徒の様子を知っていただくことで、子どもたちに付きたい力、今必要な力について丁寧にアドバイスをいただき、地域の方々に見守られて育てていただいていることを、生徒たちが実感する大切な機会をもつことができました。

**【今年度のまとめ】**

「未来を切り拓く力」の育成に向けて地域行事、学校行事、そしてキャリア教育においても、常に地域との協働を基本にすえ、活動に取り組んできました。特に、今年度は「バケツ稲作り」や「クラシック鑑賞・体験会」といった『様々な本物に触れる体験』を行うことができ、「子どもたちの豊かな感性や生きる力」を育む、貴重な学習活動の場となりました。

【来年度に向けて】

今年も「(地域の中で、地域の方と共に) 自ら考え主体的に取り組む」ことをテーマに取り組んできました。その基盤となる「人と関わる力」「自分に誇りを持つ力」「確かな学力」の育成に向けて、これからもコーディネーターと教職員がしっかりと連携し、地域行事・学校行事での地域との協働を深化しつつ、生徒の学力支援や探求的な学習活動の開発などに取り組んでいきたいと思っております。

めざす子ども像

地域に対する誇りと、地域を大切にすることを 持ち、自ら考え主体的に行動する子ども

取組目標

地域に根差した学習活動等において、地域の方々がより活躍できる出会うの場を計画し、児童が様々な地域の方々と出会うことで、地域のよさに気づき地域を大切にしようとする意識を育てる。

【今年度の取組紹介】

今年度も、これまで新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえた対応となりました。しかし、地域の方と常に考えていたのは、昨年度同様、取組をゼロにするのではなく、今、できることを行っていこうというものでした。その方針を踏まえて、昨年度よりもさらに取組を進めることができました。そのいくつかを紹介します。

まず、地域の方と共に、「ならまち探検」や「世界遺産学習」に行きました。本校区は、歩いてすぐの場所に東大寺や興福寺などの多くの世界遺産があることから、地域の方と共に、充実した貴重な時間を過ごすことができました。

次に、オンラインを利用し地域の方と共に研修を夏に行いました。この取組により、地域の方と本校および飛鳥中学校教職員との交流を深めることができました。その甲斐もあり、本校を会場にした飛鳥フェスティバルは、大盛況でした。

また、今年も、本校児童が、登下校等に見守り運動をしていただいた地域の方に、鉢花を作成し、配るなど、感謝の思いを伝える機会をとりました。対面で地域の方と本校児童が向き合う機会を久しぶりにとることができました。



【今年度のまとめ】

今年度もコロナ禍の中、様々な活動の制限もあり、例年通りとはいきませんでした。地域の方々に協力を得ながら、まち探検などの地域学習に対して、地域の方々の参加できる体制をできる限り整えました。また、見守りなどを行ってくださっている地域の方へ感謝の思いを伝える機会も多く持ちました。このことにより、地域の方々の学校への関わりや思いが、子どもたちにも確実に伝わっており、いろいろな機会です学校や地域を良くしていこうという気持ちが、さらに子どもたちにも広がっています。

【来年度に向けて】

来年度も一層、小学校も中学校と同様に、地域の教育力を支え高める拠点として機能できるように連携の強化を更に図り、しっかりと見通しと計画をもって様々な事業を実施していきます。また活動に対する評価をしっかりと行い、見直しや改善等が必要な場合は、話し合いを密接に行い、子どもたちと地域がしっかりと繋がることができる充実した取組となるようにしていきたいと考えます。ホームページによる発信も積極的に行っていきたいと思えます。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

子供達が何に興味、関心があるのか情報を収集の上学校、円と協議し子供たちのニーズに沿った事業を企画し参加の促進を図る**【今年度の取組紹介】**

コロナ感染症対策に留意しながら今年度の活動を行いました。
イオンモール学研登美ヶ丘店でダンスクラブ・合唱クラブの
クリスマス発表会を開催いたしました。

子供達は10月から毎週練習に励み当日は地域の多数の方々の
前で楽しく元気いっぱいに披露いたしました。



ひつじ放牧活動は6月25日より8月8日まで開催いたしました。

子供達は当番日に、ひつじの餌として、各家庭より野菜等を持参し、
糠と一緒に草引きをした草もたべさせてくれました。合わせて
ひつじの健康状態を確認のため糞をチェックし、ひつじ小屋の
掃除をしてくれました。

また、登美ヶ丘幼稚園より園児たちがひつじとのふれあいを
楽しみました。

**【今年度のまとめ】**

コロナ感染症の制限を受けるなか、対策に配慮しながらの活動でしたが、上記のほか前年度活動を縮小していましたサマーセミナーも8講座（郷土・国際・文化・健康等に関する）を開講いたしました。星空観察では天体観測には絶好の日にあたり土星、木星の月、オリオン座流星群の観察ができました。子供達、保護者達から感動の声が多くありました。一方、予定日の天候により中止になったこともありました。

昨年に続き凧づくり、凧あげ大会を実施いたしました。親子で協力して作成した凧あげでは空高く舞い上がった凧に歓声が沸き起こりました。

【来年度に向けて】

子供達だけの事業も大切ですが、親子で共同して参加する事業にも引き続き配慮した企画の立案に努めていきます。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

様々な活動を地域に発信する意識を持ち、できる限り子どもたちが地域とのつながりを感じられる取組の充実

【今年度の取組紹介】

昨年度まで、コロナ感染防止のため、様々な取組を縮小してきましたが、今年度より多くの取組を復活させることができました。ただ、コロナ禍により、行事を見直すきっかけになり、「本当に生徒たちに必要な行事は何か」といったことを再度見直し、取組を進めていきました。まず、「環境整備事業」として、地域・保護者の方とグラウンドの整備（草刈りなど）、生徒会や園芸科学部の生徒を中心に、校内にたくさんの花を植えました。花を育てることにより生命の大切さを学び「心」「人間力」を育成する情操教育として効果的でした。次に「学力向上事業」として薬物乱用防止教室を実施し、薬物の危険性について学びました。「キャリア教育推進事業」では、講師の方に来校いただき、性教育、面接指導、労働に学ぶなどの講座を実施し、人間関係形成能力や課題対応能力を培いました。



【今年度のまとめ】

地域とのつながりを深めるため、様々な取組を実施し、教師と地域との関係づくりができたように思います。特に、環境整備事業では、一緒に汗をかきながらグラウンド整備をし、きれいになったグラウンドを見て達成感を分かち合いました。また、校内に花をたくさん植えることにより、近隣住民の方から「きれいですね」といった声をかけられることが多くなり、そのことがきっかけとなって地域との関係が広がりました。しかし、生徒と地域の方とのつながりは期待どおりにいかず、来年度に向けた課題だと考えています。

【来年度に向けて】

今まで、教師・地域の方が考えた取組（企画・運営）を生徒たちは与えられていました。生徒たちは、当事者意識を持てずに参加することとなり、主体性が育たず、地域への所属感も育成できてなかったように考えます。来年度は、「生徒と地域のつながり」「生徒が自分の地域を自分でよくする」「生徒主体の取組」この3つをキーワードとして、来年度の様々な取組を見直していきたいと考えています。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、子どもたちに地域とのつながりを感じられる取組の充実

【今年度の取組紹介】

《キャリア教育支援》

◆対話型キャリア教育プログラム

このプログラムは、オンラインを活用した個別の対話型授業を通して、自己理解を促しながら自己肯定感を高めることを大切にした取組です。共感して思いを聞いてもらうことを通して、6年生児童が自分の好きなことがたくさんあることに気づき、自分のいいところを発見することができました。夢のカケラを発見して将来を楽しみにできる児童の育成を目指しています。

《体験学習事業》

◆車椅子体験 等

社会福祉協議会からの協力を得て、4年生が車椅子の体験をしました。自走と介助、それぞれを体験しました。自走では対象物に近づくだけでは手にすることができず、車椅子の向きに注意しなければならないことが体験して理解できました。



《環境整備活動事業》 地域の方と共に行う環境整備

◆通学路清掃、図書整備

保護者の方や学校近隣の方に学校環境の整備を進めていただきました。図書室は司書の方々の助言指導をいただきながら、より使いやすい図書室へと変わっていき、利用する児童の数も増え、環境整備の大切さを感じています。

【今年度のまとめ】

- ・コロナ禍のなか、オンラインを活用した取組であるキャリア教育を進めることができました。今後も継続して取り組み、本校のキャリア教育の軸とした活動となるようにしていきたいと考えています。
- ・制限のなかではありますが、貴重な体験活動を実施することができました。これらの貴重な体験学習は、子どもたちの学びのスイッチを入れ、たくさんの気づきを生み出します。

【来年度に向けて】

来年度は学年に応じた様々な体験学習や行事を行えるよう、実施の時期や形態を考えていきます。今後も保護者や地域の方々と連携を深め、さらなる交流や繋がりをもつことにより、心豊かで自分が生活をするこの地域に誇りをもてる登美っ子の育成を目指していきたいと思えます。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える、子どもを育てる

取組目標

- 地域人材を生かした体験的学習の充実と読書活動の推進
- 恵まれた環境を生かした栽培活動や遊び・運動の推進

【今年度の取組紹介】

○創立50周年記念事業

地域の方々と協働して創立50周年事業を実施しました。記念式典に至るまでに、内容や掲示物について地域の方々からいろいろなアイデアを出していただき、子どもたちでそれに取り組みました。

当日は、人数を絞って来賓にもご参加いただき、地域の方から、子どもたちに対して、心に残る話をしていただきました。



○奈良県伝統工芸×東登美プロジェクト

4年生の学習で、奈良県の伝統工芸である奈良筆、奈良団扇、茶釜、赤膚焼きに携わる方々に来校していただき、話をしてもらったり、実演してもらったりしました。子どもたちは、興味津々で、じっと話を聞いたり、活発に質問をしたりして、意欲的に学習に取り組みました。

【今年度のまとめ】

今年度は、創立50周年ということもあり、地域の方々やPTAと話し合いをすることが多く、みんなで相談し、知恵を出しながら、子どもたちの心に残る活動を考え、学校、地域、保護者でできることを進めていきました。結果、とても円滑に活動を進めることができ、協働のよさを感じることができました。

また、今年度は、ESD（持続可能な開発のための教育）を学校の研究として進めたことにより、多くの学年で地域からゲストティーチャーを呼んで学習を進めました。学習の内容だけでなく、それぞれのゲストティーチャーの生き方にも触れ、キャリア教育としても充実した学びができました。

【来年度に向けて】

来年度も学校の研究としてESDを進めるので、今年度の活動を振り返って精選しつつ、さらに地域の方々と連携し、発展的に進めていきたいと思っております。特に、地域にも積極的に発信するような学習活動を取り入れていきたいと考えています。また、コロナ禍で一時中断していた朝の読書タイムも復活させ、地域のボランティアの方々と連携しながら読書活動を推進したいと考えています。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

豊かな心を持ち、たくましく活動する幼児をめざして
—遊びや人との関わりを通して—

【今年度の取組紹介】

◆「感動体験事業」ヒツジ見学

登美ヶ丘北中学校区地域教育協議会が行っている「ヒツジ放牧」を、園児と保護者で登美ヶ丘北中学校に見学に行きました。各家庭で用意したヒツジが好みそうな野菜や幼稚園のクローバーなどを持参し、餌やり体験を親子で楽しみました。「ヒツジの毛って本当にフワフワしている。」「ニンジンあげたらボリボリ音がなった。すごい歯だね。」「クローバーの葉っぱが好きみたい。」と、本物のヒツジに触れ関わることができました。活動の中で様々な発見や驚きがあり、感じたり考えたりする姿が見られました。また、協議会の方や中学校の先生からヒツジの生活の話聞くことで、より一層ヒツジや地域への興味や関心をもつことができた感動体験でした。



◆「閉園事業」「感動体験事業」ドローンを飛ばそう

令和5年3月31日の閉園にあたり、幼稚園の歴史や思い出を綴った冊子を作りました。幼稚園の生活を知っていただく内容の1つとして、地域のゲストティーチャーが年間を通して来園し、ドローンの撮影をしていただきました。12月に行った親子でドローンを操縦する体験では、画面を見て操縦すると「ドローンすごい上まで上がった。」「はやい。」「私のお家はこれかな?」と、画面から地域全体を見ることができました。このことで、自分の住んでいるところを空から見たり、その技術に触れたりすることができ地域の教育力を活かす活動となりました。



【今年度のまとめ】

- ゲストティーチャーを招いての継続した感動体験事業では、人と関わりながら本物に触れ、見通しをもって意欲的に活動することができました。また、新しい活動にも興味をもち自ら積極的にたくましく活動する姿が見られました。
- 幼稚園からホームページや掲示板で様々な様子を知らせることによって、地域の多くの方が幼稚園に関心をもってくださり、幼稚園から地域に出向いたり、また来園していただいたりしたことにより一層地域との繋がりが深まったと感じます。

【来年度に向けて】

令和5年3月31日をもって、登美ヶ丘幼稚園は閉園となります。地域の方の温かなご支援をいただき、園児達は多くの感動と気づきと学びの中で育ち、巣立ってことができました。今後も温かな地域の中で、様々な経験を通してたくましく豊かな心が育っていくことを願います。

ご支援ご協力ありがとうございました。

めざす子ども像

気づく、学ぶ、考える子どもを育てる

取組目標

地域とのつながりを大切にし、子ども達が、楽しさ・温かさ・思いやりを感じられる充実した取組を行う。**【今年度の取組紹介】**

地域の方を招き、年間で3回「お話し会」を実施しました。季節に応じた絵本や素話、手遊びを交えながら子ども達に話をしてくださいました。お話の始まる前にはろうそく立てを飾ってください、ファンタジーの世界に浸りながらお話を聞くことができました。

優しい口調で子ども達に話してくださいるので子ども達もしっかり聞こうとする姿がありました。「今日は何のお話かな」「今日のお話 知ってたね」

「もう1回手遊びしよう」と、お話し会を楽しむ子ども達の様子がうかがえました。



昨年度から継続している「フラダンス教室」では、3人のゲストティーチャーを招き、4歳児の子ども達が参加しました。ゲストティーチャーの方々のフラダンスの衣装やメイクにも興味をも



って見たり、フラダンスを見せていただいたり、一緒にダンスを踊ったりしながら楽しんで参加することができました。また、フラダンスの動き一つ一つには意味があることや大切な人や家族を思って踊ること、太陽や雨や風など自然現象を表す動きがあることなども教えていただき異文化に触れる機会にもなりました。

【今年度のまとめ】

今年度は予め感染症対策を講じた計画を立てていたことで事業もほぼ計画通りに実施することができました。「サッカー教室」は、継続して取り組んできたこともあり、子ども達の生活の中にも根付いてきており「早くサッカー教室したいな」「次の試合のときは絶対ゴール決める」等と、意欲的に参加する子ども達の姿がありました。サッカー教室の中で、どうしたらうまくボールを蹴ることができるか、ゴールを決められるかなど、子ども達なりに考え挑戦していました。また、ボールを諦めずに追いかけたり、転んでも泣かずに走ってボールを追ったりするなどたくましさを感じ子ども達の成長を目の当たりにすることができました。

【来年度に向けて】

- ・地域の教育力を生かした活動を保育内容に取り入れ、豊かな経験ができるようにし、活動内容に刺激を受けやってみようとする意欲や思考力を育てていきたいと考えます。
- ・取組内容をタイムリーに保護者や地域の方に写真を使って伝え、子どもの育ちや事業内容の理解につなげていくようにします。

めざす子ども像 **やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成**
「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す

取組目標 **学校が大好きで、ふるさとが大好きな都跡の子どもを育てる。**

【今年度の取組紹介】

- ・自治会主催の「都跡ふれあいまつり」は、コロナ禍のため飲食ブースをとりやめ、午前中のみでしたが、3年ぶりに小学校にて盛況に開催されました。地域住民のふれあいの場にすべく園、小、中、高、公民館も協力して運営にあたりました。体育館では中学校生徒会による司会のもと、園児のおゆうぎや小中高の楽器演奏の発表が行われました。大学生参画事業の奈良教育大生1名が準備委員会から参加し、感染症対策、会場の設営、当日の入場者の誘導も積極的に行ってくれました。会場の片付けは生徒と一緒に行うことですみやかに出来ました。



- ・本好きの子ども達を育てる為の活動として蔵書の表紙を見せる面展示を増やしました。本を手にする機会を作る為、司書さんと牛乳パックでブックスタンドを作りました。壁面装飾の他に、小学校では子ども達が遊べるコーナー（どんぐりごま作りやすごろく等）を季節ごとにもうけました。読み聞かせはこども園で年度初めより対面、小学校では当初給食時間に放送で行っていましたが、3学期からは全学年教室で行うことができ、より楽しいひとときを子ども達と過ごす事ができました。

【今年度のまとめ】

- ・地域との共同開催のふれあいまつりを実施することができ、住民同士の交流の場が持てました。園児や児童、生徒たちに発表の機会が与えられたことは喜ばしく思います。
- ・活動が制限される中でも、読書推進と栽培体験は、例年通りボランティアのみなさんに参加していただきました。しかし活動が滞る中ボランティア同士の交流が減少し、声掛けに苦労する事もありました。

【来年度に向けて】

- ・年度末の広報紙「みあと」、学期ごとのボランティア募集のチラシは、引き続き発行し、地域への広報活動を継続していくよう考えています。
- ・中学生が地域との連携事業（ふれあいまつり等）に企画段階から参加できるように働きかけていきます。
- ・コロナ禍が落ち着けば、各校園教職員との交流会を開催し、協議会への理解を深めてもらいたいと考えます。
- ・年度初めには各種団体の会議に出向き、協議会の取組を知ってもらう機会を検討します。



めざす子ども像

**やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成
「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す**

取組目標

**人を愛する心や学校・地域を愛する心を育てる。
地域で育つ中学生として、地域の一員としての役割を担える生徒の育成。**

【今年度の取組紹介】

- 毎年生徒たちも楽しみにしている植物の栽培活動。本校の目玉でもある「ゴーヤカーテンづくり」を今年も実施することができました。夏には立派なゴーヤが収穫できました。また、みあと農園で「サツマイモ」を栽培し、たくさんのサツマイモが収穫できました。収穫したゴーヤやサツマイモは、地域の皆様や来客者にも振舞うことができました。また、みあと花壇やプランターには多くの花を植え付けて育てることができました。これらの日々の世話は『いきもの係』が中心になって水やりなどを行いました。
- 読書推進事業では、地域コーディネーターやボランティアの方々との市の図書館司書の方が定期的に来ていただくようになり、図書室の環境整備や書籍管理を行っていただいています。文芸委員が図書室開放を運営する際に役立つバーコード操作や分類ラベルの意味と整理の仕方、ブッカー掛けなどについて、生徒向け勉強会をしていただき、生徒たちが多くの本と出会う機会となりました。校内の掲示スペースにもたくさんの掲示物を工夫して配置していただきました。

【今年度のまとめ】

新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、無理なく実施できる活動を模索しながら事業を実施しました。生徒と地域の方々が協働して行う「みあと農園」「みあと花壇」はじめとする栽培体験活動が取組の中心でしたが、地域の方々と触れ合う機会を多く持ち、共に活動させていただきました。令和元年度から活動をスタートさせた「いきもの係」も徐々に定着してきました。また、ボランティアとして地域活動や学校美化活動に参加する生徒たちの姿が増えてきました。生徒たちの地域に対する理解や関心が高まり、活動を通して自分たちの学校をきれいにしていく美化意識の向上や地域の方との協働につなげることができました。

【来年度に向けて】

- コーディネーターやボランティアの募集活動の協力ができるよう、中学校での支援事業を中心に、学校 HP 等での発信にも力を入れ、よりたくさんの保護者等にも引き続き周知していきたいと思えます。
- 新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、この数年間実施できなかった取組の中で、再開できるものを増やしていきたいと思えます。

めざす子ども像 やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す**取組目標** 世界遺産のあるまち

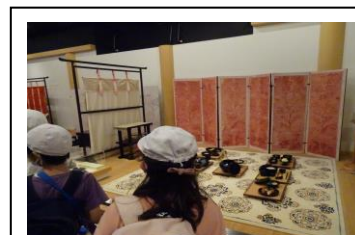
都跡で暮らし、都跡を学び、都跡を誇れる児童の育成

【今年度の取組紹介】

○平城宮跡オリエンテーリング

毎年4年生が平城宮跡歴史公園内を地域のボランティアの方々の協力を得ながらオリエンテーリングをしています。

今年度は平城宮跡歴史公園の奈良県推進事業部の方の協力もあり、より深い学習を行うことができました。半日の活動でありましたが、平城宮跡のさまざまな場所を歩いて回り、それまで学習したと結びつけながら活動しました。チェックポイントではボランティアの方々から詳しいお話をさせていただき、興味をもって取り組むことができました。



平城宮跡オリエンテーリング

○学校図書館支援事業

子どもたちが本にふれる機会をふやそうと、地域コーディネーターや図書館司書の方を中心に数多くのボランティアの方々が学校図書館の環境整備や本の整理を行っています。今年度は読み聞かせ活動を放送で行い、教職員に図書室にあるお勧めの本の紹介のポップを作成していただくなど、学校とボランティアの方々と協力し、取り組むことができました。また、コーディネーターの方には本の紹介だけでなく、選書から関わっていただきました。本に関連した様々なものをつくって学校図書館へ子どもたちが足を運びやすいように工夫していただきました。



図書室のポップ

【今年度のまとめ】

○コロナ禍の影響により、多くの活動が中止または形態を変えての実施となりました。そのなかでも地域の方々は、「子どものためなら」とか「子どもと一緒にいると元気をもらえる」と考え、できることは何かを考え、様々な場面で学校に協力してくださっています。そしてこのような情勢の中でも図書ボランティアや下校指導など、新たにボランティアを志望してくださる方も多くいらっしゃいました。教職員や子どもたちは、このような地域の方々の温かい気持ちに実際に触れることで、地域の方々の思いを知ることができたと思います。こうした地域の方々と子どもたちが一緒に活動する場面が増えるよう、各活動の実施方法を検討していきたいと思っています。

【来年度に向けて】

○今年度も昨年度に続き、コロナ禍の中で行事や活動の中止があり、昨年以上に「今まで通り」が通用しない1年でした。そのような中でも今まで築き上げた「子どもたちから地域の方々が見える」「教職員から地域の方々が見える」という関係を大切にしながら、地域の方々と子どもたち・教職員がつながる場面を確立・拡大していきたいと考えています。

めざす子ども像

やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成**「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す**

取組目標

地域とのつながりの中で、みんなで遊びを創る**笑顔があふれるこども園をめざす**

【今年度の取組紹介】

○環境整備事業

園庭南側の丘の斜面に、地域の方と一緒に芝生植えを行いました。事前に植える場所の土が固くなっていたので、土を耕し、石や雑草を取り、肥料入りの土を入れ、土づくりをするところから子どもたちも行い「草いっぱい取れた」「土がふかふかになったね」と植える日を楽しみにしていました。芝生植えの日には、地域の方と一緒に斜面の上から順番に並べ「芝生って重いね」「ブロックみたい」と友達と一緒に運び、並べ終わると、地域の方が目土を蒔く姿にも見入り「きれいになった」と喜んでいました。水やりをしながら「虫捕りしたいな」「滑って遊びたいな」と楽しみにする姿がありました。9月には芝が茂り、虫捕りをしたり、「気持ちいいなあ」と寝転がりながらいろいろな転がり方を試したりして遊ぶ姿があるなど、子ども達の大好きな場所となりました。地域の方と一緒に自分たちで遊びの場を創るという貴重な体験ができました。



○本物にふれる体験事業

毎年秋に平城宮跡へ地域の方に付き添ってもらい、冬場に餌が少なくなる奈良公園の鹿の為にドングリを届けようと、ドングリ拾いに行っています。昨年拾った場所へ下見に行くと、あまりドングリが落ちておらず、困っていることを地域の方に相談したところ、他の場所を教えてくださいました。当日は一緒に付き添っていただき、「こんなにドングリ拾えたよ」「袋いっぱい重いなあ」と木の下で子どもたちもたくさん拾いながら、地域の方と会話する姿がありました。その日以外にも園に地域や近隣の園からもドングリが届けられ、5歳児が代表してたくさんドングリを鹿愛護会へ届けることが出来ました。



【今年度のまとめ】

- 今年度も活動内容や方法を地域の方と相談しながら、環境整備事業・本物に触れる体験・読みきかせ・栽培活動等に取り組みました。人数等は制限あったものの、地域と共にできる形で実施することができ、子ども自ら環境を創る経験や、地域の方を身近な存在として、人とつながる喜びを感じ、感謝の気持ちや思いやりの心が育ち、豊かな心を育む機会となりました。

【来年度に向けて】

- 引き続き『みんなで遊びを創る笑顔があふれるこども園』を目指し、子ども達にとって豊かな経験となるよう活動を継承していくと共に、内容や活動方法・人数等を見直し、地域・保護者の方と一緒にできることを増やしながら、連携を深め教育・保育の充実につなげていきたいと思ひます。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

地域力によって育成する心豊かな子ども**【今年度の取組紹介】**

今年度から、本校区に奈良高校が移転しました。今まで本協議会と平城高校は、「平城高校生と遊ぼう」を北部会館で行っていましたが、それを継承し、奈良高校と本協議会で奈良高校を会場に開催しました。名前は、校区内のこども園、小学校、中学校、奈良高校に広く募集し、その結果、「わくわくフェスティバル in 奈高」となり、当日まで何度も奈良高校と打ち合わせを重ね準備を進めました。1月22日当日は、体育館の舞台や各教室、運動場、テニスコートを使って24の中学校や高校の部活動、生徒会、各小学校の放課後子ども教室、地域の教室が参加しました。様々な体験ブースがあり、幅広い年齢層が楽しいひと時を過ごしました。校区内の中学生も100名を超える参加があり、先輩である高校生の活動を見てとても良い刺激になりました。来場者は、校区内外含め約1,700名となり、非常に大盛況でした。

**【今年度のまとめ】**

上述のわくわくフェスティバル in 奈高のほかに歴史ウォークも久しぶりに開催できました。当日、ボランティアガイドさんが参加できなくなるというアクシデントに見舞われましたが、地域の方のご厚意でガイドブックを作成しました。当日ガイドブックを見ながら地域の方からの案内も聞くという、とても贅沢な内容になりました。当日晴天にも恵まれ、参加者は170人で例年になく大人数の参加となり、地域の方々も活動を待ちわびていたように思いました。また、図書室開放も欠かさず行い、今年度も地域に愛される図書室を目指しボランティアさんを中心に活動を行うことができました。

【来年度に向けて】

今年度、場所も新たに開催しました「わくわくフェスティバル in 奈高」ですが、今年度の経験を糧に来年度はさらにパワーアップした内容で開催できればと考えています。また他の2つの活動も無事に再開できました。今後も地域の方と共にすすめていきたいと考えます。

めざす子ども像 **自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成****取組目標** **知ろう、地域のすばらしさ！本物に触れる感動を子どもたちに！****【今年度の取組紹介】**

今年度は、中学2年生を対象に、地域の方々をゲストティーチャーに招いて『平城東愛♥再発見！～ゲームでまちのお宝探し』を行いました。このゲームは、地域の「きいて」という声に、地域にある「お宝」を組み合わせて「おせっかい」をするカードゲームです。「きいてカード」には地域の方々のつぶやきや悩みが書かれており、「お宝カード」には、まちにある様々な場所や人、店などが書かれています。5人程度のグループに分かれ、「きいてカード」を真ん中に置き、「お宝カード」を組み合わせて「おせっかい」を1人ずつ言っていく、最後にみんなで「ベストオブおせっかい」を選びました。子どもたちは、今まで当たり前と思っていたこの環境がいかに大切なのか改めて気づく良い機会でしたと感想を述べています。

また地域の方々に本校へ足を運んでもらい、子どもたちと一緒に時間を共有することができた貴重な体験でした。今年度初めての取組でしたが、来年度、再来年度と続けていき、いつか子どもたちがこの地域を自慢できるような大人になればと思います。

**【今年度のまとめ】**

新型コロナウイルス感染症の影響で昨年、一昨年度と思うように活動できませんでしたが、昨年度まで活動を自粛していた命の学習は無事に行うことができました。また、世界遺産学習の筆作りや墨作り、高齢者福祉体験も昨年度から引き続き行うことができました。新たな取組として、上述の地域のお宝探しゲーム、SNSの扱い方などをゲストティーチャーにきてもらいました。子どもたちは、いつもと違う方が先生となり、普段とは違う話をしてくれることに大変興味を持っていました。今後も既存の活動だけでなく、今、子どもたちに必要な内容を地域の方々に協力してもらい取り組んでいきたいと考えます。

【来年度に向けて】

今年度新たに始めた取組については、引き続き来年度も行いたいと考えています。そのため、全ての職員と地域の人たちが気軽にそして十分に話ができるような機会を設けたいと考えます。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

地域とのつながりを意識できる学習環境整備に取り組みながら、子どもたちに地域とのつながりを感じられる取組の充実**【今年度の取組紹介】****(1) 学習支援事業「茶道を体験しよう」**

「茶道を体験しよう」では放課後子ども教室で「お茶」の指導をしていただいている先生に来ていただき、お茶をたてる体験活動をしました。初めてお茶を体験する子や今までに経験した子もあり「茶筌を使ってお茶をたてるのは楽しい。」「少し苦かったけれどおいしかった。」と笑顔で子ども達は答えてくれました。

(2) 学習支援事業「車椅子体験活動」

12月6日の日に体育館で車椅子体験活動を行いました。地域の福祉協議会の方達のご協力により車椅子を借りることができ、実施しました。子ども達は交代で車椅子に乗る人、車椅子を押す人になり、体育館でマットや長机を使って通路を作り、そこを通る体験をしました。マットの上を通るときは押す人は力を出さないと車椅子を押すことができず、車椅子に乗っている人も「バランスを取りながら乗るのはむずかしい。」と感想を話してくれました。

**【今年度のまとめ】**

今年度はコロナ禍になってから3年目になり、少しずついろいろな活動を再開することができるようになりました。茶道の体験活動も昨年度ではできなかったものですが、感染対策を行いながら実施することができました。いろいろな事業で子ども達の楽しそうに活動をしている姿を見ることができました。

また、環境整備事業では、図書ボランティアの方々が頻繁に来校され図書室の本の整理や修理を行っていただきました。いつも子ども達は気持ちよく図書室で読書をする事ができる環境にあります。

【来年度に向けて】

さまざまな事業に地域の方にご協力いただいで子ども達が学習することができていることに感謝をし、地域の一員であることを意識してこの朱雀地区に愛着を持つことができるような取組を進めていきたいです。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

学校・家庭・地域が一体となって子どもの教育にあたり、子どもたちが感動するような体験活動を通じた魅力あふれる取組の継続と地域人材の活用・発掘

【今年度の取組】・・・古代米『さよむらさき』栽培体験

6月、蒔たすきをまいた5年生25名が歌う田植え歌が田んぼに響き渡りました。

本校は毎年『奈良・人と自然の会』の地域の皆さんに協力いただきながら水稻栽培体験を実施しています。今回で14回目となりました。

6月の田植えでは事前学習として古代米『さよむらさき』についての歴史や米の栽培の仕方などを教えていただきました。田植え当日は泥の中に素足で入り、子どもたちは今まで体験したことのない感触に驚いていました。最初は恐る恐る植えていましたが、徐々にコツをつかんでスムーズに植えることができました。

10月には立派な稲穂が実り、稲刈りの季節となりました。秋晴れのもと、せっせと鎌を使って刈り取り作業をしていく子どもたちは6月の田植えの時よりも頼もしく、稲の成長とともに子どもたちの成長も感じることができました。地域方へのお礼の気持ちを込めて、田んぼを囲みながらソーランお披露し、地域の皆さんに喜んでいただきました。11月には5年生が刈り取った「さよむらさき」を給食で出していただきました。地域の方もお招きして全校でおいしくいただきました。



【今年度のまとめ】

水稻栽培体験を通して、栽培することの苦労や収穫した時の達成感、米作りの歴史などを学ぶことができました。田植えから脱穀作業まですべて手作業でし、お米としてやっと手にしたときの感動と喜びは子どもたちの大切な心の糧となったことでしょう。地域の方々をはじめ、たくさんの方々を支えられて生活していることを実感できるよい機会となりました。

【来年度に向けて】

様々な取組は長期的な視野に立ち、事業を継続的に行うことにより大きな成果が得られると考えます。来年度も活動内容の工夫・精選を検討し、本事業を継続していきたいと考えております。

具体的には、佐保台小学校としての学校支援ボランティアの仕組みを定着させ、地域の方に教育活動に参画していただき、教職員と一緒に「チームとしての学校」を創り上げていきたいです。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

子どもたちが地域を知り、地域の人達との繋がりを意識することで、豊かな感性や様々な知識・技術を身につけて成長していける取組の充実を目指す。

【今年度の取組紹介】

今年度も、昨年度に引き続き「防災学習」を4年生で実施しました。左京地区自治連合会・自主防災会にご協力をいただき、地域の自主防災会から2名の講師を招いて、地域における防災の取組について学習しました。

まず、教室で左京地区の取組についてお話を聞きました。地域で定期的に防災訓練が行われていることや、校庭に各自治会の防災倉庫が設置されていることを知りました。次に、運動場に設置されている奈良市の防災備蓄倉庫や各自治会の防災倉庫を実際に見学しました。防災倉庫の中には、非常食や毛布など様々なものが備えてあることを知りました。

今回の学習を通して、子どもたちは自分たちの住む左京でも災害に備えていることを知り、実感をもって防災について考えることができました。

**【今年度のまとめ】**

今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため様々な制約がありましたが、昨年度に続いて様々な学びの機会を設けることができました。5年生では弁護士の先生を講師に招いた「いじめ防止教室」、6年生では本物のアーティストを招き英語でのコミュニケーションで協働する「英語でアート」、被爆体験された方から直接お話を聞いて平和について考える「被爆体験のお話」など、どの機会も直接お話を聞いたり体験したりすることを通じた貴重な学びの機会となりました。

また地域にある左京の森での「花の苗植え」では、今年度もグリーンサポートクラブのみなさんに協力をいただき、3年生が地域のみなさんと花を植えたり育てたりすることができました。

【来年度に向けて】

近年子どもたちの学ぶ環境が変わり、タブレット端末を使用して子どもたちは好きな時に好きな事柄を調べたり学んだりすることができます。しかしながら、直接見聞きしたことや教わったこと、体験することは子どもたちにとって「生きた学び」となります。今後もこの取組を続けることで子どもたちに豊かな体験機会を設け、豊かな感性や様々な知識・技術を身につけさせていきたいと考えています。

めざす子ども像 **自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成****取組目標** **地域と方と連携しながら、子どもたちが心豊かに
生き生きと活動できる子どもを育てる****【今年度の取組紹介】**

・左京の森でのさつまいも栽培

今年度も左京グリーンサポートの皆さんのお力をお借りし、左京の森でさつまいもの苗植えから収穫までの貴重な体験をさせていただきました。

子ども達は地域の方から植え方の説明を聞き、苗を優しく扱いながら植えることができました。楽しみにしていた収穫の日、地域の方に手伝ってもらいながら、つるをひっぱったり土を掘ったりして出てきたさつまいもの大きさに、子ども達はびっくりし歓声をあげていました。この地域の方との栽培活動を通して、野菜に興味や関心をもち、不思議に思ったり感動したりする心が育ちました。また、調理や食べる喜びを味わうこともできました。地域の方が共に活動してくださり、常に見守りお世話してくださることに親しみを感じると共に感謝の気持ちをもつことができました。



・お話しの日

地域の読み聞かせのボランティアの皆さんのご協力により、お話しの日を毎月実施することができました。子ども達がお話に興味をもつように、年齢や季節に応じた絵本を用意していただいています。子ども達はお話が好きになり落ち着いて聞く力も育ってきています。絵本を通して、様々な感情が芽生え、感性の豊かさが育ってきていると感じています。

**【今年度のまとめ】**

- ・地域の方に関わっていただきながら、さつまいもの栽培体験や絵本の読み聞かせなどを、継続して行うことができました。地域の方の温かさや優しさにふれ、情緒面の育ちにつながってきています。
- ・おもしろ理科実験や体操教室・生け花体験などは、専門性に触れる機会となり、興味や好奇心が深まり、意欲向上や自信につながってきていると感じます。
- ・地域の方から、子どもの姿をみて元気旺盛で純粋な好奇心・探求心に無限の可能性を感じるとの声を聞かせてもらいました。

【来年度に向けて】

- ・継続して地域の方々と関わることで、園児の経験や体験を広げることができ、親しみも深まっていくので、来年度も継続して事業を進めていきたいと考えています。
- ・地域の教育力を最大限に活かせるように情報収集に努め、無理のないよう保育に取り入れながら、園児の豊かな経験につながるようにし、地域に根差したこども園を目指していきたいと思います。

めざす子ども像

自信をもち何事にも挑戦する園児・児童・生徒の育成

取組目標

地域の方との連携を図り、子どもたちが様々な人との触れ合いを楽しんだり、体験に参加する楽しさを味わったりする中で、豊かな心を育む。

【今年度の取組紹介】

<女性防災クラブの方による防災紙芝居・消火訓練>

朱雀地域の女性防災クラブの方に紙芝居とペープサートを使って防災のお話をしていただきました。その後、避難訓練を行い、水消火器を使った消火訓練も教えていただきました。

子ども達は保育者が消火する様子を真剣に見ていました。安全に過ごせることの大切さを感じた一日となりました。

<朱雀お話の会>

一年を通して朱雀お話の会の方に絵本の読み聞かせをしていただいています。子ども達は、「今日は何のお話かな」「(腹話術の) けんちゃん、来てくれるかな」と毎回楽しみにしています。朱雀お話の会の方からは「子ども達が目を輝かせて話を一生懸命に聞いてくれ、私達も元気をもらっています」と声をかけていただきました。たくさんの絵本に親しみ、お話の世界から好奇心を刺激し、想像力や感情を豊かに育てています。

<おもしろ不思議理科実験>

地域で活動されている『平城ニュータウン楽しい理科実験研究会』の方にお越しいただき、実験を通して「科学の不思議」に触れる活動を行いました。ホーバークラフトや大空気砲では、空気力を学びました。5歳児は、タコ糸と厚紙、ストローを使って、木登りカブトムシを制作させていただきました。糸を左右に引っ張ると上に上っていく様子に「何でかな?」「次こうするとどうなるんだろう」と興味をもち様々なことへの関心を深めることにつながっています。



【今年度のまとめ】

コロナ禍での事業となりましたが、子ども達が様々なことに出会い、体験し、豊かな感性が育つようにと願い取り組んできました。地域の方の大きなサポートがあり、人とのふれあいや体験を通して子ども達が意欲的に活動する姿につながったと感じています。また、ホームページやドキュメンテーションを通して活動内容や大切にしていることを発信することで、地域と保護者に取組を広めることができました。

【来年度に向けて】

菜園活動をする中で、大切に育て生長を楽しみにする心や、様々な不思議や発見との出会いができるように地域の方と相談しながら計画していきたいです。また、絵本にたくさんふれ豊かな感性を育めるように更に地域の方と一緒に進めていきたいと思っています。

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りを持ち、**自分の意見をしっかりと語れる子ども**

取組目標

歴史・人・自然・もの・未来につなげ守ろう SDGs！

ふるさとに夢と誇りを持つ・故郷の良さを発見！ふるさとの文化をつないでいこう！

地域ぐるみで特産品を作ろう！ようこそ先輩！地域の人に学ぶ職業観！

【今年度の取組紹介】

今年度も感染症予防対策を講じながら、様々な活動を実施することができました。特に、「アルミ缶回収活動」は、地域の方々の手厚い協力のお陰で、27年間途切れることなく活動を続けることができています。この活動は、当時の中学校生徒会の呼びかけで始まりましたが、今では月ヶ瀬地区社会福祉協議会、ボランティア愛歩21、地域住民、学校が一つになり実施しています。今年、5台の福祉機器を寄贈することができ、これまでに寄贈した福祉機器は149台になりました。

また、烏梅を使った紅花染を月ヶ瀬ワーケーションルーム「onoono」（旧給食センター）にて実施しました。今年は参加希望者を募るとともに、当日は保護者や地域の方々の協力により、ワークショップ形式で行い、より多くの人に紅花染の良さを知ってもらうことができました。この活動には、大学生参画事業で活動してくれた奈良女子大生もスタッフとして参加し、子どもたちとも交流を深めてくれました。

その他にも、毎年恒例となっている、こ・小・中合同で行われている梅の実採りやその梅を使った梅干し作り、また、月ヶ瀬クリーン部隊の協力による環境美化活動等が開催され、いずれも子どもたちにとってはふるさと月ヶ瀬の良さを知る貴重な体験となりました。



㊦ 27年目を迎えた
「アルミ缶回収活動」



㊧ 「onoono」で行った
「烏梅で染めよう紅花染」

【今年度のまとめ】

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域と合同で行われる体育祭や文化祭は中止となりましたが、徐々に地域の方々と交流する場も復活してきました。大学生参画事業も2年目となり、学習支援だけでなく、月ヶ瀬の特色ある産業の体験活動や、来年度、本格的に始動する図書整備事業に向けての準備作業等にも積極的に参加していただき、児童生徒や地域の方と一緒に活動する機会を持つことができました。27年目となったアルミ缶回収活動では、多くの方々の協力のもと、これまでと同様の活動が行われ、福祉センター等に福祉機器を5台贈呈することができました。

【来年度に向けて】

月ヶ瀬中学校区では長年、地域の子どもたちを地域で支え、支援する体制が整っています。少子高齢化の進むへき地ではありますが、こども園・小中学校の子どもたちを地域ぐるみで育てる環境を今後も継続して構築していきたいと考えています。特に、ずっと関わっていただいているスタッフやボランティアの方々が高齢化している現状も踏まえ、新しい地域人材の発掘に努めるなど、今までの積み重ねを大切にしながら、取組を深化・発展させていきたいと考えています。

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りを持ち、**自分の意見をしっかりと語れる子ども**

取組目標

「ふるさとに夢と誇りを持とう」ふるさとの支援を受けながら、郷土愛を育て、ふるさとを守り、未来につないでいく生徒の育成

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながらの活動も3年目となり、恒例となっていた活動も少しずつ戻ってきました。3年ぶりに開催した「人権講演会」では、講師先生を招聘し、性の多様性について講演していただきました。また、「ふるさと Walk」では地域の方をゲストティーチャーに迎え、プロジェクターに映し出された映像についてご説明いただきました。多くの方々と子どもたちが直接交流できる機会が増えてきたことを、大変うれしく感じています。

また、長年にわたり継続している「地域花いっぱい運動」や「アルミ缶回収活動」は、地域の方々の多大な協力を得て、生徒数の減少にも関わらず、今年も例年通りの活動が実施できました。

そして、学習支援事業では、今年で3年目となる公民館学習の他、来年度から始まる図書整備事業の準備期間としてボランティアを募り、図書館司書の方にブッカーのかけ方やラベルの貼り方等をレクチャーしていただきました。

今年も地域の方々の協力のお陰で、子どもたちは自分たちが暮らす地域をより深く知ると共に、人・こと・ものとのつながりの大切さを学ぶことができました。



嵩・月瀬、桃香野地区
「ふるさと Walk」

来年度からの始動に向け、図書ボランティアの方が準備を進めてくれました。



【今年度のまとめ】

今年度も、「ふるさとを発見」→「ふるさとの良さを発信」→「ふるさとの産業や文化の継承」へと思いを繋げる活動ができました。特に、本校の伝統でもある「アルミ缶回収活動」は、今年で27年目となりました。この活動は、地域ぐるみの活動として、福祉面や環境面など多方面からも高い評価をいただいております。生徒数も徐々に減少しており、地域の協力無しには継続が難しくなっていることから、活動を支えていただいていることに感謝しながら、これからも各取組を深化させていきたいと思っております。

【来年度に向けて】

子どもたちの放課後や休日の居場所として、月ヶ瀬ワーケーションルームの利用が増えてきていることを受け、これまで行ってきた公民館との連携だけでなく、他の社会施設も視野に入れた活動を模索していきたいと考えています。また、「ふるさと Walk」のように、今までのやり方にとらわれず、できることを追求しながら各取組を進めていきたいと思っております。来年度から、本格的に始動する図書整備事業に向け、ボランティアを募ったところ、多くの方に快く引き受けていただいたことに感謝いたします。

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りを持ち、 自分の意見をしっかりと語れる子ども

取組目標

月ヶ瀬の良さを体感するために、特産品やこの地域にしかない物作りの体験学習や地域に伝わる伝統芸能継承者の方から直に教えていただくことを通して、ふるさと月ヶ瀬をもっと好きになり、将来への夢に繋げる。

【今年度の取組紹介】

月ヶ瀬小学校で取り組んでいる地域学習は、地域の方々に支えられ、成り立っています。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に十分配慮しながら、3年ぶりに手もみ茶体験を実施することができました。これまでの活動対象であった3年生に加え、この2年間実施できていなかった4・5年生も一緒に手もみ茶体験をさせていただきました。

梅寿会との交流会やお話の会は、昨年の経験を生かしながら、それぞれの発達段階に合わせた内容を検討し、学年毎に活動を実施していただきました。恒例となっている伝統芸能の伝承は、保護者の世代から受け継がれている活動となっており、親子二代に渡って継続されていることの重みや地域の方々の熱い思いを感じながら、大切に継承していかなければならないと感じています。また、指導者の方々には、今年度もマスクをつけての発表や、開催日の急な変更等にも快くご対応いただき、発表会が成功裏に終えられたことに感謝します。

月ヶ瀬小学校の児童は、自分たちの暮らす地域の生活文化や習慣、産業、伝統文化に至るまで、幅広く月ヶ瀬を学んでいます。また、発達段階や教科・領域などの学習との関連も考慮しつつ、身近な月ヶ瀬を深く知ることで、児童には故郷を思う気持ちが育っています。小学校での地域学習のこうした学びは、中学校での学びにつながり、さらに発展、発信へと深化していきます。これからも自分たちの地域を見つめ、深めていく取組を続けていきたいと思えます。



☞
3年ぶりに行われた
「手もみ茶体験」

伝統芸能の伝承
狂言「附子」☞



【今年度のまとめ】

小学校では基礎基本の定着を図る学習活動を通して、しっかりとした礎を作ることが大切だと考えています。加えて、月ヶ瀬小学校では児童の発達段階に応じた地域学習の取組にも力を入れています。

児童は地域学習を通して、月ヶ瀬を深く知るだけでなく、人とつながることの大切さを知ったり、地域の方々の温かさに触れたり、コロナ禍の中であってもご支援いただいた方々への感謝の気持ちを持つたりすることができました。ふるさと月ヶ瀬を誇りに思い、月ヶ瀬の伝統芸能や文化の伝承者として次の世代を担ってくれる人材の育成を目指し、これからも取組を続けていきたいと思えます。

【来年度に向けて】

地域の少子高齢化が進み、伝統芸能や生活文化の伝承が危ぶまれています。月ヶ瀬も例外ではありません。伝統芸能や生活文化を伝承する人材の確保が難しくなりつつあり、地域学習をどのように続けていくかについて、地域も学校も一緒に考えていく必要が出てきています。たいへん難しい課題ですが、児童にそれらを伝承していこうとする自覚や意欲が育つように、これからも取組を深化させていきたいと思えます。

めざす子ども像

ふるさとに夢と誇りを持ち、自分の意見を**しっかりと語れる子ども**

取組目標

**地域とのつながりを大切にして地域に親しみ、伝統、産業に触れ興味
関心を持つ****【今年度の取組紹介】**

今年度は、夏野菜の苗植え、田植えから始まりました。地域の方に野菜の植え方や稲の植え方を教わりました。茶工場見学ではお茶の出来る様子を見せてもらいました。茶畑で茶摘み体験もしました。陶芸体験ではお茶会に使う湯飲みと菓子皿作りで陶芸粘土の塊からこねて形を作っていました。お茶会では、自分で作った湯飲みと皿で月ヶ瀬のお茶を頂きお菓子も食べました。手作り湯飲みと皿で頂くお茶とお菓子は美味しく嬉しそうでした。

敬老の日近くになると、福祉施設に手作りプレゼントを届けました。お話の会では、「だっこ」の方と、「108」の方2組に、大型絵本、大型紙芝居、エプロンシアターなど楽しく触れ合うことが出来ました。地域散歩では、龍王の滝を案内していただき、分かりやすく滝のお話を教えてもらいました。最後はしめ縄づくり、地域の方に藁を持ってきていただき一緒に作りました。

**【今年度のまとめ】**

野菜の苗植えからスタートし、お茶摘み・茶工場見学ができ、月ヶ瀬の特産物であるお茶に触れることが出来、茶摘みの機械に5歳児が載せてもらいました。お茶が出来る様子や、お茶摘みが出来たことでより一層地域を知る体験ができました。

陶芸体験、お茶会、お話の会、地域散歩、しめ縄づくりは、年齢に応じて楽しむことができました。地域の方と様々な体験を通して、地域の方の温かさを感じ、親しむことで地域を知ることにつながりました。

【来年度に向けて】

コロナ禍でもできることを、模索しながら感染対策をとり、地域の方と子ども達が元気で活動を続けられるようにしたいと思います。今年度体験したことを来年度につなげ、目標に向けて地域とのつながりを大切にしながら新しいことにも挑戦し、事業内容の充実のため検討し進めていきたいです。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

学校園が積極的に地域に出て地域の方々と交流し、連携・協働していくような取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。

【今年度の取組紹介】

現在、全国的に高齢化が進んでいることに加え特に中山間地域においては、日常生活やコミュニティの維持が問題となっており、奈良市東部に位置する都祁中学校区（都祁地域）においても、ここ数年来、前述の課題が顕在化してきたことから、これらの解決に向け、日々の教育活動を地域からの協力・支援を得ながら進めてきました。

中学校が地域と関わり交流し連携・協働する取組として、「数学講座」「英検対策講座」「雅楽鑑賞」「エイサー学習」「世界遺産学習」「防災学習」「共同美化作業」を行っています。

「世界遺産学習」では、地域ボランティアのご指導を受け、奈良公園での散策をしながら、自分たちの郷土に誇りをもつことにつながりました。「防災学習」では、地域防災の視点から

「防災マニュアル」改訂に関わるなど、万一の災害発生時に備えること大切さについて学ぶことができました。



共同美化作業



防災学習(リモート版)

共同美化作業では、校内外の美化に多くの地域の方が協力をしてくださいました。

【今年度のまとめ】

今年度も感染症対策を十分にとった中での教育活動となり、協議会活動にもさまざまな制限が設けられることとなりました。そのような状況下においても、コーディネーターや委員の方々を中心として、地域の方々からのご協力を得て各事業をすすめることができました。

また中学校区内のこども園・小学校・中学校とも機会を精選しつつも効率的に連携・交流を深めることができ、学びの連続性を踏まえた教育活動を行うことができました。

学校環境整備事業において「共同美化作業」を実施しました。草刈り作業や校内の補修に多くの地域の方にご協力をいただき、昨年度よりも校内美化に努めることができました。

【来年度に向けて】

さまざまな配慮や対策を講じながらの活動となっていますが、地域の方のご支援のおかげで活動が再開されてきました。子どもたちの有意義な地域生活を送っていくために、今後もご支援をお願いいたします。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに**たくましく未来を切り拓く 都祁の子**

取組目標

中学校が積極的に地域に出て地域の方々と交流し、連携・協働していくような取組の開発と充実。地域・保護者・各種団体の参画への働きかけ。

【今年度の取組紹介】

1. 防災教育への取組

「生きる力」を育むことを目的とし、防災教育の一環として、地震・火災を想定した避難訓練を実施しました。地域在住の防災士の方よりご指導をいただき具体的に「命を守る行動」として何ができるかを考え日々、万一の災害発生時に備えること大切さについて学ぶことができました。



防災学習→

2. 学力向上に向けた取組

地域在住の元学校教員の方を講師に招いて「学力補充教室」を開催しました。

「数学」の学力向上を目的として、教員4名とともにチームティーチングや少人数指導によるきめ細やかな学習指導により、基礎学力向上を図りました。



学力補充(数学)



エイサー

2シーズン目となる「英検対策講座」を実施しました。校区内の高校と協働し、放課後に学習会を実施。学習する意欲の高まりがみられました。

地域に関わっていただいている方に自分の思うように書を楽しむ「己書体験幸座」を実施しています。



英検対策講座

3. 伝統・文化理解教育への取組

「保健体育」カリキュラムや「総合的な学習の時間」における伝統文化理解の取組として、エイサー学習(沖縄民謡・舞踊)を行いました。

【今年度のまとめ】

地域の方々のご協力・ご支援をいただきながら、子どもたちの学習意欲の向上につなげることができた。体験的な活動をもとに生きた学力をつけていくことができました。

【来年度に向けて】

来年度においても、さまざまな配慮や対策を十分に講じながら、事業を精査・精選し、効率的・効果的に推進していきたいと考えます。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

地域へのフィールドワークや地域の方々からの聞き取り、体験学習など、地域や地域の方々に学ぶ機会をできるだけ多く設定する。

【今年度の取組紹介】

○森の学校

午前は6年生の計画のもと、学校から県立野外活動センターまで歩いて行き、縦割り班活動を行いました。班の取組は様々でしたが、道中の川に仕掛けを入れておいて生き物を採る班や途中の三陵墓古墳で遊ぶ班もあるなど、日ごろ見ることのない地域の景色や自然にも触れました。



午後は地域の方を講師に招いて、自然の物を使った工作や味噌づくり、センター内の自然の写真撮影といった体験学習を学年ごとに行いました。地域の方から生活の知恵や工夫、技術を直接学ぶことができました。

○蚕の学習

総合「なら」科の学習で3年生が蚕の学習をしました。

「大和高原文化の会」の方々から蚕について教えていただき、実際に蚕に触る体験や桑の葉を食べさせる体験もしました。しばらく学校に置いていただいた蚕がまゆになっていく様子も観察しました。



このまゆからとった生糸でマスコットづくりにも取り組みました。この学習で子どもたちは、講師の方の子どもの頃の話や、都祁地域で養蚕が盛んだったことや昔の暮らしについて学びました。

【今年度のまとめ】

コロナの影響で活動が中止になることが多かったこの2年間に比べると、今年は地域の方々に関わる機会を多く持つことができました。そして、その関わりを通して、子どもたちは、地域の自然や歴史、文化等の良さや自分の生活との関わり、地域の方々の思いを知ることができました。

【来年度に向けて】

今年度の取組を振り返って評価・検証し、新しい視点や活動を取り入れつつも、これまでと変わらず都祁地域全体を学びのフィールドにした取組を来年度も行っていきたいと思ひます。

めざす子ども像

ふるさとでの学びを誇りに

たくましく未来を切り拓く 都祁の子

取組目標

地域とのつながりを感じながら、心豊かで、生き生きと生活する
子どもの育成

【今年度の取組紹介】

○〈サツマイモの収穫・焼き芋パーティー〉

春、畑の先生に教えてもらいながらサツマイモの苗植えをしました。水やりや草ひき等をし、生長を楽しみにし、大切に育てました。収穫当日は畑の先生に掘り方を教えていただき、長いツルを思いきり引っ張り、スコップや手で土を掘っていきました。「見てー大きいおいも」「ちっちゃいのあった」と自分で収穫したことに大喜びでした。後日、焼き芋パーティーをしました。畑の先生はもみ殻、子ども達が拾い集めた落ち葉や枝に煙突を立て焼き芋の準備をしてくださいました。子ども達は前日からイモを洗い、当日は濡れたキッチンペーパー、アルミホイルでサツマイモを包み、「おいしくなあれ」ともみ殻の焚火の中に入れていきました。焼けたもみ殻のにおいの漂う園庭で焼き芋を畑の先生と一緒にいただきました。「いいにおい」「あまくておいしい」「みんなで食べたらおいしい」と笑顔がこぼれていました。地域の方と触れ合う楽しい経験を通して親しみをもち、自分から関わったり「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたりする姿が増えてきています。



○〈おはなしのひろば〉『つげおはなしの会』の方に毎月1回、子ども達へ絵本などの読み聞かせ



をしていただいています。「今日はどんなお話かな」と楽しみにし、お話に聞き入っています。たくさんの絵本やお話に出会い、ワクワクしたりドキドキしたり感動したりするなど様々な感情体験が子ども達の心を育んでいます。

【今年度のまとめ】

地域の方々とともに菜園活動やおはなしのひろば、剣道体験や生け花体験など園だけでは経験できない様々な経験、感動体験ができました。地域の方と一緒に活動をし、褒めてもらったり「一緒に活動できて楽しいね」「ありがとう」と温かい言葉をかけてもらったりすることが喜びや楽しみになり、「心豊かで、生き生きと生活する子どもの育成」に繋がっています。

【来年度に向けて】

地域の方々の協力をいただきながら、地域の方と繋がりを感じ、「心豊かで生き生きとたくましく活動する子ども」を目指して、地域・園・家庭が一体となり取り組んでいけるよう、相互の連携を深め、様々な感動体験ができるよう取り組んでいきたいと思ひます。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自他を大切にし、**自ら学び、主体的に行動する子ども**

取組目標

- ・安全な方法を提案しながら、地域のあらゆるところからの日頃の支援や行事を通して様々な人と関わり繋がることで絆を深める。
- ・自ら発言し行動できる練習体験を繰り返すことで、自信を高め自他を認めて大切に思う心を養う。

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス拡大予防のためビデオ配信となっていました絵本の読み聞かせが今年度は対面での実施ができるようになりました。子ども達の反応が直接伝わるため地域ボランティアの方々と子ども達の距離が近くなり、ボランティアの方々の熱意と参加人数の増加に繋がりました。また、ボランティアの人数が増えたため、読み聞かせの対象学年が1～3年生から1～4年生へと拡大したり、図書室の環境整備が進んだり、良い循環となりました。



図書整備

子どもプロジェクト事業の新たな試みとして行いました「霊山寺ウォーキングツアー」にはあいにくの小雨の中多数の親子連れが参加し、霊山寺の住職より講話をいただき、お寺の成り立ちや地元の歴史を学び、この地の魅力を再発見しました。



絵本の読み聞かせ

【今年度のまとめ】

まだまだ制限はありますが、直接子ども達と触れ合い関わる場面が増え、子どもと地域の方々の距離が少し近づいたのではないかと思います。特に図書ボランティアの方々は毎週活動されていることもあり、お互い顔見知りとなり道ですれ違った時にも言葉を交わすことが増えたと伺っています。

コロナ禍で活動が制限される中、子どもの体験活動を増やすことを中心の課題とし、「フェルトソープの作成」体験や「霊山寺ウォーキングツアー」を実施することができました。

【来年度に向けて】

活動制限が緩和されることを期待し、学校園での活動を支援する中で子どもの体験値を増やし、地域の方との関係を高めていきたいと思っております。協働活動を通して幅広い年齢層の顔見知りを増やし、多様な価値観を知る一助としたいと考えます。

めざす子ども像

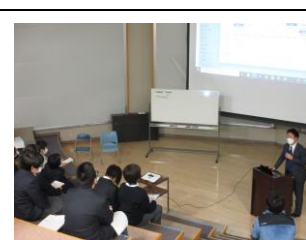
**心身ともにたくましく、自他を大切にし、
自ら学び、主体的に行動する子ども**

取組目標

子どもたちと地域の方々とのかかわりの中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び、地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただく、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。

【今年度の取組紹介】

昨年に続く新型コロナウイルス感染防止対策の中、計画していた事業を工夫しながら進めてきました。特に、中学部においては、生徒の学習環境として本校図書情報室の環境整備に力を入れ、図書ボランティアの方をはじめとして教職員、学校図書館司書の方の連携を密にしながら実施をしました。新しい本が納本される度にブッカー装備をしていただき、本の修理、ブックエンドを利用した書架の表示など、生徒が図書情報室を利用する上で便利のように工夫をこらした作業を進めてくださいました。こうした図書活動推進事業の他、キャリア教育支援事業としては数年お世話になっている先生を講師にお招きし、8年生は職場訪問学習の事前学習として、9年生は進路実現の受験等の対策として、マナー講習会を実施しました。ボランティアで来てくださる方のご都合や学校での生徒の教育課程とうまく時間が合わせられず、今年度は協働での活動が実施できませんでしたが、校内でのボランティアの方の目印であるオレンジ色のエプロンに地域の方を身近に感じたり、地域の方が作成された成果物を目にする事で感謝の気持ちを表す言葉が出たり、微笑ましい場面もありました。



7年生職業人に学ぶ



マナー講習会

【今年度のまとめ】

コロナ禍での事業実施について、どのようにすればできるのかという視点を常に意識しながら計画を進め、地域の方と協力しながら運営できたと思います。コーディネーター会議など、地域の方と打合せを重ねる中で、地域としてめざす子ども像に、コロナ禍においていかに迫れるかを共に考えてきました。毎日の登下校の見守りをはじめ児童生徒の姿を日常的に地域の方が見てくださったり、児童生徒の学習環境についても図書館司書の方とタイアップして読書環境の整備にご尽力くださったりしました。地域の方の熱い思いと子どもに対する大きな期待を今年も改めて感じました。

【来年度に向けて】

コロナ対策の緩和も鑑みながら感染対策を徹底しながら、できることを、方法を吟味しながら実施していく方向で取り組んでいきたいと考えています。子どもの実態をみつめ、地域としてめざす子ども像を共有し、具体的にどのような手立てで事業を実施していくのかを明確に共有しながら進めていきたいと考えています。地域の方からはボランティアを新たに申し出てくださる方もあり、とてもありがたいと感じております。大人の姿を見て子どもが育つような素晴らしい関係を地域の方と教職員とで築いていきたいと考えます。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自分を大切にし、 他者を思いやる子ども

取組目標

地域の方々とのかかわりの中で、子どもたちは人間関係の多様性を学び、地域の方々には学校や児童生徒に対する理解を深めていただき、相互に有益な関係を築くことができる取組を充実させる。

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルスの影響により、子どもたちや、地域の皆さんの安全を第一に可能な限り実施できる活動を模索し実践しました。

図書の読み聞かせの活動では、昨年度は実施できなかった対面での読み聞かせを実施することにしました。子どもたちは絵本の周りに集まらず、自席で聞くという形ではありましたが、年間通して実施できましたし、動画で撮るよりも、子どもたちの表情や反応を見ながら読めることがとても嬉しいと喜んでおられました。

また、環境整備活動では、校舎沿いの学級園の整備を昨年度終えたため、サツマイモの苗植えから収穫までを計画できました。2年生の子どもたちが地域の方と一緒に取り組み、ちょうど教室から畑の様子が見える場所なので、大きくなっていく様子も良く分かり、実際にとても豊作で子どもたちの喜ぶ姿が微笑ましく思えました。

今年度は、3月に隣の畝にジャガイモの種芋をひまわり学級の児童が植えます。毎年、地域の畑で収穫させていただいたジャガイモの販売をする学習をしていますので、来年度は多くのジャガイモ販売できることを期待しています。



サツマイモ収穫の様子

【今年度のまとめ】

環境整備支援、読書活動推進、学習補助等に、多くのボランティアの方が登録してくださっています。コロナ禍のため制約があるなか、工夫をしながら子どもたちと地域の方が出会い、ふれあい、ともに活動することで、大人も子どももこの地域のなかで暮らしていることを意識することができました。実施できない事業もありましたが、昨年度よりは多くの活動ができたため、「めざす子ども像」を共有し、よりよい学びの構築のため時間や思いを共有できました。

【来年度に向けて】

今年度も制限される事業もありましたが、地域の方より「来年こそはもっと役に立ちたい」という温かいご意見を複数いただきました。様々な活動を効果的に実施するため、新しい生活様式に対応する事業の視点を持ち、めざす子ども像を「心身ともにたくましく、自他を大切にし、自ら学び、主体的に行動する子ども」としました。今後も、地域とともに実現できるよう連携をより密にして取り組んでいくことに力を注ぎます。そうすることで、大人も子どもも地域のなかでの有用感を感じられる取組が運営委員会の事業として展開できるように努めます。

めざす子ども像

心身ともにたくましく、自他を大切にし、**自ら学び、主体的に行動する子ども**

取組目標

**地域の教育力を活かした、こ小中連携教育
「やってみたいな」から始まる遊びを探る
～環境構成の在り方について考える～**

【今年度の取組紹介】

◆地域の教育力が現場で活かされている場面としては、茶道教室で講師の先生より、日本の伝統文化を知ることができました。お茶のお点前だけではなく、その季節に合わせた掛け軸、生け花など、本物に触れ、それらの意味や由来などを教えていただきました。経験を通して豊かな心を育み、子どもたちの生きる力にもつながり地域力が大いに活かされた取組となりました。

また、ダンス教室では、子どもの体力作りに着目して、楽しい曲に合わせてダンスを踊りました。この経験からダンスに興味をもつ子ども多くなりました。地域の方と共に体力作りに楽しく参加する貴重な経験となりました。



茶道教室の様子



ダンス教室の様子

【今年度のまとめ】

第三幼稚園から引き継ぎを行い、富雄藍咲学園として今年度初めての事業に取り組んだ結果、一年を通して園児は、様々な経験を重ねることができました。また、携わってくださった講師の方、ボランティアの方、CNの方々からも、第三幼稚園の時に比べ、園児数も多く規模も大きいので、やりがいも大きいという声も聞かせていただきました。地域の教育力を活かして、“心身共にたくましく”という地域の目指す子ども像にもつながる姿が見られたことは、成果として捉えております。

【来年度に向けて】

園と地域とがつながることで、保育教育の質の向上を目指すことができます。今年度、成果として挙げられた事業はもとより、さらなる内容の充実を目標としたいと考えています。中でも、小学校との連携では、この数年コロナ禍の影響により、今年度もまだ思うように進められていなかったこともあり、来年度の課題とします。来年度以降は、地域力を活かした取組の中で小学校との連携が図れるように、今後もCNの方々の力を借りて積極的に課題に取り組んでいきたいです。